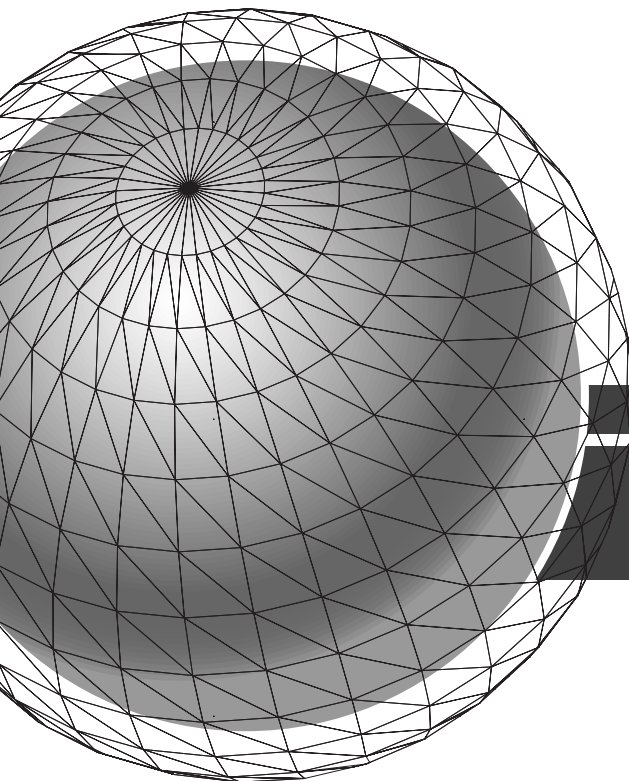




TA/リモートルータ **RTA50i**

取扱説明書



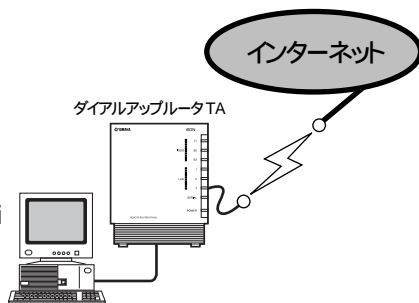
はじめにお読みください

ご使用前に本書をよくお読みになり、本機の性能を十分にご活用ください。
また、本書中の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。

TA/リモートルータ RTA50i MENU

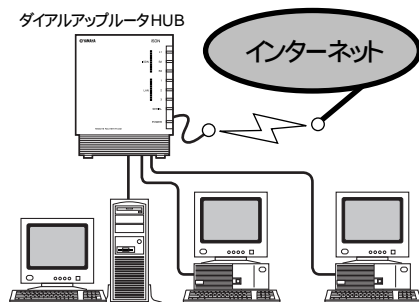
TAコース▶ 第 1 章 1台のパソコンを接続する P.18

パソコンが1台の場合は、RTA50のTA機能でインターネットへ接続します。RTA50とパソコン、ISDN回線、プロバイダとの契約があれば、すぐにインターネットへ接続できます。また、将来パソコンが増えたときには、RTA50iのままステップアップ可能です。



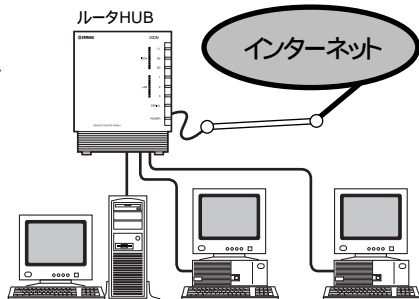
端末型ダイヤルアップコース ...▶ 第 2 章 複数のパソコンを接続する P.40

パソコンが複数台ある場合は、RTA50iのダイヤルアップルータ機能とIPアドレス変換機能でインターネットへ接続します。IPアドレス変換機能（NAT機能）と内蔵HUBにより、プロバイダとの契約は端末型ダイヤルアップ契約のままだと、複数台のパソコンからインターネットへ接続できます。



専用線コース▶ 第 3 章 専用線で接続する P.68

デジタルアクセス回線やOCNエコノミー回線などの専用線で接続する場合は、RTA50のルータ機能でインターネットへ接続します。信頼と実績のYAMAHA RTシリーズルータとして、RTA50は専用線接続にステップアップしても対応可能です。



RTA50i の特長

オールマイティルータ

RTA50iは、"ダイヤルアップルータ"、"TA"、"HUB"、"アナログポート"、"DSU"をすべて内蔵しているので、ダイヤルアップから専用線接続までさまざまなインターネット接続方法に対応可能です。接続方法のステップアップにも、RTA50i はそのまま設定変更のみで使用できます。

簡単設定

付属の"かんたんパソコン設定"でパソコンのネットワーク設定を自動的に設定できます。また、RTA50i には設定のためのホームページ"RTA50i かんたん設定ページ"を内蔵しており、ブラウザで基本的な設定が可能です。

多彩なポート装備

RTA50iは3ポートHUBを内蔵しており、3台のパソコンまでならインターネット接続と LAN 構築を一度に実現できます。またパソコンの台数が増えても、UPLINK ポートで容易に HUB を増設可能です。

アナログポートは3ポート装備しており、今まで使っていた電話やFAX、モデムなどを接続できます。また、サブアドレスや内線機能、フレックスホン、ナンバーディスプレイなどにも対応しています。

シリアルポートのパソコンも LAN にアクセス可能

シリアルポートに接続したパソコンを LAN に接続できる"擬似 LAN 機能"を搭載しており、LANボードを装着していないパソコンでもLANへアクセス可能になります。

停電対応

停電時には、乾電池によるバックアップ電源でTEL1ポートを使用でき、ライフラインとしての電話回線を確保できます。

信頼と実績のルータ機能

多くの LAN システムで採用されてきた YAMAHA RT シリーズ リモートルータの信頼と実績を継承しており、SOHOやLAN、WANなどさまざまなネットワークシステムで安定したルータ機能を発揮します。

重要なお知らせ

通信料金について

RTA50iをダイヤルアップルータとしてご使用になる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。RTA50iをパソコンやLANに接続した場合、RTA50iはパソコンのアプリケーション(メールソフト、ブラウザなど)が送信するデータやLAN上を流れるデータの宛先を監視し、本体に設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。そのため設定間違い、回線切断忘れ、ソフトウェアが定期送信パケットを発信していたなどの場合には予想外の回線使用料やプロバイダ接続料金がかかる場合があります。次のようなケースでは、通信履歴や課金額を時々調べて、意図しない発信がないか、また課金額が適当であるかどうかにご注意ください。

RTA50iを使い始めた時

RTA50iの設定を変更した

パソコンに新しいソフトウェアをインストールした

ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した

RTA50iのプログラムをアップデートした、変更した

その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じたなど

電波障害規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

- ・ 本書の記載内容を一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- ・ 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
- ・ 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本製品の物損の範囲に限ります。予めご了承ください。

説明書のご案内

RTA50i を正しく快適にお使いいただくために、下記の説明書が付属しています。はじめに取扱説明書をお読みになり、設置とソフトウェアのインストールを行ってください。機能や仕様について詳しく知りたいときや高度に活用したいときは、CD-ROM に収録された説明書をご覧ください。



取扱説明書（本書）

RTA50i の代表的な使いかたについて、その設置方法や使いかた、困ったときの対処方法について説明しています。



活用ガイド（HTML 形式）

RTA50i のアナログ電話機能などについて詳しく知りたいときにお読みください。




設定例集（PDF 形式）

RTA50i のダイヤルアップルータ機能を使ってできるさまざまな設定例が収録されています。RTA50i を使って WAN やリモートアクセス環境を構築するときにお読みください。



コマンドリファレンス（PDF 形式）

RTA50i のコマンドについて解説しています。コマンドを使ってより高度な設定を行いたいときにお読みください。

マークの説明書は、付属の CD-ROM に収録されています。PDF 形式の説明書は Acrobat Reader で、HTML 形式の説明書はブラウザでお読みください。付属の CD-ROM には、Acrobat Reader3.0J および Netscape Navigator 4.0J が収録されていますので、お読みになるときはインストールしてお使いください（ P.184 ）。

目次

RTA50i MENU	表紙裏
RTA50i の特長	1
重要なお知らせ	2
説明書のご案内	3
本書の表記について	8
商標について	8
安全にお使いいただくために	9
パッケージ内容の確認	11
各部の名称と機能	12
バックアップ電池の入れかた	15
お手入れのしかた	15
インターネットとルータについて	16

第 1 章 一台のパソコンを接続する

揃っていますか？	18
ハードウェアをセットアップしよう	20
機器の接続	20
動作の確認	21
ソフトウェアを準備しよう	22
Windows95 の設定	22
Macintosh の設定	30
インターネットに接続する	37
Windows95 の操作	37
Macintosh の操作	38

第 2 章 複数のパソコンを接続する

揃っていますか？	40
ハードウェアをセットアップしよう	42
機器の接続	42
動作の確認	43
ソフトウェアを準備しよう	44
Windows 95 の設定	44
Macintosh の設定	50
インターネットに接続する	55
SERIAL ポートのパソコンを LAN に接続する	56
機器の接続	56
Windows 95 の設定	57
Macintosh の設定	62

第3章 専用線で接続する

揃っていますか？	68
ハードウェアをセットアップしよう	70
機器の接続	70
動作の確認	71
ソフトウェアを準備しよう	72
Windows95 の設定	72
Macintosh の設定	80
インターネットに接続する	85

第4章 電話やFAXを接続する

ISDN の付加サービスについて	86
フレックスホンと擬似フレックスホンの違い	87
アナログ機器を接続しよう	88
機器の接続	88
PB (トーン) に切り替える	89
動作の確認	89
フッキングについて	89
電話をかける・うける	90
電話をかける	90
電話をうける	91
内線電話をかける・転送する	92
内線をかける	92
外線通話を他の内線へ転送する	93
他の電話機にかかった外線を受ける	94
通話中に他の着信を受ける	95
通話を別の外線へ転送する	97
三者通話	99
外線の着信を転送する	102
かんたん設定ページから電話機能を設定する	108
電話機から本機の電話機能を設定する	111
機能一覧表	116

第5章 使いこなす

通信料金の調べ方	118
累積金額の活用	121
通信記録の見方	122
課金制限と通信時間制限を設定する	124
課金制限を設定	124
通信時間制限を設定	126
メール着信確認機能	128
RVS-COM	132
本機への設定について	134

工場出荷設定と設定の保存	136
工場出荷設定について	136
設定値の保存について	136
ターミナルソフトを使う	138
ハイパーターミナルを使う	138
本機から TELNET を使用する	142
パソコンからの TELNET で本機を設定する	144
ISDN 回線を介して本機を設定する	146
手動発信と手動切断	148
パスワードを設定したり変更したりするには	149
かんたん設定ページからパスワードを変更	149
コンソールからパスワードを変更	150
アナログ電話機からパスワードを変更	151
IP アドレスを新規設定・変更する	152
IP アドレス設定の必要性	152
設定・変更手順	153
TA 接続による MP	155
AT コマンド	156
AT コマンドによる設定	157
AT コマンド一覧	158
S レジスタの詳細	165
リザルトコード詳細	167
よく使うコンソールコマンド	168
操作に関するコマンド	168
設定に関するコマンド	169
料金や内部情報に関するコマンド	171
TA 機能に関するコマンド	172
RVS-COM に関するコマンド	173
メール着信確認機能に関するコマンド	174

第 6 章 困ったときは

通信がつかない	176
ランプ表示のトラブル	176
インターネット接続時のトラブル	177
RTA50i かんたん設定ページのトラブル	178
電話のトラブル	178
本機の設定を出荷状態にもどすには	179
TCP/IP のアドレスをリセットする	180
Windows 95 の場合	180
Macintosh の場合	180
製品のサポートとサービスについて	181
本機の保証サービスについて	181
ご質問・お問い合わせについて	181
リビジョンアップについて	181


付 録


Acrobat Reader について	182
Acrobat Reader のインストール	182
Acrobat Reader の使いかた	183
ブラウザのインストール	184
仕 様	185
索 引	186

本書の表記について

マークの意味

本書では、安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示しています。必ずお読みください。

 **警告** 人体に危険を及ぼしたり、装置に大きなダメージを与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。

 **注意** 機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

MEMO ● 操作や運営上に関連した情報です。
● 参考にお読みください。

略称について

本書では、YAMAHA RTA50iのことを本機、Microsoft® Windows® 95をWindows95、INS ネット 64のことをISDN、10BASE-T ケーブルのことをLAN ケーブルと記述しています。

設定例について

本書に記載されているIPアドレスやドメイン名、URL アドレスなどの設定例は、説明のための架空のものです。実際の設定をするときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

商標について

- ・イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- ・Apple®、Macintosh®、MacOS は米国 Apple 社の登録商標および商標です。
- ・Microsoft®、Windows® は米国 Microsoft 社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・Adobe®、Acrobat® は米国 AdobeSystems 社の登録商標です。
- ・Netscape® 及び Netscape® Navigator は米国 Netscape Communications Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
- ・INS ネット 64 は日本電信電話株式会社の登録商標です。
- ・Stac LZS は米国 Hi/fn 社の登録商標です。

安全にお使いいただくために

本機を安全にお使いいただくために下記をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。

警告

- ・ 本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、および電源ケーブルが発熱しているときは、直ちに電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。そのまま使用を続けると、火災や感電の恐れがあります。
- ・ 濡れた手で電源ケーブルを触らないでください。感電や故障の恐れがあります。
- ・ 電源ケーブルを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ・ 本機は日本国内用AC100V(50/60Hz)の電源専用です。他の電源で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・ 本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- ・ 本機を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・ 本機の換気口を塞いだ状態で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・ 電源を入れたままケーブル類を接続しないでください。感電や故障、本機および接続機器の破損の恐れがあります。
- ・ 乾電池は逆向きに入れたり、充電したり、ショートさせたりしないでください。破裂や液漏れの恐れがあります。

警告

- ・乾電池から漏れてた液には直接触れないでください。目に入ったり皮膚に付着した場合にはすぐに水道水などのきれいな水で十分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。
- ・電池を加熱、火の中に入れるなどしないでください。液漏れや破裂のおそれがあります。
- ・乾電池を分解しないでください。手指を傷つけたり電解液により化学やけどを起こす危険があります。

注意

- ・直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- ・極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、電源コードを抜き、乾燥させるか、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ・ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- ・本機を他の機器と重ねて置かないでください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- ・近くに雷が発生したときは、電源コードやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- ・本機のアースは必ずとってください。落雷時のダメージを軽減したり、感電防止やノイズ防止の効果があります。

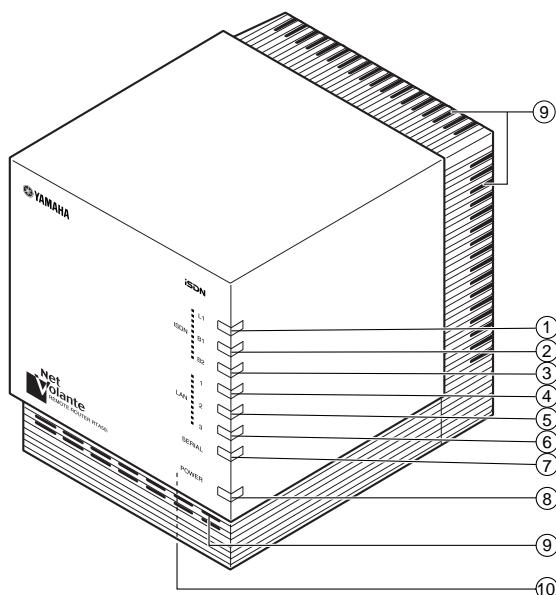
パッケージ内容の確認

RTA50iをお使いになる前に、下記のものがパッケージに揃っているかをご確認ください。万一不足や破損しているものがありましたら、お買い上げの販売店へご連絡ください。

RTA50i 本体	1 台
シリアルケーブル (9pin-9pin)	1 本
変換アダプタ (9pin-25pin)	1 個
変換ケーブル (9pin-Mac)	1 個
LAN ケーブル (青)	1 本
モジュラーケーブル (灰)	1 本
取扱説明書 (本書)	1 冊
CD-ROM	1 枚
保証書	1 枚

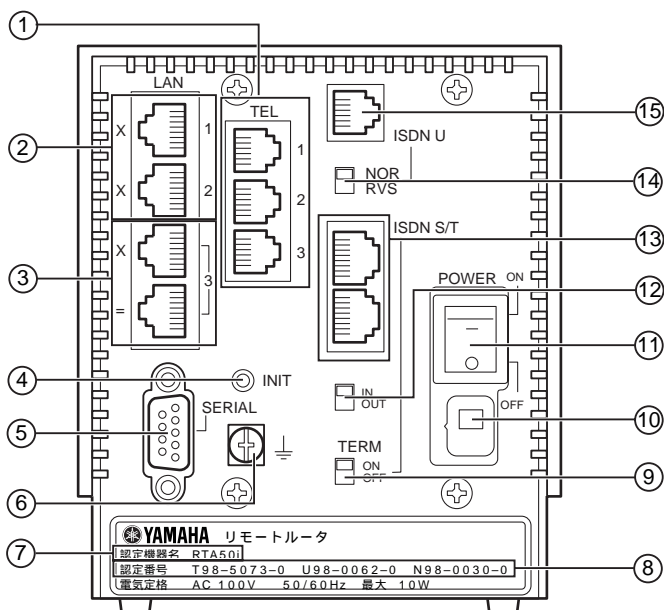
各部の名称と機能

前面



- ① ISDN L1ランプ
ISDNの回線状態を表わすランプです。回線が使用可能なときに点灯します。
- ② ISDN B1ランプ
ISDN B1 チャンネルの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- ③ ISDN B2ランプ
ISDN B2 チャンネルの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- ④ LAN 1 ランプ
LAN 1ポートの使用状態を表わすランプです。接続された機器が使用可能なときは点灯、通信中は点滅します。
- ⑤ LAN 2 ランプ
LAN 2ポートの使用状態を表わすランプです。接続された機器が使用可能なときは点灯、通信中は点滅します。
- ⑥ LAN 3 ランプ
LAN 3ポートの使用状態を表わすランプです。接続された機器が使用可能なときは点灯、通信中は点滅します。
- ⑦ SERIALランプ
シリアルポートの使用状態を表わすランプです。通信中は点滅します。
- ⑧ POWERランプ
電源の状態を表わすランプです。電源がオンのときは点灯、停電でバックアップ電源(電池)により動作しているときは点滅します。
- ⑨ 換気口
内部の熱を逃がすための穴です。上面や側面、底面にも開いています。
- ⑩ 電池ボックス(底面)
停電時のバックアップ電源用電池を入れます。停電中でもTEL1ポートに接続したアナログ電話機が使用可能になります。

背面



① TEL ポート

アナログの電話機やFAX、モデムを3台まで接続できます。停電時はバックアップ電源により、TEL 1ポートのみ使用可能になります。

② LAN 1/2 ポート

パソコンのLANポートまたはHUBのUPLINKポートとLANケーブルで接続します。

③ LAN 3 ポート

パソコンのLANポートやハブのUPLINKポートと接続するときは×側へ、ハブのUPLINK以外のポートと接続するときは＝側へ接続します。2つのポートへ同時に接続することはありません。

④ INIT スイッチ

このスイッチを押しながら電源スイッチをオンにすると、本機の設定を工場出荷状態にもどすことができます。

⑤ SERIAL ポート

パソコンのシリアルポート（モデムポート）と付属のシリアルケーブルで接続します。

⑥ アース端子

アース線を接続します。必ず接続してください。

⑦ 認定機器名

ISDN回線の申し込み時には、ここに表示されている機器名を記入します。

⑧ 認定番号

ISDN回線の申し込み時には、ここに表示されている認定番号を記入します。3つすべてを記入してください。

⑨ ターミネータスイッチ

ISDN 機器のターミネータ（終端抵抗）をオン/オフするスイッチです。ISDN S/T ポートに何も接続していないときはON側、他のISDN機器を接続しているときは、いずれかの機器のターミネータを1つだけONにし、その他の機器はすべてOFFにします。

⑩ 電源ケーブル

AC100V, 50/60Hz のコンセントに接続します。

⑪ POWERスイッチ

電源をオン/オフするスイッチです。

⑫ DSUスイッチ

内蔵のDSUを切り離すスイッチです。内蔵のDSUを使うときはOUT側、使わないときはIN側にします。

⑬ ISDN S/Tポート

ISDN機器を接続するポートです。内蔵のDSUを使わない場合は、このポートとDSUをISDNケーブルで接続します。

⑭ 極性反転スイッチ

ISDN U ポートの極性を反転させるスイッチです。

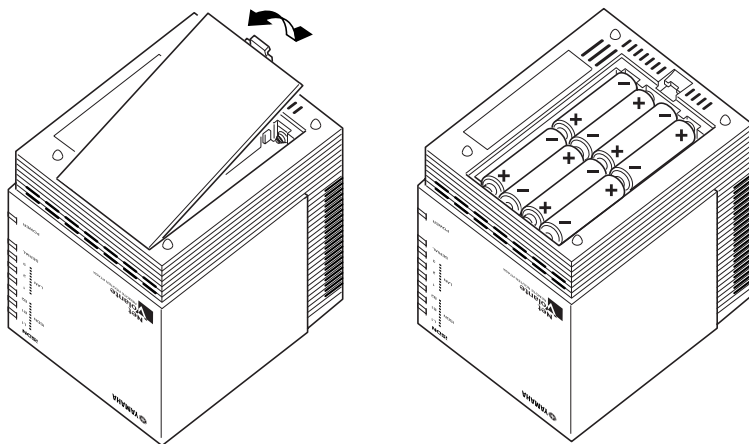
⑮ ISDN Uポート

NTT の ISDN ローゼットと付属のモジュラーケーブルで接続します。

バックアップ電池の入れかた

バックアップ電池を入れると、停電でも約2時間、TEL1ポートに接続したアナログ電話機で通話できるようになります。同一銘柄で新品の単3形アルカリ乾電池を8本ご用意ください。

電池を入れるときは、本機の電源をオフにし、本機底面の電池ボックスに乾電池を図の方向にセットします。



警告

乾電池を入れるときには、電池のプラス(+)マイナス(-)を本体の表示に合わせてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・化学やけどや周囲を汚損する原因となることがあります。

お手入れのしかた

本機の表面が汚れたときは、柔らかい布やティッシュなどで拭いてください。



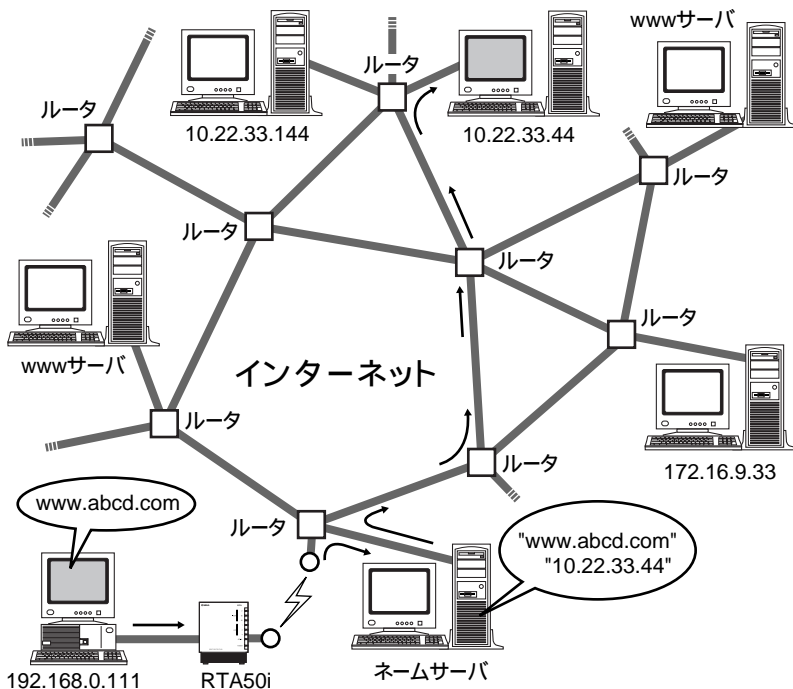
警告

洗剤や水分を含んだもので拭かないでください。内部に洗剤や水分が入ると、火災や感電の恐れがあります。

インターネットとルータについて

インターネットは、世界のさまざまなネットワークを接続したネットワークです。そしてネットワークどうしをつなぐ装置が"ルータ"です。

インターネットでは、世界中のコンピュータから1台のコンピュータを識別するために、"192.168.0.250"のような4つの数字からなる"IPアドレス"という識別番号を使っています。ルータは流れてきたデータをこのIPアドレスで判断し、送り先を決めています。1つのデータが目的のコンピュータへ届くまでには多くのルータを通過していきます。このような通信ルールを"TCP/IP"といいます。

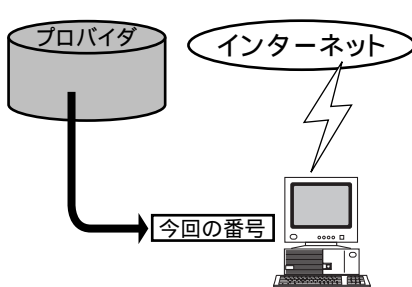


例えば、パソコンでホームページのURLアドレスを入力すると、プロバイダのネームサーバ (DNS) でURLアドレスがIPアドレスに変換され、そのアドレスのWWWサーバまで "ホームページデータヲ オクレ" というリクエストが届けられます。WWWサーバは、ホームページや画像データをパソコンのIPアドレスへ送り返します。このように誰から誰へ送ればいいのかは、IPアドレスで管理されているので、インターネットに接続するときは必ずIPアドレスが必要になります。

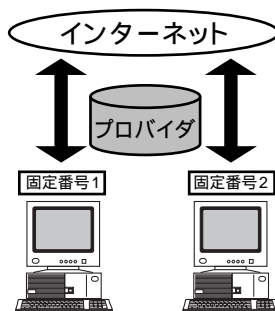
では、IPアドレスはどうしたら手に入れられるのでしょうか。

IP アドレスの入手方法は、インターネットへの接続方法によって違います。

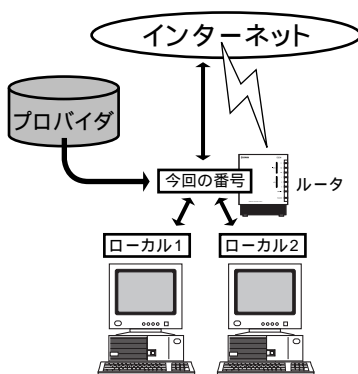
モデムやTAで接続する“ 端末型ダイヤルアップ ”の場合は、プロバイダに電話をかけるたびにプロバイダのホストコンピュータが持っている IP アドレスの中からそのとき限りの IP アドレスが割り当てられます。この IP アドレスは、電話(接続)を切るまで有効です。次に電話をかけたときは、また違う IP アドレスが割り当てられます。



“ 専用線 ” や “ LAN 型ダイヤルアップ ” で接続する場合は、プロバイダとの契約時に予め決められた IP アドレスを必要な数だけ割り当ててもらいます。その IP アドレスを個々のパソコンに設定することで、インターネットへ接続できるようになります。



RTA50iのようなアドレス変換機能を持ったダイヤルアップルータで接続する場合は、ルータからLAN内専用のローカルIPアドレスが各パソコンに割り当てられます。インターネットに接続するときは、ルータが個々のローカルIPアドレスをプロバイダから割り当てられたIPアドレスに自動的に変換してインターネットへ送ります。もどってきたデータは、元のローカルIPアドレスに変換してLAN内のパソコンへ送ります。この変換機能を“ NAT 機能 ”といい、この機能によって端末型ダイヤルアップ契約でも複数のパソコンからインターネットが使えるようになっています。



プロバイダとの契約やルータの設定をするときは、必ず IP アドレスの情報が出てきますが、重要な情報なので必ず確認するようにしましょう。

第1章

一台のパソコンを接続する

1台のパソコンをインターネットへ接続するときは、本機をTAとして使います。本機には、ATコマンド対応のTA機能が内蔵されていますので、ISDN回線やプロバイダとの契約が終われば、すぐにインターネットへ接続できます。

揃っていますか？

インターネットへ接続するには、次のものや情報が必要です。すべて揃っているか確認しましょう。

必要な契約

ISDN回線

これからISDN回線を引く場合は、NTTへお申し込みください。申込票の各項目は、下記を参考にご記入ください。

お取付工事

・通信機器の名称	RTA50i
・メーカー	YAMAHA
・認定番号	T98-5073-0 U98-0062-0 N98-0030-0
・DSU	DSU 内蔵型 TA
お客さま工事、または NTT 工事	

コンサルティング項目

・インタフェース形態	
およびレイヤ1起動種別	P-MP 常時または P-MP 呼毎
・発信者番号通知サービス	通話ごと非通知（通常通知）*
・ユーザ間情報通知サービス	着信許可
・通信中着信通知サービス	許可

*「回線ごと非通知(通常非通知)」を選択した場合は、番号通知を利用した一部のサービスが受けられない場合があります。

プロバイダとの契約

いずれかのプロバイダに"端末型ダイヤルアップ"の契約でお申し込みください。契約時に次の情報を確認してください。

- ・ ドメイン名
- ・ ネームサーバアドレス (DNS アドレス)
- ・ ISDN 対応アクセスポイントの電話番号
- ・ 回線速度
- ・ ユーザ ID (アカウント名)
- ・ パスワード

必要なハードウェア

- ・ パソコン
- ・ 本機
- ・ シリアルケーブル (本機に付属)

必要なソフトウェア

- ・ ネットワーク機能ソフトウェア (OS のインストール CD-ROM または、本機の CD-ROM に付属)
- ・ WWW ブラウザ (本機の CD-ROM に付属)

ハードウェアをセットアップしよう

機器の接続

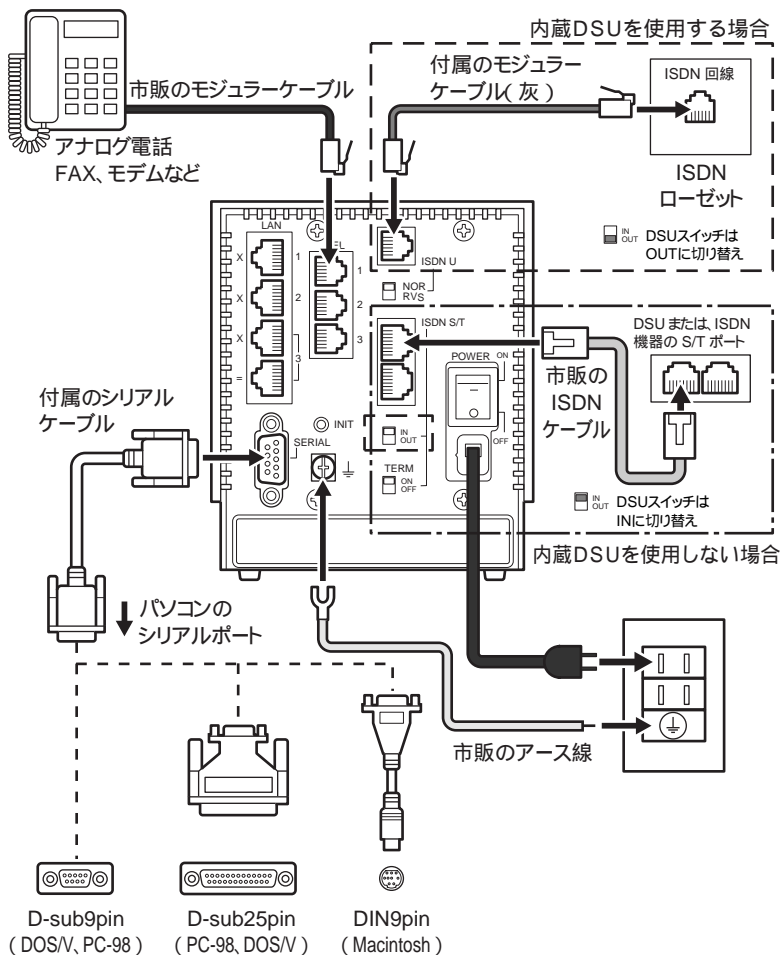
本機をTAとして使うときは、図のように接続します。

シリアルケーブルをパソコンに接続するときは、どのポートに接続したか、ポートの名称を控えておいてください。



警告

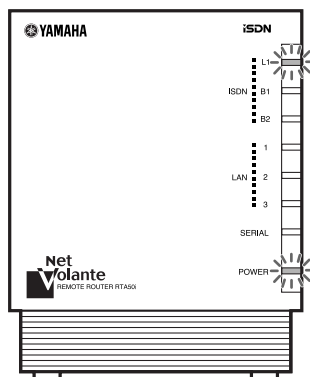
接続を始める前に必ず本機やパソコンの電源をオフにしてから作業してください。オンのまま接続すると、機器の破損もしくは故障の原因となります。



動作の確認

接続が完了したら、本体背面の POWER スイッチをオンにし、ランプの点灯状態を確認します。

最初にすべてのランプが点灯し、ランプが数回点滅した後、POWER ランプと ISDN L1 ランプのみが点灯すれば、正常です。



POWERランプが点灯しないときは

POWER ランプが点滅または消灯しているときは、次を確認してください。

- ・ 電源コードがコンセントに正しく接続されていることを確認してください。
- ・ 電源コードやコンセントに電源が来ていることを確認してください。

ISDN L1 ランプが点灯しないときは

ISDN L1 ランプが消灯しているときは、次を確認してください。

- ・ 内蔵のDSUを使用している場合は、電源スイッチをオフにし、DSUスイッチをOUT側、ISDN Uポートの極性反転スイッチを逆側にして電源スイッチをオンにしてください。
- ・ 内蔵のDSUを使用していない場合は、DSUスイッチをIN側、ISDN S/Tポートに接続されているDSUやISDN機器のターミネータスイッチが、いずれか1つオンになっていることを確認してください。

通信中に SERIAL ランプが点灯しないときは

SERIAL ランプは、データ通信中にランプが点灯および点滅すれば、正常です。通信しようとしてもSERIALランプが消灯しているときは、次を確認してください。

- ・ 本機とパソコンのシリアルポートまたはアダプタのシリアルケーブル固定ネジが両側とも正しく締まっていることを確認してください。
- ・ Windows95の場合、パソコンのシリアルポートが有効になっているかコントロールパネルやBIOSの設定を確認してください。

ソフトウェアを準備しよう

インターネットに接続するためには、接続するためのネットワーク機能や、本機を設定するためのブラウザが必要です。これらのソフトウェアは、本機に付属のCD-ROM や OS のインストール CD-ROM またはフロッピーディスクに収録されています。作業を始める前にご用意ください。



注意

インストールを始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。インストールの途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

Windows95の設定

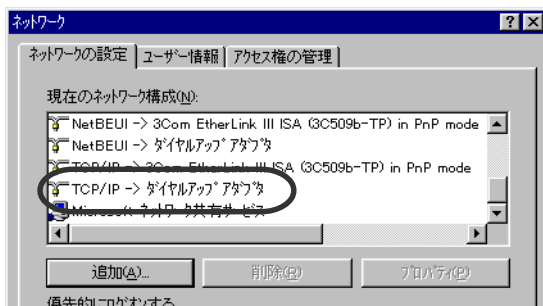
ネットワーク機能の設定

- 1 [マイコンピュータ]を開き、[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがあるかを確認します。



[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがない場合は、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開き、[Windowsファイル]タブの[通信]、[ダイヤルアップネットワーク]をチェックして、Windowsのインストール CD-ROM から追加インストールしてください。

- 2 [コントロールパネル]の[ネットワーク]を開き、リストに「TCP/IP -> ダイヤルアップアダプタ」があるかを確認します。



ない場合は[追加]ボタンを押して、[プロトコル]の追加で[Microsoft]の[TCP/IP]を追加します。リストに「TCP/IP」が表示されたら、「ネットワーク」ウィンドウを閉じます。

モデムの設定

- 1 [コントロールパネル]の[モデム]を開きます。

「モデム ウィザード」ウィンドウが表示されます。

「モデムのプロパティ」ウィンドウが表示されたときは、[追加]ボタンを押します。

ノートパソコンでモデムの種類を選択する画面が表示されたときは、[その他]を選択して[次へ]ボタンを押します。



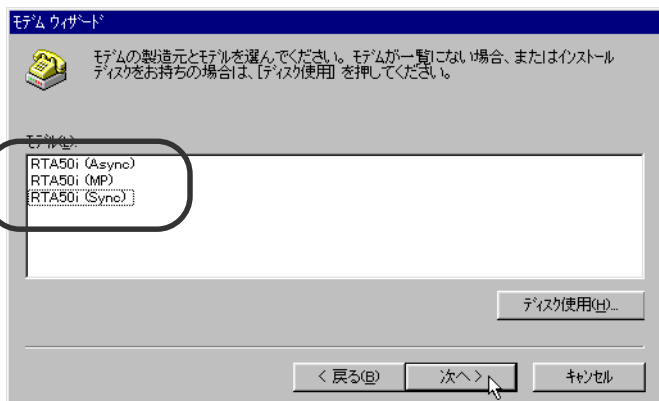
2 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、[次へ]を押します。



3 付属のCD-ROMをセットしてから[ディスク使用]ボタンを押し、[参照]ボタンを押してCD-ROM ドライブを選択します。



- 4 プロバイダの回線速度に合わせて [RTA50i x x x x] を選択して [次へ] を押します。



プロバイダの回線速度	選択項目名
非同期 2400, 4800, 9600, 19.2k, 38.4k, 57.6k	RTA50i (Async)
同期 64k, 擬似 LAN	RTA50i (Sync)
同期 128k	RTA50i (MP)

MEMO ● 同期 128k(RTA50i (MP))を選択した場合には、別途「TA 接続による MP」(P.155) の設定も必要となります。

- 5 シリアルケーブルを接続したシリアルポート名を選択して[次へ]ボタンを押し、[完了] ボタンを押します。
リストに RTA50i が追加されたことを確認したら、「モデム ウィザード」ウィンドウを閉じます。



ダイヤルアップ接続の設定

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、[新しい接続]アイコンを開きます。

[新しい接続]アイコンがない場合には、「ダイヤルアップネットワークへようこそ」の画面が現れますので、[次へ]ボタンを押します。



- 2 プロバイダ名とモデム名を入力し、[次へ]ボタンを押します。



- 3 ISDN対応アクセスポイントの電話番号を入力して[次へ]ボタンを押し、
[完了] ボタンを押します。
「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。



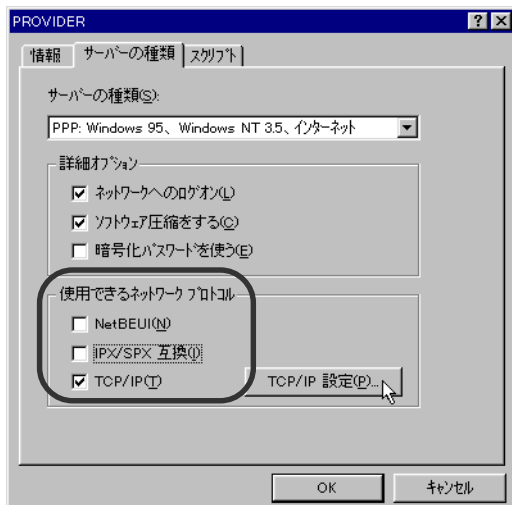
- 4 プロバイダのアイコンを選択し、ファイルメニューの[プロパティ]を選択します。



5 [サーバーの種類] タブを押します。

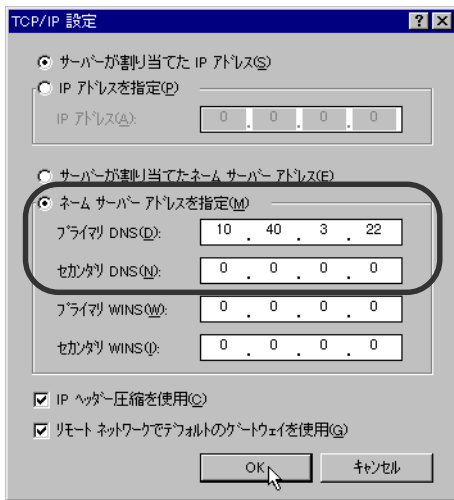


6 [使用できるネットワーク プロトコル] の[TCP/IP]にチェックを付けて [NetBEUI] と [IPX/SPX 互換] のチェックを外し、[TCP/IP 設定] ボタンを押します。



- 7 「ネームサーバーアドレスを指定」を選択してプロバイダから指定されたネームサーバのIPアドレスを入力し、各ウィンドウの[OK]ボタンを押してウィンドウを閉じます。

これで、インターネット接続の設定が完了しました。



ブラウザのインストール

本機の設定変更はブラウザを使って行います。パソコンにブラウザがインストールされていないときは、付属のCD-ROMからブラウザをインストールします（ P.184 ）。

- MEMO
- 本機の擬似 LAN 機能により、ブラウザを使って "http://192.168.0.1/" へアクセスすると、「RTA50i かんたん設定ページ」が開いて本機の各種機能を設定することができます（ P.56 ）。

Macintoshの設定

Macintoshでは、ネットワーク機能およびブラウザのインストールを行います。以下のコントロールパネルと関連する機能拡張ファイルが必要です。TCP/IP、Opentransport/PPPはOSのインストールCD-ROM、FreePPPは本機に付属のCD-ROMに収録されていますので、コントロールパネルに表示されていないときは、インストールしてください。Opentransport/PPPを使う場合は、RTA50i用CCL ファイルを付属のCD-ROM から [システムフォルダ] - [機能拡張] - [Modem Scripts] フォルダ内へコピーしてください。

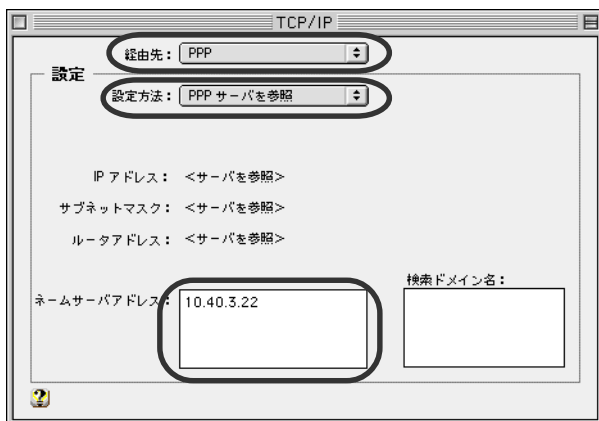
OS のバージョン	必要なコントロールパネル
漢字 Talk7.5.2 以前	FreePPP
漢字 Talk7.5.3 以降、MacOS7.6 以降	Opentransport/PPP または FreePPP

ネットワーク機能の設定

ここでは、代表的な例について説明しています。

- 1 コントロールパネルの [TCP/IP] を開き、[経由先] を "PPP" または "FreePPP"、[設定方法] を "PPPサーバを参照" に設定して、[ネームサーバアドレス] 欄にプロバイダから入手したネームサーバのIPアドレスを設定します。

設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じます。



OpenTransport/PPP の場合

2 コントロールパネルの[モデム]を開き、[経由先]を接続したポート、[モデム]の種類をプロバイダの通信速度に合った"RTA50i XXXX"、[ダイアル]の種類を"トーン"に設定します。

設定が終わったら、「モデム」ウィンドウを閉じます。



プロバイダの回線速度	選択項目名
非同期 38.4k	RTA50i 38.4k
非同期 57.6k	RTA50i 57.6k
同期 64k	RTA50i 64k
同期 128k	RTA50i MP

- MEMO
- 同期 128k(RTA50i MP)を選択した場合には、別途「TA 接続による MP」(P.155) の設定も必要となります。
 -

ダイヤルアップ接続の設定



Opentransport/PPPの場合

- 1 コントロールパネルの[PPP]を開き、プロバイダから入手したユーザIDとパスワード、ISDN 対応アクセスポイントの電話番号を設定します。設定が終わったら、「PPP」ウィンドウを閉じます。



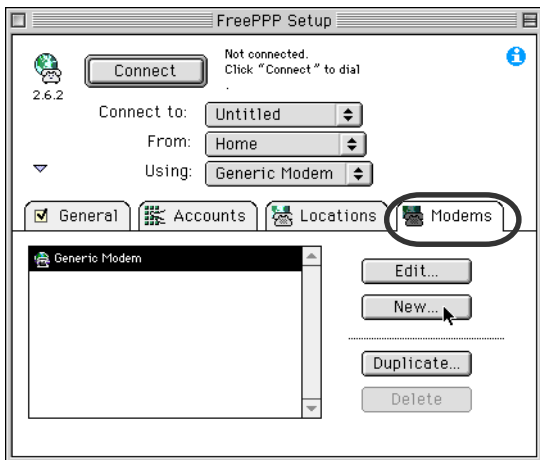
- MEMO
- [パスワードを保存] をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。接続のたびにパスワード入力が必要になります。

FreePPPの場合

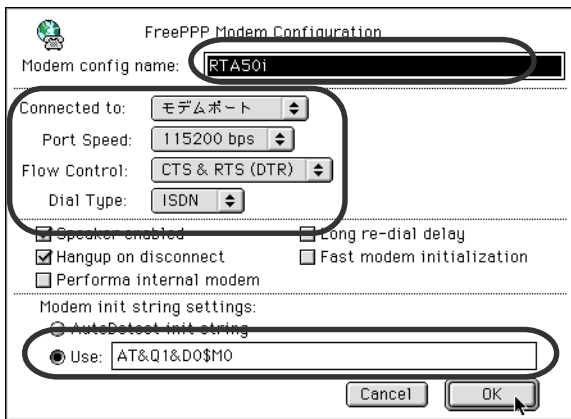
- 1  (FreePPP)メニューの[Open FreePPP Setup]を選択します。メニューバーに  アイコンがないときは、[FreePPP2.6] フォルダの [FreePPP] アイコンを開きます。



- 2 [Modems] タブの [New] ボタンを押します。
「FreePPP Modem Configuration」ウィンドウが表示されます。

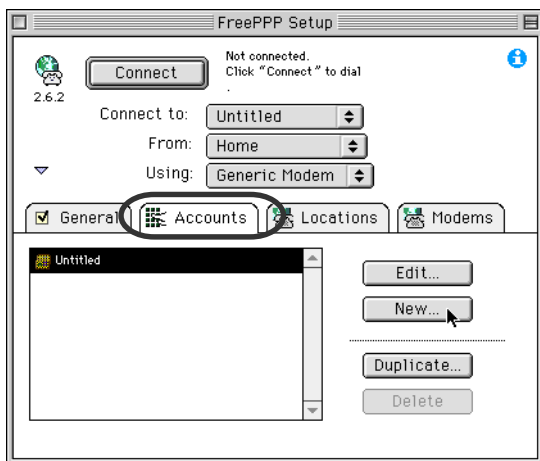


- 3 [Modem config name] にモデムの名前を入力し、[Connected to] に接続したポート、[Port Speed] に回線速度に合ったポート速度、[Flow Control] に "CTS&RTS(DTR)"、[Dial Type] に "ISDN" を設定します。

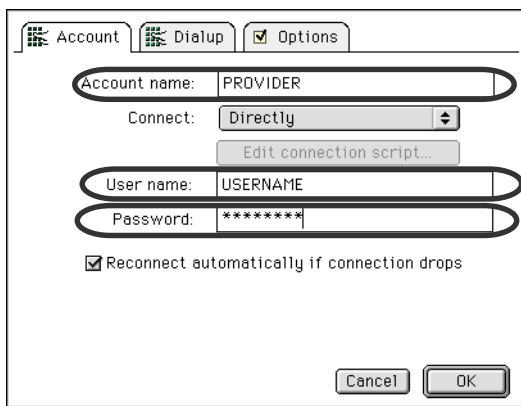


プロバイダの回線速度	ポート速度 Port Speed	モデム初期化設定 Modem init strings settings
非同期 38.4k	38400bps	AT&Q0&D0
非同期 57.6k	57600bps	AT&Q0&D0
同期 64k	115200bps	AT&Q1&D0\$M0
同期 128k	230400bps	AT&Q1&D0\$M1

4 [Accounts] タブの [New] ボタンを押します。



5 [Account] タブでプロバイダ名、プロバイダから入手したユーザIDとパスワードを設定します。



MEMO

- 他の人に使われたくないときは、パスワードを入力しないでください。
- さい。接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 6 [Dialup] タブでISDN 対応アクセスポイントの電話番号を設定します。
アクセスポイントが複数ある場合は、3 つまで登録できます。

Account | **Dialup** | Options

Main Number:

Area code: XX

Phone number: XXXX-XXXX

☐ Dial area code ☐ Dial as long distance

Alternate Number 1:

Area code:

Phone number:

☐ Dial area code ☐ Dial as long distance

Alternate Number 2:

Area code:

Phone number:

☐ Dial area code ☐ Dial as long distance

Cancel OK

- 7 [Options] タブでプロバイダのドメイン名とネームサーバアドレスを設定し、[OK] ボタンを押します。

Account | Dialup | **Options**

Domain name: provider.ne.jp

Primary DNS: 10.40.3.22

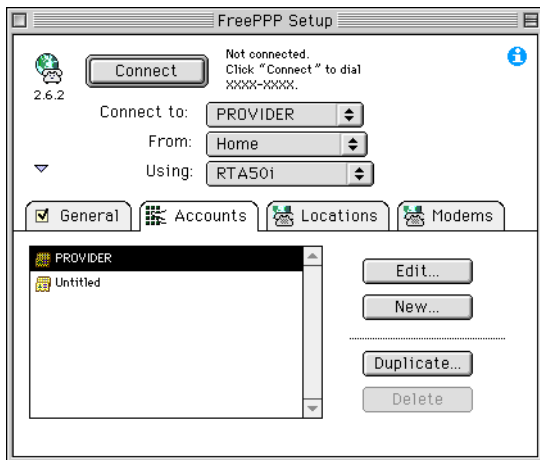
Secondary DNS: 10.40.3.40

☒ Configure QT TCP/IP for this Account

IP address: ☒ Assigned by PPP server ☐ 0.0.0.0

Cancel OK

- 8 [Connect to]に登録したプロバイダ名、[Using]に登録したモデム名を設定し、「FreePPP Setup」ウィンドウを閉じて設定を保存します。



ブラウザのインストール

本機の設定変更はブラウザを使って行います。パソコンにブラウザがインストールされていないときは、付属のCD-ROMからブラウザをインストールします（ P.184 ）。

- MEMO
- 本機の擬似 LAN 機能により、ブラウザを使って "http://192.168.0.1/" へアクセスすると、「RTA50i かんたん設定ページ」が開いて本機の各種機能を設定することができます（ P.56 ）。

インターネットに接続する

インターネットへの接続は、ブラウザやメールソフトでインターネットへアクセスすると、自動的に行われます。手動で接続するときは、次のように操作します。また、自動的に接続された場合も、接続を切るときは手順1と3の操作をしてください。

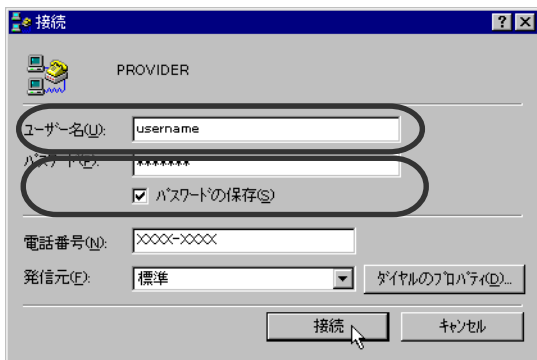
なお、MP接続する場合には、別途ATコマンドによる設定が必要です。詳しくは「TA接続によるMP」(P.155) を参照してください。

Windows95 の操作

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、プロバイダ名のアイコンを開きます。
「接続」ウィンドウが表示されます。



- 2 [ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[接続]ボタンを押します。
プロバイダへダイヤルし始めます。インターネットへ接続すると、「ダイヤルアップネットワーク(プロバイダ名)」ウィンドウが表示され、接続時間が表示されます。



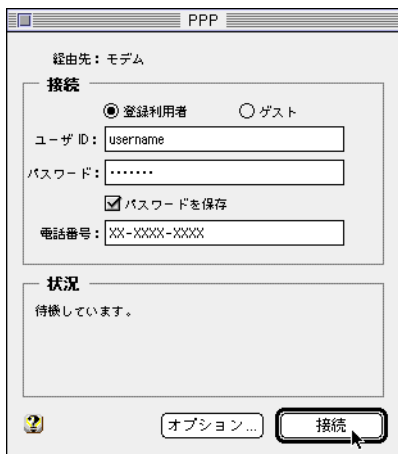
- 3** 接続を切るときは、「ダイヤルアップ ネットワーク(プロバイダ名)」ウィンドウの「切断」ボタンを押します。
接続が解除され、電話が切れます。



Macintoshの操作

Opentransport/PPPの場合

- 1** コントロールパネルの「PPP」を開きます。
「PPP」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「接続」ボタンを押します。
パスワードを保存していないときは、パスワードを入力します。プロバイダへダイヤルし始めます。インターネットへ接続すると、接続時間や転送状況を示すバーが表示されます。

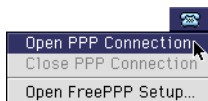


- 3 接続を切るときは、「PPP」ウィンドウの[解除]ボタンを押します。
接続が解除され、電話が切れます。

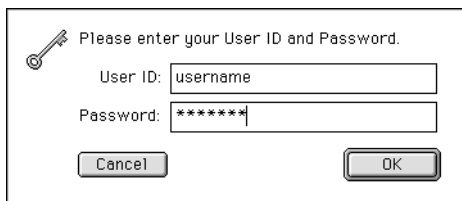


FreePPPの場合

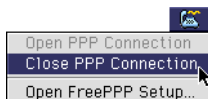
- 1 (FreePPP)メニューの[Open PPP Connection]を選択します。
メニューバーに (FreePPP) アイコンがないときは、[FreePPP2.6]フォルダの
[FreePPP] アイコンを開き、[Connect] ボタンを押します。
接続状況のウィンドウが表示され、プロバイダヘダイアルし始めます。



- 2 パスワードを入力していないときは、パスワード入力画面が表示されるので、パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。
インターネットへ接続すると、ウィンドウが消えます。



- 3 接続を切るときは、(FreePPP)メニューの[Close PPP Connection]を選択します。
接続が解除され、電話が切れます。



第2章

複数のパソコンを接続する

複数のパソコンをインターネットへ接続するときは、本機をダイヤルアップルータとして使います。ネットワークボードとLANケーブルがあれば3台までのパソコンをすぐにインターネットへ接続できます。また、ネットワークボードがなくても、本機に内蔵の「擬似LAN機能」でSERIALポートに接続したパソコンをLANに接続可能です。5台以上を接続する場合は、HUBを別途ご用意ください。

揃っていますか？

インターネットへ接続するには、次の機器や情報が必要です。すべて揃っているか確認しましょう。

必要な契約

ISDN 回線

これからISDN回線を引く場合は、NTTへお申し込みください。申込票の各項目は、下記を参考にご記入ください。

お取付工事

・ 通信機器の名称	RTA50i
・ メーカー	YAMAHA
・ 認定番号	T98-5073-0 U98-0062-0 N98-0030-0
・ DSU	DSU 内蔵型 TA
	お客さま工事、または NTT 工事

コンサルティング項目

・ インタフェース形態	
およびレイヤ1起動種別	P-MP 常時または P-MP 呼毎
・ 発信者番号通知サービス	通話ごと非通知（通常通知）*
・ ユーザ間情報通知サービス	着信許可
・ 通信中着信通知サービス	許可

*「回線ごと非通知(通常非通知)」を選択した場合は、番号通知を利用した一部のサービスが受けられない場合があります。

プロバイダとの契約

いずれかのプロバイダに"端末型ダイヤルアップ"の契約でお申し込みください。契約時に次の情報を確認してください。

- ・ ドメイン名
- ・ ネームサーバアドレス (DNS アドレス)
- ・ ISDN 対応アクセスポイントの電話番号
- ・ 回線速度
- ・ ユーザ ID (アカウント名)
- ・ パスワード

必要なハードウェア

- ・ パソコン
- ・ パソコン用ネットワークボード(パソコンに10BASE-Tポートがない場合)
- ・ 本機
- ・ LAN ケーブル (本機に 1 本付属)
- ・ HUB (パソコンを 5 台以上接続する場合)
- ・ シリアルケーブル (擬似 LAN 機能を使用する場合、本機に付属)

必要なソフトウェア

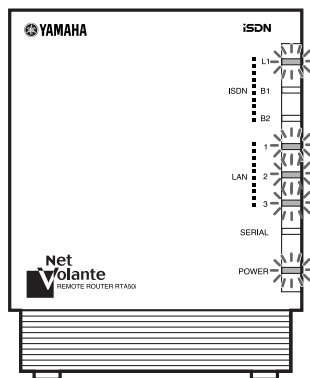
- ・ インターネット接続ソフトウェア (OS のインストール CD-ROM または、本機の CD-ROM に付属)
- ・ WWW ブラウザ (本機の CD-ROM に付属)

- MEMO
- SERIALポートに接続しているパソコンをLANに接続することもできます。設定方法については「第2章 SERIALポートのパソコンをLANに接続する」(P.56)をご覧ください。

動作の確認

接続が完了したら、本体背面の POWER スイッチをオンにし、ランプの点灯状態を確認します。

最初にすべてのランプが点灯し、ランプが数回点滅した後、POWER ランプと ISDN L1 ランプ、接続したLANポートのランプが点灯すれば、正常です。



POWER ランプが点灯しないときは

POWER ランプが点滅または消灯しているときは、次を確認してください。

- ・ 電源コードがコンセントに正しく接続されていることを確認してください。
- ・ 電源コードやコンセントに電源が来ていることを確認してください。

ISDN L1 ランプが点灯しないときは

ISDN L1 ランプが消灯しているときは、次を確認してください。

- ・ 内蔵のDSUを使用している場合は、電源スイッチをオフにし、DSUスイッチをOUT側、ISDN Uポートの極性反転スイッチを逆側にして電源スイッチをオンにしてください。
- ・ 内蔵のDSUを使用していない場合は、DSUスイッチをIN側、ISDN S/Tポートに接続されているDSUやISDN機器のターミネータスイッチが、いずれか1つオンになっていることを確認してください。

LAN ランプが点灯しないときは

LAN ランプが消灯しているときは、次を確認してください。なお、データの通信中は、不規則に点滅すれば正常です。

- ・ LAN ケーブルが確実に接続されているか確認してください。
- ・ LAN1/2/3 × ポートはパソコンのLANポートまたはHUBのUPLINKポートへ、LAN3 × ポートはHUBのUPLINK以外のポートへ接続されているかをすべて確認してください。
- ・ HUBの電源が入っているか確認してください。

ソフトウェアを準備しよう

インターネットに接続するためには、接続するためのネットワーク機能や、本機を設定するためのブラウザが必要です。これらのソフトウェアは、本機に付属のCD-ROM や OS のインストール CD-ROM またはフロッピーディスクに収録されています。作業を始める前にご用意ください。



注意


インストールを始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。インストールの途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

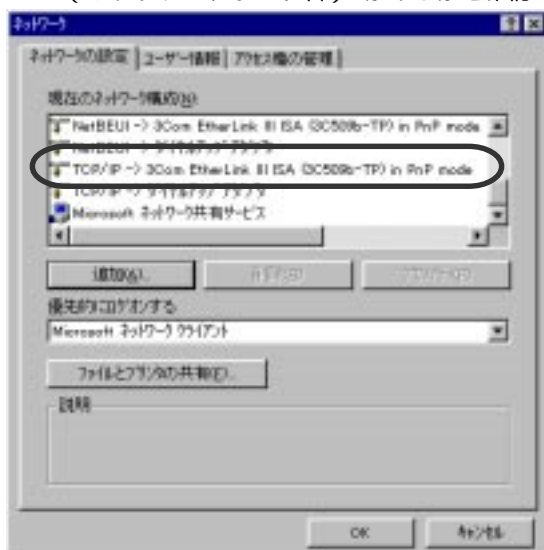
Windows 95 の設定

Windows 95 の場合は、ネットワークの設定とブラウザのインストールを行います。ネットワークボードが装着されていないときは、先にネットワークボードのインストールを行ってください。

ネットワーク機能の設定

ネットワーク機能の設定は、LAN に接続されているすべてのパソコンで行ってください。

- 1 [コントロールパネル] の [ネットワーク] を開き、リストに  TCP/IP--> (ネットワークボード名) " があるかを確認します。



ない場合は [追加] ボタンを押して、[プロトコル] の追加で [Microsoft] の [TCP/IP] を追加します。

- 2 リストの [TCP/IP --> (ネットワークボード名)] を選択し、[プロパティ] ボタンを押します。



- 3 [IP アドレス] タブの [IP アドレスを自動的に取得] を選択し、[OK] ボタンを押します。



- 4 [OK] ボタンを押して「ネットワーク」ウィンドウを閉じ、設定を変更した場合、パソコンを再起動します。

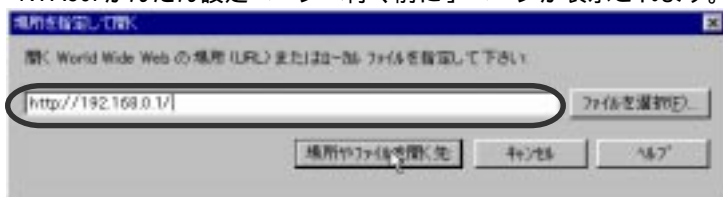
ブラウザのインストール

本機の設定変更はブラウザを使って行います。パソコンにブラウザがインストールされていないときは、付属のCD-ROMからブラウザをインストールします（ P.184 ）。

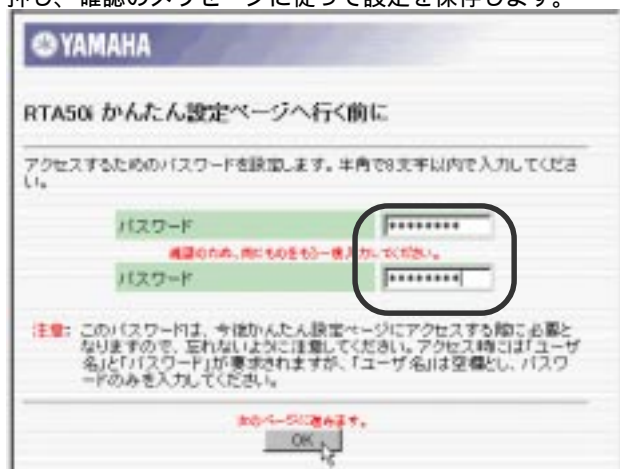
ルータのダイヤルアップ接続設定

ルータに端末型ダイヤルアップ接続の設定を行います。設定には、Netscape Navigator 2.0J 以降または Internet Explorer 3.0J 以降のブラウザが必要です。ここでは、Netscape Navigator 4.0J を例に説明します。

- 1 ブラウザを開き、ファイルメニューの [ページを開く] を選択します。
- 2 "http://192.168.0.1/" と入力して [場所やファイルを開く先:] ボタンを押します。
「RTA50i かんたん設定ページへ行く前に」ページが表示されます。

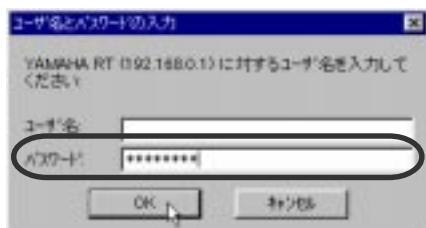


- 3 パスワードを半角8文字以内で上欄と下欄の2回入力して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って設定を保存します。



- MEMO
- パスワードは、必ず設定してください。また、設定したパスワードは忘れないようにご注意ください。

- 4 「ユーザ名とパスワードの入力」ウィンドウが表示されたら、パスワードのみを入力して [OK] ボタンを押します。
本機に内蔵の「RTA50i かんたん設定ページ」が表示されます。



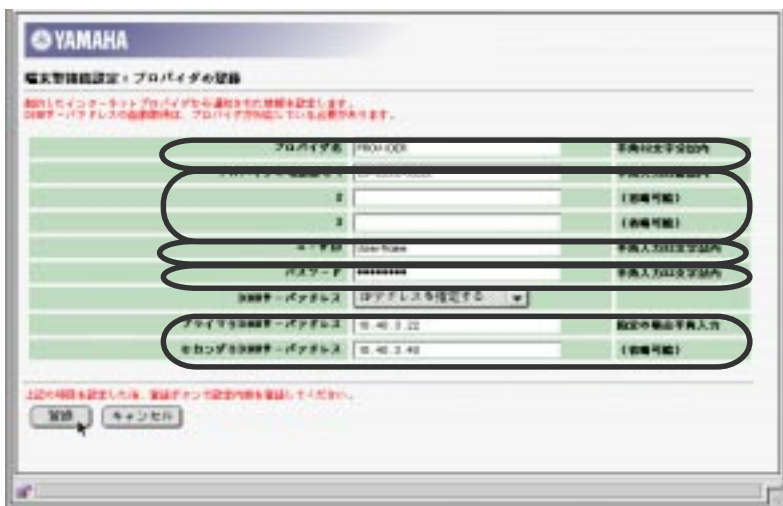
- 5 [端末型接続] を押します。
「端末型接続設定」ページが表示されます。



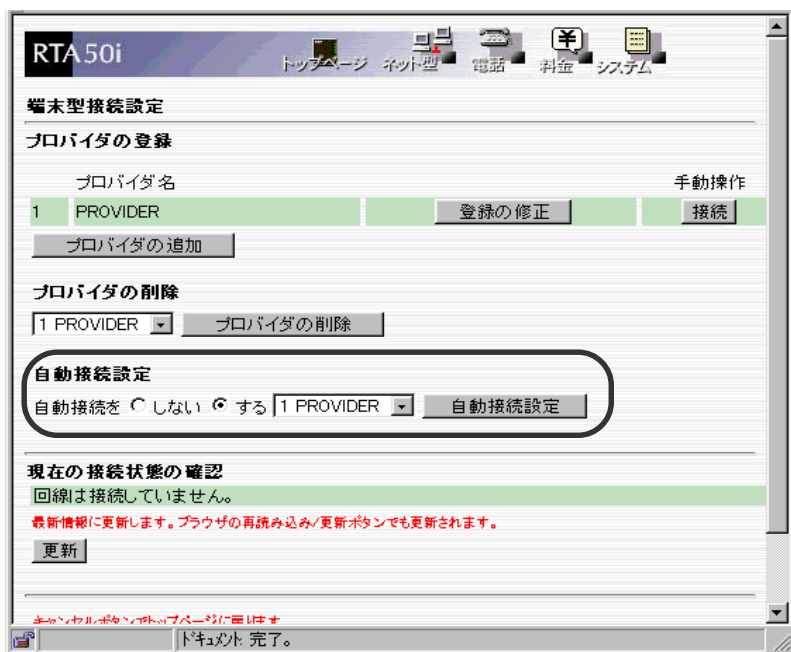
- 6 [プロバイダの登録] ボタンを押します。
「端末型接続設定：プロバイダの登録」ページが表示されます。



- 7 プロバイダ名、ISDN対応アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバのIPアドレスを入力し、[登録] ボタンを押します。
メッセージに従ってボタンを押すと設定が保存され、「端末型接続設定」ページへ戻ります。



- 8 [自動接続設定] が [する] になり、登録したプロバイダ名が表示されていることを確認したら、設定ページを閉じます。
これでルータの設定は完了です。



- MEMO
- プロバイダの登録を行うと、課金制限が1万円、通信時間制限が9時間に自動設定されます (P.124)

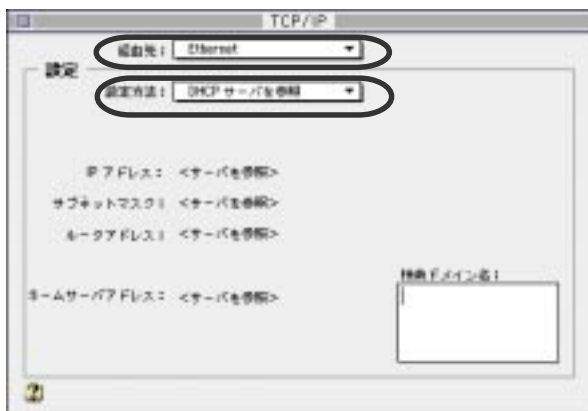
Macintosh の設定

Macintoshでは、ネットワーク機能およびブラウザのインストールを行います。"TCP/IP" コントロールパネルと関連する機能拡張ファイルが必要です。TCP/IP は OS のインストール CD-ROM に収録されていますので、コントロールパネルに表示されていないときは、インストールしてください。

ネットワーク機能の設定

ネットワーク機能の設定は、LAN に接続されているすべてのパソコンで行ってください。ここでは、"TCP/IP" コントロールパネルを例に説明しています。

- 1 コントロールパネルの [TCP/IP] を開き、[経由先] を "Ethernet"、[設定方法] を "DHCP サーバを参照" に設定します。



- 2 設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じて設定を保存します。

ブラウザのインストール

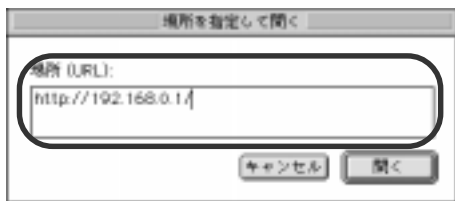
本機の設定変更はブラウザを使って行います。パソコンにブラウザがインストールされていないときは、付属の CD-ROM からブラウザをインストールします (P.184)。

ルータのダイヤルアップ接続設定

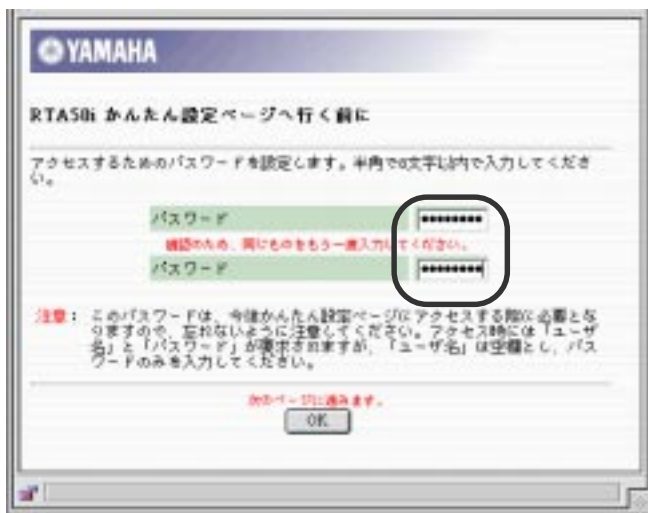
ルータに端末型ダイヤルアップ接続の設定を行います。設定には、Netscape Navigator 2.0J 以降または Internet Explorer 3.0J 以降のブラウザが必要です。ここでは、Netscape Navigator 4.0J を例に説明します。

1 ブラウザを開き、ファイルメニューの[場所を指定して開く]を選択します。

2 "http://192.168.0.1/" と入力して [開く] ボタンを押します。
「RTA50i かんたん設定ページへ行く前に」ページが表示されます。

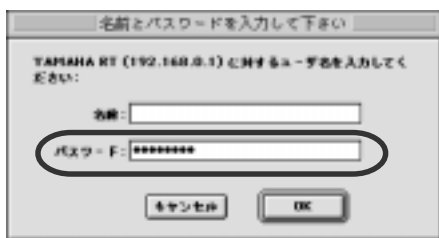


3 パスワードを半角8文字以内で上欄と下欄の2回入力して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って設定を保存します。



MEMO ● パスワードは、必ず設定してください。また、設定したパスワードは忘れないようにご注意ください。

- 4 「名前とパスワードを入力して下さい」ウィンドウが表示されたら、パスワードのみを入力して[OK]ボタンを押します。
本機に内蔵の「RTA50i かんたん設定ページ」が表示されます。



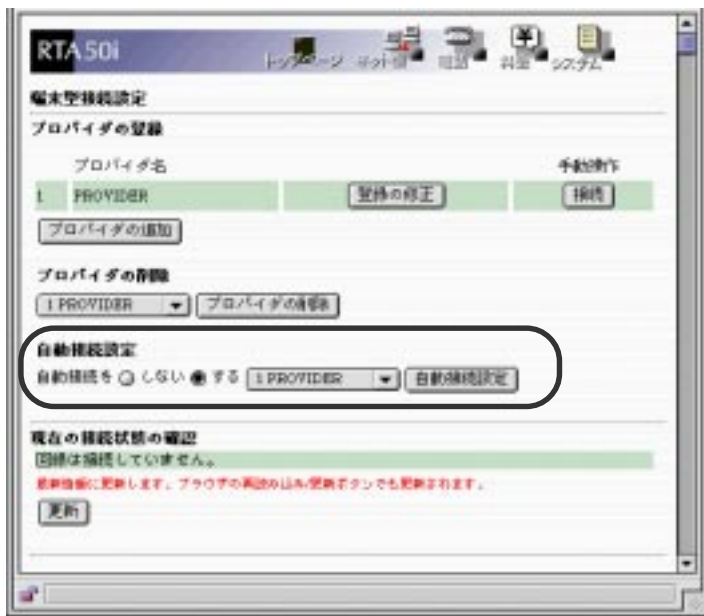
- 5 [端末型接続] を押します。
「端末型接続設定」ページが表示されます。



- 6 [プロバイダの登録] ボタンを押します。
「端末型接続設定：プロバイダの登録」ページが表示されます。

- 7 プロバイダ名、ISDN対応アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバのIP アドレスを入力し、[登録] ボタンを押します。メッセージに従ってボタンを押すと設定が保存され、「端末型接続設定」ページへ戻ります。

- 8 [自動接続設定] が [する] になり、登録したプロバイダ名が表示されていることを確認したら、設定ページを閉じます。
これで、ルータの設定は完了です。



- MEMO
- プロバイダの登録を行うと、課金制限が1万円、通信時間制限が
 - 9時間に自動設定されます (P.124)

インターネットに接続する

接続のための操作はありません。ブラウザやメールソフトでインターネットへアクセスすると、自動的にルータがプロバイダに電話をかけてインターネットへ接続されます。また、インターネットへのアクセスを一定時間誰も行わないと、自動的に接続が解除されます。

- MEMO
- インターネットへの接続を解除する時間は、180秒に設定されています。設定の変更については、かんた n 設定ページの「プロバイダ登録」の「オプション設定」、またはコマンドリファレンスをご覧ください。
 -
 - 意図しない接続や課金防止のため、設定通りの接続・切断が行われているかに注意してください。
 -

ブラウザソフトの場合

- 1 インターネットの URL アドレスを入力してアクセスします。
ルータが自動的にインターネットへ接続し、指定したアドレスのホームページが表示されます。
- 2 一定時間インターネットへのアクセスがないと、接続が解除されて電話が切れます。

メールソフトの場合

- 1 メールを受信や送信の操作を行います。
ルータが自動的にインターネットへ接続し、メールの送受信が行われます。
- 2 一定時間インターネットへのアクセスがないと、接続が解除されて電話が切れます。

- MEMO
- 誰もインターネットへアクセスしていないときは、ルータが電話をかけてインターネットへ接続するまで少し待ち時間があります。他のパソコンからアクセスがあつてすでにインターネットへ接続されているときは、すぐにアクセスできます。ただし、そのときのプロバイダの電話回線やインターネット、WWWサーバの混雑状況により、すぐにデータが送受信されるとは限りません。

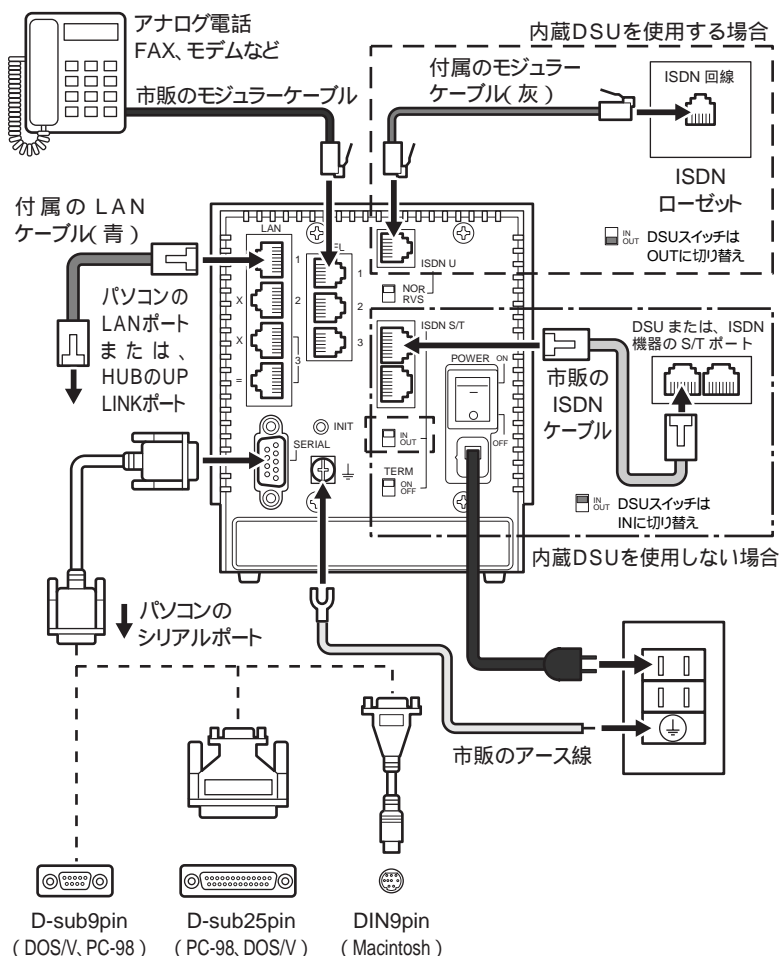
SERIAL ポートのパソコンを LAN に接続する

本機に内蔵の"擬似LAN機能"を使うと、SERIALポートに接続したパソコンもLANにアクセスできるようになります。ネットワークボードを取り付けられないパソコンや4台目のパソコンを接続するときは、この方法で接続してください。LANに接続すると、他のパソコンにアクセスできるようになり、ダイヤルアップルータの自動接続機能によるインターネット接続も利用できます。

擬似LAN機能を使うときは、以下の接続や設定を行ってください。

機器の接続

本機に付属のシリアルケーブルで、パソコンをSERIALポートに接続します。



Windows 95 の設定

擬似LAN機能を使うときは、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

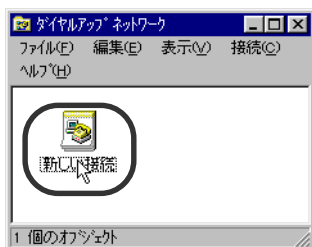
ネットワーク機能の設定

「第1章 一台のパソコンを接続する」と同様にコントロールパネルの[ネットワーク]に "TCP/IP->ダイヤルアップネットワーク"、[モデム]に本機の設定を追加します。追加のしかたについては、「ネットワーク機能の設定」(P.22) および「モデムの設定」(P.23)をご覧ください。

ダイヤルアップネットワークの設定

接続先として本機の設定を追加します。

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク]を開き、[新しい接続] アイコンを開きます。



- 2 [接続名]に "RTA50i-LAN" と入力し、[モデムの選択]に "RTA50i (Sync)" を選択して、[次へ] ボタンを押します。



- 3 市外局番は空欄のまま、電話番号に " * * * * "、国番号に " 日本 (81) " を入力して [次へ] ボタンを押し、[完了] ボタンを押します。
「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に [RTA50i-LAN] アイコンが追加されます。



- 4 [RTA50i-LAN] アイコンを選択し、ファイルメニューの [プロパティ] を選択します。



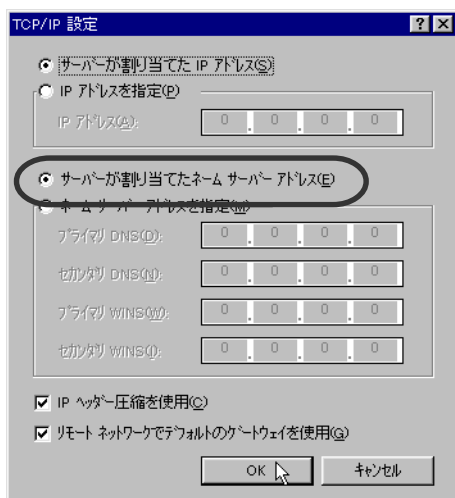
5 [サーバーの種類] タブを押します。



6 [使用できるネットワーク プロトコル] の[TCP/IP]にチェックを付けて [NetBEUI] と [IPX/SPX 互換] のチェックを外し、[TCP/IP 設定] ボタンを押します。



- 7 [サーバーが割り当てたネーム サーバーアドレス]を選択し、各ウィンドウの[OK]ボタンを押してウィンドウを閉じます。



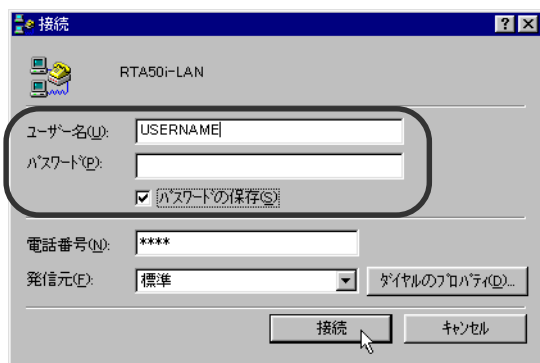
LAN への接続

LANへ接続するときは、[RTA50i-LAN]アイコンを開き、本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続します。

- 1 [ダイヤルアップ ネットワーク]フォルダの[RTA50i-LAN]アイコンを開きます。



- 2 [ユーザー名]に任意の名を入力し、[パスワード]は空欄、[パスワードの保存]をチェックして[接続]ボタンを押します。
本機の擬似LAN機能に接続し、LANにアクセスできるようになります。



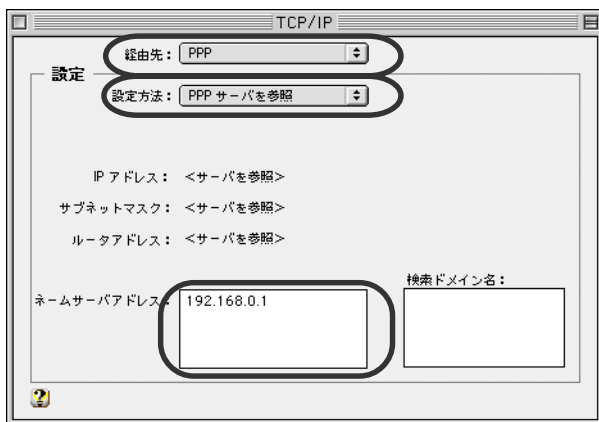
- MEMO
- 作成した [RTA50i-LAN] アイコンのショートカットをスタート
 - メニューの [スタートアップ] に追加すると、Windows 起動後
 - [RTA50i-LAN] ウィンドウが開くようになります。[接続] ボタ
 - ンを押せば、簡単にLANへアクセスできます。

Macintosh の設定

ネットワーク機能の設定

コントロールパネルの [TCP/IP] と [モデム] を設定します。

- 1 コントロールパネルの [TCP/IP] を開き、[経由先] を "PPP" または "FreePPP"、[設定方法] を "PPPサーバを参照" に設定して、[ネームサーバアドレス] 欄に本機のIPアドレス(通常は192.168.0.1)を設定します。設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じます。



OpenTransport/PPP の場合

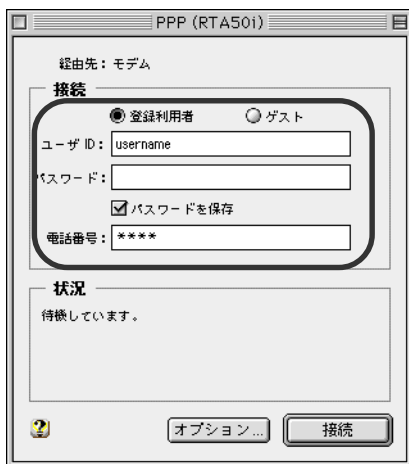
- 2 コントロールパネルの [モデム] を開き、[経由先] に接続したポート、[モデム] の種類に "RTA50i 64k"、[ダイアル] の種類に "トーン" を設定します。設定が終わったら、「モデム」ウィンドウを閉じます。



ダイヤルアップ接続の設定

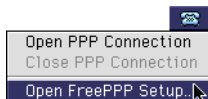
Opentransport/PPP の場合

- 1 コントロールパネルの [PPP] を開きます。
- 2 ユーザ名に任意のユーザ名、[パスワード] は空欄、[パスワードを保存] をチェックし、電話番号に " * * * * " を入力します。
設定が終わったら、「PPP」ウィンドウを閉じます。

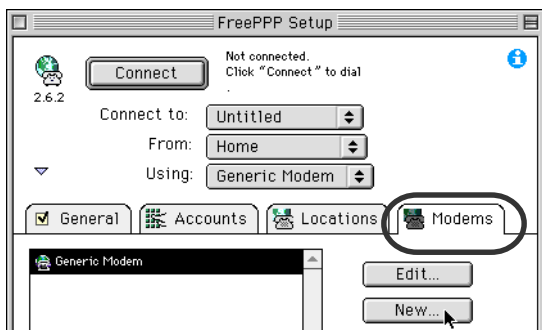


FreePPP の場合

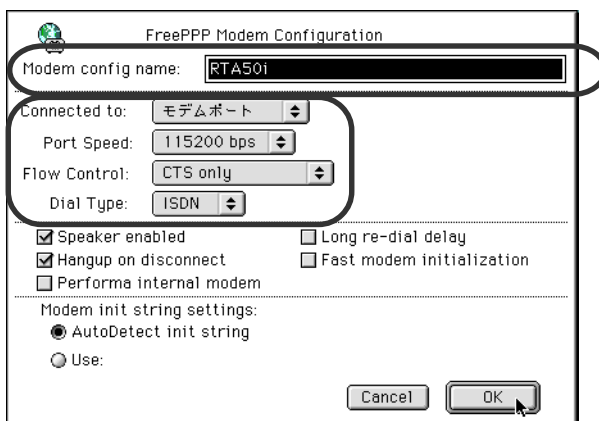
- 1 (FreePPP) メニューの [Open FreePPP Setup] を選択します。
メニューバーにアイコンがないときは、[FreePPP2.6] フォルダの [FreePPP] アイコンを開きます。



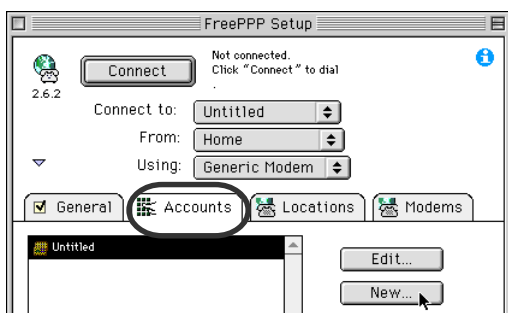
- 2 「Modems」タブの [New] ボタンを押します。
「FreePPP Modem Configuration」ウィンドウが表示されます。



- 3 [Modem config name] にモデムの名前を入力し、[Connected to] に接続したポート、[Port Speed] に "115200bps"、[Flow Control] に "CTS only"、[Dial Type] に "ISDN" を設定して、[OK] ボタンを押します。



- 4 [Accounts] タブの [New] ボタンを押します。



- 5 [Account] タブで [Account Name] に "RTA50i-LAN"、[User Name] に任意のユーザ名を入力します。
[パスワード] は入力不要です。

Account name: RTA50i-LAN

Connect: Directly

Edit connection script...

User name: username

Password:

☒ Reconnect automatically if connection drops

Cancel OK

- 6 [Dialup] タブで [Phone Number] に " * * * * "を入力し、[OK] ボタンを押します。

Main Number:

Area code:

Phone number: ****

☐ Dial area code ☐ Dial as long distance

Alternate Number 1:

Area code:

Phone number:

☐ Dial area code ☐ Dial as long distance

Alternate Number 2:

Area code:

Phone number:

☐ Dial area code ☐ Dial as long distance

Cancel OK

- 7 設定が終わったら、「FreePPP Setup」ウィンドウを閉じて設定を保存します。

LAN への接続

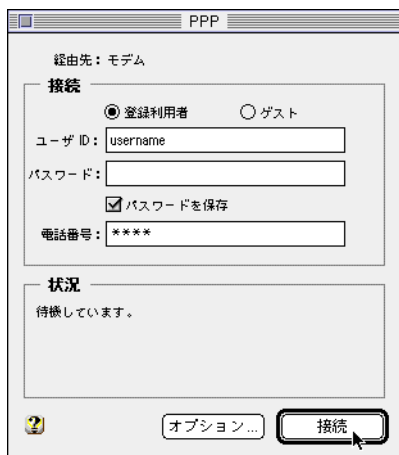
LANへ接続するときは、PPPまたはFreePPPを開いて本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続します。

Opentransport/PPP の場合

1 コントロールパネルの [PPP] を開きます。

2 [接続] を押します。

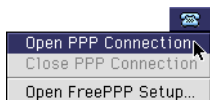
本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続し、LANにアクセスできるようになります。



- MEMO
- [PPP] のエイリアスを作り、[システムフォルダ] 内の [起動項目] フォルダに入れておくと、Macintosh 起動後、「PPP」のウィンドウが開くようになります。[接続] ボタンを押せば、簡単に
 - LAN へアクセスできます。

FreePPP の場合

- 1** (FreePPP) メニューの [Open PPP Connection] を選択します。
メニューバーにアイコンがないときは、[FreePPP2.6] フォルダの [FreePPP] アイコンを開き、[Connect] ボタンを押します。
本機の擬似 LAN 機能にダイヤルアップ接続し、LAN にアクセスできるようになります。



- MEMO
- [FreePPP] のエイリアスを作り、[システムフォルダ] 内の [起動項目] フォルダに入れておくと、Macintosh 起動後、「FreePPP」のウィンドウが開くようになります。[Connect] ボタンを押せば、簡単に LAN へアクセスできます。

第3章

専用線で接続する

デジタルアクセス 64 や OCN エコノミーなどの専用線でインターネットへ接続するときは、本機をルータとして使います。ネットワークボードと LAN ケーブルがあれば 3 台までのパソコンをすぐにインターネットへ接続できます。また、ネットワークボードがなくても、本機に内蔵の " 擬似 LAN 機能 " で SERIAL ポートに接続したパソコンを LAN に接続可能です。5 台以上を接続する場合は、HUB を別途ご用意ください。

揃っていますか？

インターネットへ接続するには、次の機器や情報が必要です。すべて揃っているか確認しましょう。

必要な契約

専用線

デジタルアクセス 64 や OCN、ODN、DION などのさまざまな専用線サービスがあります。それぞれを扱っている事業者へお申し込みください。申込票の各項目には、下記を参考にご記入ください。

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| ・ 通信機器の名称 | RTA50i |
| ・ メーカー | YAMAHA |
| ・ 認定番号 | T98-5073-0 U98-0062-0 N98-0030-0 |

プロバイダとの契約

いずれかのプロバイダに " 専用線接続 " の契約でお申し込みください。契約時に次の情報を確認してください。

- ・ ドメイン名
- ・ ネームサーバアドレス (DNS アドレス)
- ・ IP アドレス番号 (例 : 192.168.0.112)
- ・ ネットマスク (例 : 225.225.225.240)
- ・ 回線速度

必要なハードウェア

- ・ パソコン
- ・ パソコン用ネットワークボード(パソコンに10BASE-Tポートがない場合)
- ・ 本機
- ・ LAN ケーブル (本機に 1 本付属)
- ・ HUB (パソコンを 5 台以上接続する場合)
- ・ シリアルケーブル (擬似 LAN 機能を使用する場合、本機に付属)

必要なソフトウェア

- ・ ネットワーク接続ソフトウェア
(OS のインストール CD-ROM または、本機の CD-ROM に付属)
- ・ WWW ブラウザ (本機の CD-ROM に付属)

ハードウェアをセットアップしよう

機器の接続

本機をルータとして使うときは、図のように接続します。また、SERIALポートに接続したパソコンをLANに接続することもできます。その場合はHUBを追加せずに4台のパソコンを接続可能です。



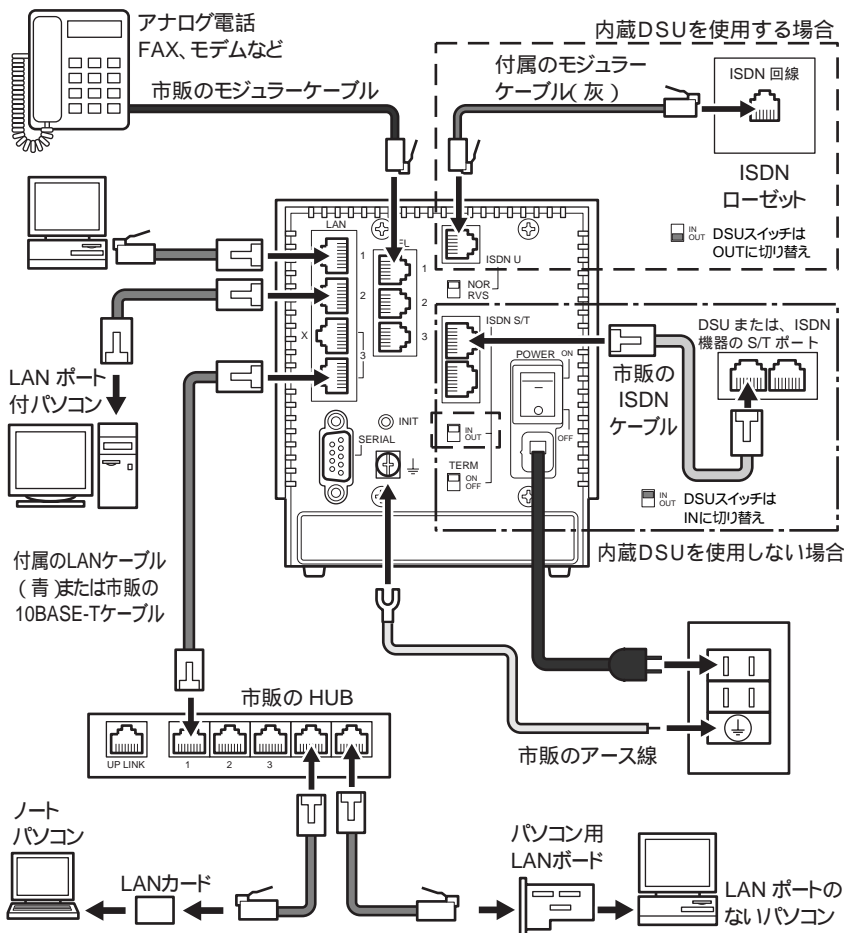
警告

接続を始める前に必ず本機やパソコンの電源をオフにしてから作業してください。オンのまま接続すると、機器の破損もしくは故障の原因となります。



注意

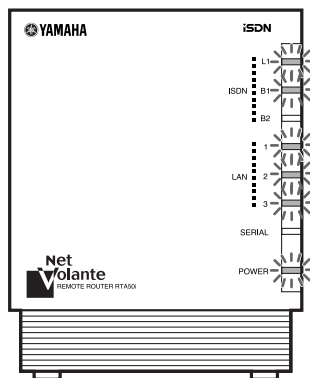
S/Tポート用ISDNのケーブルとLANケーブル(青)は、コネクタの形状が同じです。間違えて取り付けないように注意してください。



- MEMO ● SERIALポートに接続しているパソコンをLANに接続することも
 ● できます。設定方法については「第2章 SERIALポートのパソコンをLANに接続する」(P.56)をご覧ください。

動作の確認

接続が完了したら、本体背面のPOWERスイッチをオンにし、ランプの点灯状態を確認します。最初にすべてのランプが点灯し、ランプが数回点滅した後、POWERランプと接続したLANポート、L1ランプ、B1ランプ(128Kの場合はB1とB2ランプ)が点灯すれば正常です。



POWERランプが点灯しないときは

POWERランプが点滅または消灯しているときは、次を確認してください。

- ・ 電源コードがコンセントに正しく接続されていることを確認してください。
- ・ 電源コードやコンセントに電源が来ていることを確認してください。

ISDN L1/B1ランプが点灯しないときは

ISDN L1ランプやB1ランプが消灯しているときは、次を確認してください。

- ・ 内蔵のDSUを使用している場合は、電源スイッチをオフにし、DSUスイッチをOUT側、ISDN Uポートの極性反転スイッチを逆側にして電源スイッチをオンにしてください。
- ・ 内蔵のDSUを使用していない場合は、DSUスイッチをIN側、ISDN S/Tポートに接続されているDSUやISDN機器のターミネータスイッチが、いずれか1つオンになっていることを確認してください。

LANランプが点灯しないときは

LANランプが消灯しているときは、次を確認してください。なお、データの通信中は、不規則に点滅すれば正常です。

- ・ LANケーブルが確実に接続されているか確認してください。
- ・ LAN1/2/3 × ポートはパソコンのLANポートまたはHUBのUPLINKポートへ、LAN3 × ポートはHUBのUPLINK以外のポートへ接続されているかをすべて確認してください。
- ・ HUBの電源が入っているか確認してください。

ソフトウェアを準備しよう

インターネットに接続するためには、接続するためのネットワーク機能や、本機を設定するためのブラウザが必要です。これらのソフトウェアは、本機に付属のCD-ROM や OS のインストール CD-ROM またはフロッピーディスクに収録されています。作業を始める前にご用意ください。

- MEMO ● ここでは、ルータの DHCP サーバ機能（自動的に LAN 内機器の
● IPアドレスを割り当てる機能）を使った設定方法を説明していま
● す。この機能を使うと LAN の構成が変わっても、各パソコンの
● 設定を変更する必要はありません。各パソコンに決まったIPアド
● レスを割り当てて使うこともできます。設定方法については、付
● 属のCD-ROMに収録されているマニュアルをご覧ください。



注意

インストールを始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。インストールの途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

Windows95の設定

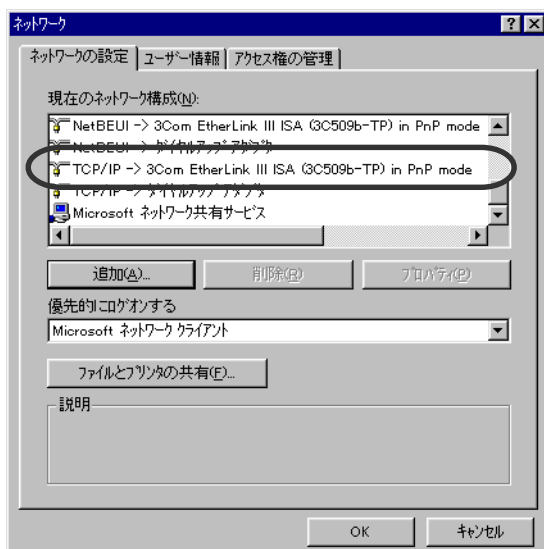
Windows95 の場合は、ネットワークの設定とブラウザのインストールを行います。ネットワークボードが装着されていないときは、先にネットワークボードのインストールを行ってください。

ネットワーク機能の設定

ネットワーク機能の設定は、LAN に接続されているすべてのパソコンで行ってください。

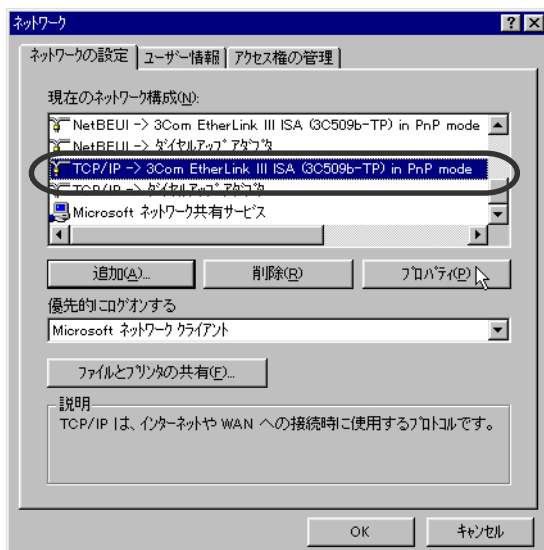
- MEMO ● ここで説明するネットワーク機能の設定は、「第2章 複数のパ
● ソコンを接続する」のダイヤルアップルータで接続する場合と同
● じです。ダイヤルアップルータ接続から専用線へ変更する場合に
● は、設定の変更は必要ありませんので、「ルータの専用線接続設
● 定」（P.75）へ進んでください。

- 1 [コントロール パネル] の [ネットワーク] を開き、リストに "TCP/IP--> (ネットワークボード名)" があるかを確認します。

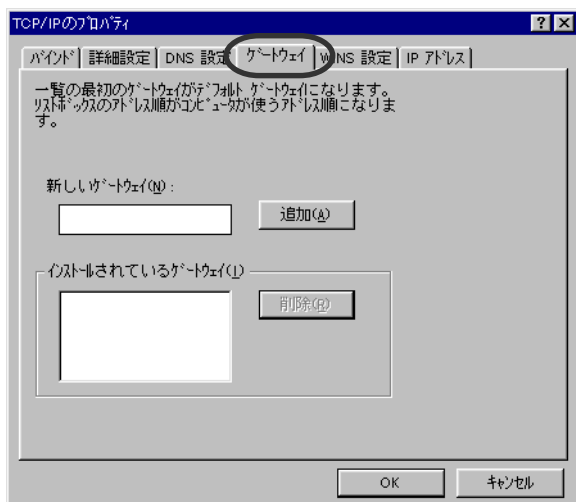


ない場合は [追加] ボタンを押して、[プロトコル] の追加で [Microsoft] の [TCP/IP] を追加します。

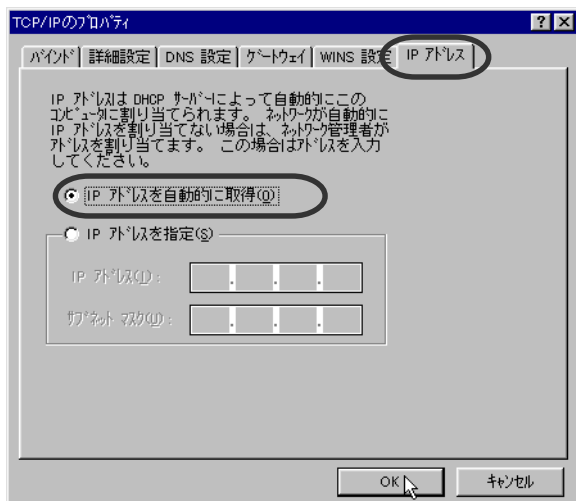
- 2 リストの [TCP/IP --> (ネットワークボード名)] を選択し、[プロパティ] ボタンを押します。



3 [ゲートウェイ]タブの一覧に登録されているアドレスをすべて削除します。



4 [IP アドレス] タブの [IP アドレスを自動的に取得] を選択し、[OK] ボタンを押します。



5 [OK] ボタンを押して「ネットワーク」ウィンドウを閉じ、設定を変更した場合、パソコンを再起動します。

ブラウザのインストール

本機の設定変更はブラウザを使って行います。パソコンにブラウザがインストールされていないときは、付属のCD-ROMからブラウザをインストールします（ P.184 ）。

ルータの専用線接続設定

ルータにネットワーク型接続の設定を行います。設定には、Netscape Navigator 2.0J 以降または Internet Explorer 3.0J 以降のブラウザが必要です。ここでは、Netscape Navigator 4.0J を例に説明します。

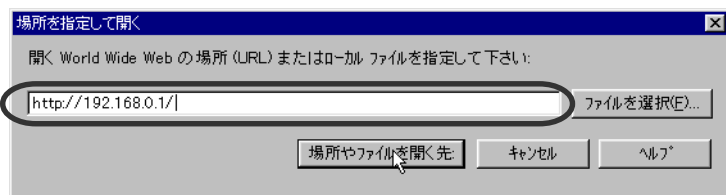
- 1 本機と設定を行うパソコンだけの電源をオンにし、他のパソコンをオフにします。

MEMO ● 他のすべてのパソコンをオフにできない場合は、本機に1台のパソコンだけ接続している状態にして、設定を行います。
● 本機に接続されている LAN ケーブルを一旦すべて外し、LAN 1
● ポートと設定を行うパソコンの LAN ポートを付属の LAN ケーブルで接続してください。

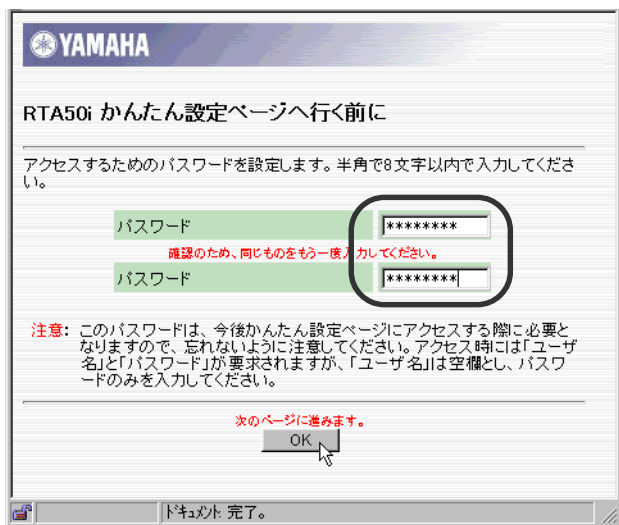
- 2 ブラウザを開き、ファイルメニューの [ページを開く] を選択します。

- 3 "http://192.168.0.1/" と入力して [場所やファイルを開く先:] ボタンを押します。

「RTA50i かんたん設定ページへ行く前に」ページが表示されます。



- 4 パスワードを半角8文字以内で上欄と下欄の2回入力して[OK]ボタンを押し、確認のメッセージに従って設定を保存します。

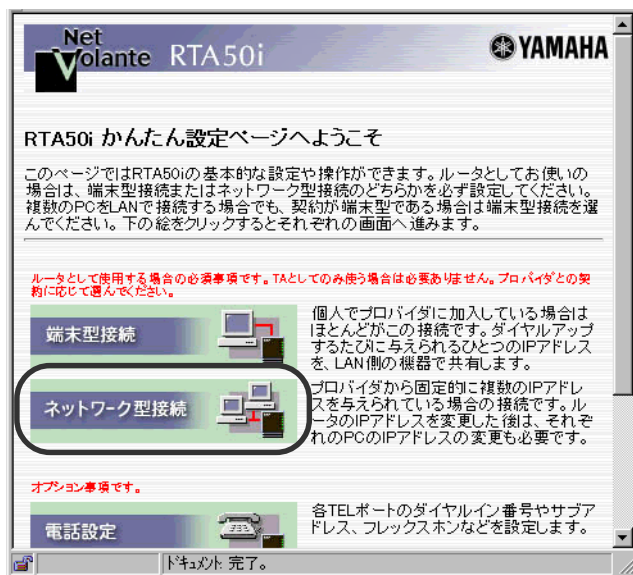


- MEMO
- パスワードは、必ず設定してください。また、設定したパスワードは忘れないようにご注意ください。

- 5 「ユーザ名とパスワードの入力」ウィンドウが表示されたら、パスワードのみを入力して[OK]ボタンを押します。
本機に内蔵の「RTA50i かんたん設定ページ」が表示されます。



- 6 [ネットワーク型接続] を押します。
「ネットワーク型接続設定ページ」が表示されます。



- 7 [IPアドレス] にプロバイダから割り当てられたIPアドレスの中からルータに設定するIPアドレスとネットマスク、[回線の種類] に専用線の回線速度、[DNS関連] にプロバイダのネームサーバのIPアドレスとドメイン名を入力し、[登録] ボタンを押します。
- メッセージに従ってボタンを押すと設定が変更されます。

RTA50i

トップページ 端末型 電話 料金 システム

ネットワーク接続設定

契約したインターネットプロバイダから通知された情報も設定します。
DNSサーバアドレスの自動取得は、プロバイダが対応している必要があります。

IPアドレス

ルータのIPアドレス 172.16.128.113 IPアドレス半角入力

ネットマスク 24 マスクビット数

回線の種類

☐ ISDN

プロバイダの電話番号 1 半角入力32桁以内

2 <省略可能>

3 <省略可能>

ユーザID 半角入力32文字以内

パスワード 半角入力32文字以内

☒ 64 [kb/s] <HSD64、DA64など>

☐ 128 [kb/s] <OCNエコノミー、HSD128、DA128など>

DNS関連

DNSサーバアドレス IPアドレスを指定する

プライマリDNSサーバアドレス 10.40.3.22 指定の場合半角入力

セカンダリDNSサーバアドレス 10.40.3.40 <省略可能>

ドメイン名 provider.ne.jp 半角入力255文字以内

NAT関連

NAT ☐ 使用する ☒ 使用しない

IP Masquerade ☐ 使用する ☒ 使用しない NAT使用時のみ有効

NATグローバルアドレス範囲始点 IPアドレス半角入力

NATグローバルアドレス範囲終点 IPアドレス半角入力

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 キャンセル

8 パソコンを再起動します。

インターネットへアクセスできることを確認したら、他のパソコンを起動します。LAN ケーブルを付け替えたときは、元にもどしてから他のパソコンを起動してください。

MEMO ● ルータを正しく認識しないときは、「TCP/IPのアドレスをリセットする」(P.180)を行ってください。

MEMO ● プロバイダから割り当てられた IP アドレスのうち、始めの番号
● はネットワークアドレス、最後の番号はブロードキャストアドレスに割り当てるきまりになっていて、使うことができません。
● 例えば、"172.16.128.112/28" の IP アドレスを割り当てられた場合、
● 割り当てられた番号は "172.16.128.112" ~ "172.16.128.127" の
● 16 個ですが、
●
● 172.16.128.112 = ネットワークアドレス
● 172.16.128.113
●
●
● 172.16.128.126
● 172.16.128.127 = ブロードキャストアドレス
●
● となり、実際にルータやパソコンなどに使える番号は、
● "172.16.128.113" ~ "172.16.128.126" の 14 個となります。

Macintoshの設定

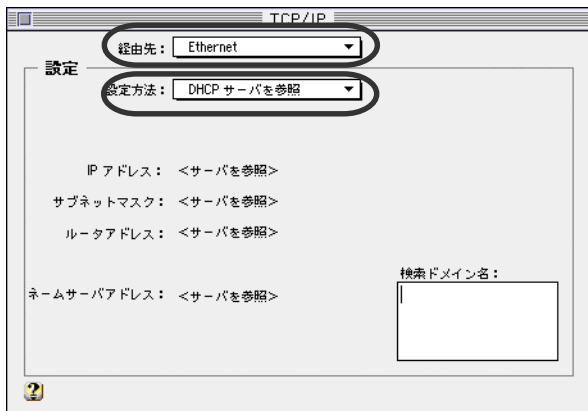
Macintoshでは、ネットワーク機能およびブラウザのインストールを行います。
"TCP/IP" コントロールパネルと関連する機能拡張ファイルが必要です。TCP/IPはOSのインストールCD-ROMに収録されていますので、コントロールパネルに表示されていないときは、追加インストールしてください。

ネットワーク機能の設定

ネットワーク機能の設定は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。ここでは、代表的な例について説明しています。

- MEMO
- ここで説明するネットワーク機能の設定は、「第2章 複数のパソコンを接続する」のダイヤルアップルータで接続する場合と同じです。ダイヤルアップルータ接続から専用線へ変更する場合には、設定の変更は必要ありませんので、「ルータの専用線接続設定」(P.81) へ進んでください。

- 1 コントロールパネルの[TCP/IP]を開き、[経由先]を "Ethernet"、[設定方法]を "DHCP サーバを参照" に設定します。



- 2 設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じて設定を保存します。

ブラウザのインストール

本機の設定変更はブラウザを使って行います。パソコンにブラウザがインストールされていないときは、付属のCD-ROMからブラウザをインストールします（ P.184 ）。

ルータの専用線接続設定

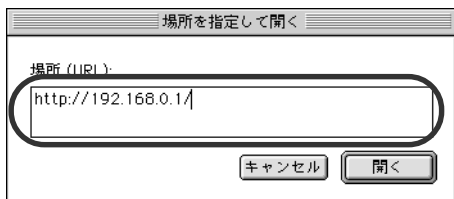
ルータにネットワーク型接続の設定を行います。設定には、Netscape Navigator 2.0J 以降または Internet Explorer 3.0J 以降のブラウザが必要です。ここでは、Netscape Navigator 4.0J を例に説明します。

- 1 本機と設定を行うパソコンだけの電源をオンにし、他のパソコンをオフにします。

MEMO ● 他のすべてのパソコンをオフにできない場合は、本機に1台のパソコンだけ接続している状態にして、設定を行います。
● 本機に接続されている LAN ケーブルを一旦すべて外し、LAN 1 ポートと設定を行うパソコンの LAN ポートを付属の LAN ケーブルで接続してください。

- 2 ブラウザを開き、ファイルメニューの[場所を指定して開く]を選択します。

- 3 "http://192.168.0.1/" と入力して[開く]ボタンを押します。
「RTA50i かんたん設定ページへ行く前に」ページが表示されます。



- 4 パスワードを半角8文字以内で上欄と下欄の2回入力して[OK]ボタンを押し、確認のメッセージに従って設定を保存します。

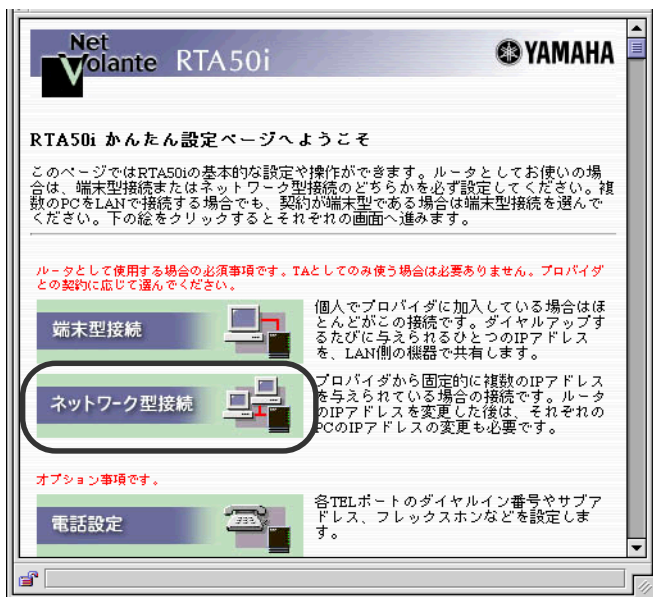
The screenshot shows a web-based setup interface for the Yamaha RTA50i. At the top, there is a Yamaha logo and the text "RTA50i かんたん設定ページへ行く前に". Below this, a message states: "アクセスするためのパスワードを設定します。半角で8文字以内で入力してください。" (Set a password for access. Enter within 8 characters, half-width). There are two input fields for the password, both containing masked characters (dots). A red circle highlights the second input field, and a red arrow points to it with the text "確認のため、同じものをもう一度入力してください。" (For confirmation, enter the same one again). Below the input fields, a note says: "注意： このパスワードは、今後かんたん設定ページにアクセスする際に必要となりますので、忘れないように注意してください。アクセス時には「ユーザ名」と「パスワード」が要求されますが、「ユーザ名」は空欄とし、パスワードのみを入力してください。" (Note: This password is required for future access to the easy setup page, so please be careful not to forget it. When accessing, both "Username" and "Password" are required, but leave "Username" empty and only enter the password). At the bottom, there is a red message "次のページに進みます。" (Proceed to the next page.) and an "OK" button.

- MEMO ● パスワードは、必ず設定してください。また、設定したパスワードは忘れないようにご注意ください。

- 5 「名前とパスワードを入力して下さい」ウィンドウが表示されたら、パスワードのみを入力して[OK]ボタンを押します。
本機に内蔵の「RTA50i かんたん設定ページ」が表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled "名前とパスワードを入力して下さい". Inside, it says "YAMAHA RT (192.168.0.1) に対するユーザ名を入力してください：" (Please enter the username for YAMAHA RT (192.168.0.1)). There are two input fields: "名前：" (Name) and "パスワード：" (Password). The password field is highlighted with a red oval. At the bottom, there are two buttons: "キャンセル" (Cancel) and "OK".

- 6 [ネットワーク型接続] を押します。
「ネットワーク型接続設定」ページが表示されます。



- 7 [IPアドレス] にプロバイダから割り当てられたIPアドレスの中からルータに設定するIPアドレスとネットマスク、[回線の種類] に専用線の回線速度、[DNS関連] にプロバイダのネームサーバのIPアドレスとドメイン名を入力し、[登録] ボタンを押します。
- メッセージに従ってボタンを押すと設定が変更されます。

RTA 50i

トップページ モデム型 電話 料金 システム

ネットワーク接続設定

契約したインターネットプロバイダから通知された情報を設定します。
DNSサーバアドレスの自動取得は、プロバイダが対応している必要があります。

IPアドレス

ルータのIPアドレス 172.16.128.113 IPアドレス半角入力

ネットマスク 24 ネットマスクビット数

回線の種類

☒ ISDN

プロバイダの電話番号 1 半角入力32桁以内

2 <省略可能>

3 <省略可能>

ユーザID 半角入力32文字以内

パスワード 半角入力32文字以内

☒ 64 [kbits] (HSD64、DA64など)

☐ 128 [kbits] (OCNエコノミー、HSD128、DA128など)

DNS関連

DNSサーバアドレス IPアドレスを指定する

プライマリDNSサーバアドレス 10.40.3.22 指定の場合半角入力

セカンダリDNSサーバアドレス 10.40.3.40 <省略可能>

Fメイン名 provider.ne.jp 半角入力255文字以内

NAT関連

NAT ☐ 使用する ☒ 使用しない

IP Masquerade ☐ 使用する ☒ 使用しない NAT使用時のみ有効

NATグローバルアドレス範囲始点 IPアドレス半角入力

NATグローバルアドレス範囲終点 IPアドレス半角入力

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 キャンセル

MEMO ● ルータに割り当てるIPアドレスについて (P.79)

- 8 Macintoshを再起動します。
- インターネットへアクセスできることを確認したら、他のパソコンを起動します。LAN ケーブルを付け替えたときは、元にもどしてから他のパソコンを起動してください。

インターネットに接続する

インターネットへは常に接続されているので、接続のための操作はありません。ブラウザやメールソフトでインターネットへアクセスすると、データが送受信されます。

ブラウザソフトの場合

- 1 インターネットの URL アドレスを入力してアクセスします。
指定したアドレスホームページが表示されます。

メールソフトの場合

- 1 メールの受信や送信の操作を行います。
メールの送受信が行われます。

- MEMO
- インターネットへは常に接続されていますが、そのときのインターネットやWWWサーバの混雑状況により、すぐにデータが送受信されるとは限りません。

第4章

電話やFAXを接続する

本機はアナログ機器用のポートを3ポート装備しており、今まで使っていた電話機やFAX、モデム、電気/ガスの遠隔検針機器などを各TELポートに1台ずつ、3台まで接続することができます。また、ISDNのさまざまなサービスに対応しています。

ISDNの付加サービスについて

ISDN回線では、次のようなサービスが利用できます。サービスによって申し込みが必要なものや有料のものがあります。また、その他にもさまざまなサービスがありますので、詳しくはNTTへお問い合わせください。

発信者番号通知：	発信者の番号を相手に通知できます。
サブアドレス通知：	ISDN回線からの通話の場合に、接続した機器を指定して着信させることができます。
ダイヤルイン（有料）：	電話番号を増設し、アナログ回線からでも機器を指定して着信させることができます。
料金情報通知：	通話にかかった料金が通知されるサービスです。
ユーザ間情報通知：	通信開始時と終了時にメッセージを送受信できます。
通信中着信サービス：	2チャンネルとも通話中のときに、3つめの着信を知らせるサービスです。
コールウェイトイング（有料）：	通話中に着信があったとき、通話中の相手を保留にして着信に応答できます。
三者通話（有料）：	通話中に第三者を呼び出し、三者間通話ができます。
通信中転送（有料）：	通話中の通信を第三者へ転送できます。
着信転送（有料）：	着信した通信を応答する前に第三者へ転送できます。

フレックスホンと擬似フレックスホンの違い

本機では、アナログ通信機能としてフレックスホンと擬似フレックスホンをご利用できます。フレックスホンはNTTの電話局側から提供される有料のサービスで次の4つのサービスの総称です。

1. コールウェイティング
2. 通信中転送
3. 三者通話
4. 着信転送

擬似フレックスホンは、これとほぼ同等の機能を本機側で実現するものです。また、フレックスホン同様に4つのサービスの先頭に「擬似」を付けて、擬似コールウェイティング、擬似通信中転送、擬似三者通話、擬似着信転送と呼ぶこともあります。

NTTのフレックスホンと本機の擬似フレックスホンでは、何が異なるのでしょうか。擬似フレックスホンでは、NTTの交換機が行なうことを、ISDN回線では2本分の通信ができることを応用して実現しています。擬似フレックスホンを使用している時には2本分の通信が全て使われてしまい、別の通信などができなくなる点が大きな違いです。

NTTのフレックスホンをお使いになる場合にはNTTとの契約が必要です。工場出荷設定では、フレックスホンも擬似フレックスホンも使用できません。NTTのフレックスホンのすべてまたは一部を使用したり、擬似フレックスホン機能のすべてまたは一部を使用したりするためには、本機側の設定が必要となります。設定はアナログ電話機、かんたん設定ページ、ターミナルソフトを使用したコンソールコマンドによる設定のいずれでも行うことができます。

電話機で設定する : (P.111)

かんたん設定ページから設定する : (P.108)

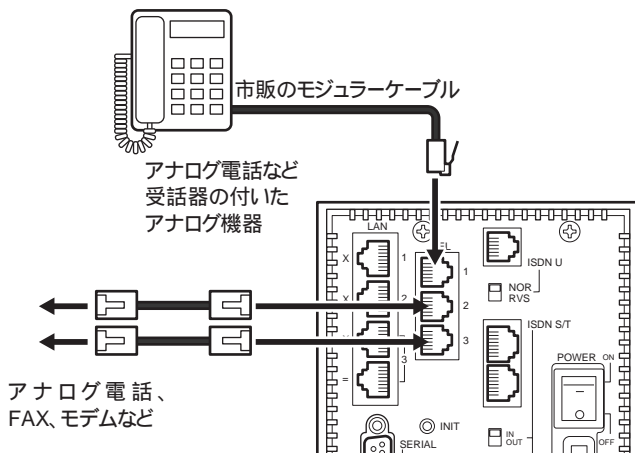
ターミナルからコンソールコマンドを使って設定する : (P.138)

- MEMO
- NTTと契約していないフレックスホンの機能については、本機の
 - 設定でも必ず機能を使わない設定にしてください。契約されてい
 - ない機能が本機の設定で使うように設定されていると誤動作の原
 - 因となります。

アナログ機器を接続しよう

機器の接続

本機は、アナログ機器を3台まで接続することができます。そのうちTEL1ポートは、乾電池によるバックアップ電源で停電時の通話が可能になりますので、電話機や受話器の付いたFAXなどを接続してください。

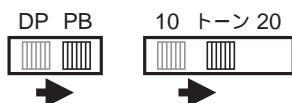


- MEMO
- 本機の機能を最大限にお使いいただくためには、PB電話機のご使用をお勧めします。
 -
 - 本機には、DP電話機もPB電話機も接続できますが、DP電話機では、*キーを使う内線通話機能や内線転送機能、フレックスホン及び擬似フレックスホンの操作、機器の設定はできません。
 -
 - 本書では、特に断わりが無い限りアナログ通信機器を代表してアナログ電話機と記載します。アナログ通信機器の代表は、電話機、FAX及びモデムです。
 -

PB（トーン）に切り替える

ISDN回線に切り替える前にお使いの電話機が、ダイヤルパルス回線に接続されていた場合には「DP」または「パルス」に、プッシュ回線に接続されていた場合には「PB」または「トーン」に設定されています。

電話機によってはDPとPBの切り替えスイッチがあります。DPと明記されている場合もありますが、「トーン」と共に単に「10」や「20」と明記されている場合もあります。「10」や「20」は速度を意味しています（詳しくはその電話機の取扱説明書で確認してください）。本機のTELポートへ接続する場合には、必ずPBまたはトーンに切り替えてください。



動作の確認

接続が完了したら、本体背面のPOWERスイッチをオンにし、しばらくしてISDN L1ランプが点灯することを確認します。

受話器を取って、受話器から「ツー」という音が聞こえたら正常に接続されています。

フッキングについて

フックボタンを押してすぐ放す操作を"フッキング"といいます。フックボタンを長く(1秒以上)押すと、"オンフック"(受話器を置いた状態)とみなされて電話が切れてしまうので、ご注意ください。

- MEMO
- フッキングかオンフックかを判別する時間をフッキング判定時間
 - と呼び、工場出荷設定(1秒)から設定変更が可能です。
 -

多機能電話などをお使いのときは、本文中のフッキング操作は、キャッチボタン(またはフックボタン、フラッシュボタンなど)を押す操作となります。詳しい操作は、お使いのアナログ電話機の取扱説明書でご確認ください。

電話をかける・うける

本機に接続したアナログ機器は、通常のアナログ回線の場合と同様に使うことができます。また、アナログ通信とデジタル通信を合わせて2つまで同時に通信することができます。

電話をかける

電話機で外線をかけるときは、通常の電話と同様の動作です。

- 1 受話器を取ります。
発信音が聞こえます。

- 2 相手の電話番号をダイヤルします。
サブアドレスは*キーに続けてダイヤルします。
ダイヤル後に#キーを押すとすぐに発信します。
呼び出し音が聞こえ、相手が出ると通話できます。

- MEMO
- ダイヤルの設定は、トーン（ブッシュ）、パルス（ダイヤル）の
 - どちらでもかけることができますが、通常はトーンの設定でお使
 - ください。

電話をうける

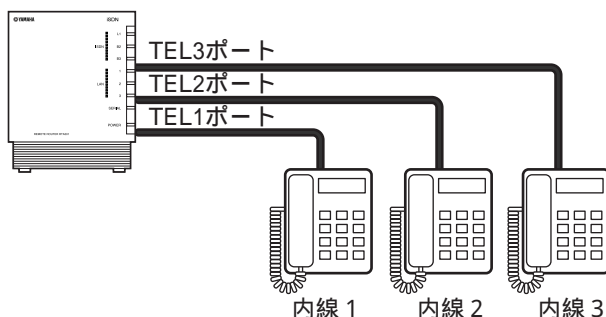
電話がかかってくると、本機に接続したすべてのアナログ機器から呼び出し音が鳴ります。また、通話中に着信があった場合は、他の機器の呼び出し音が鳴り、同時に2通話まで使うことができます。

- 1 電話がかかってくると、呼び出し音が鳴ります。
受話器をとると、通話できます。

- MEMO
- ダイヤルインサービスやサブアドレスを設定した場合は、指定したポートのアナログ機器のみ呼び出し音が鳴ります。

内線電話をかける・転送する

TEL ポートに接続したアナログ機器どうして、内線通話をすることができます。
本機のTELポートへ接続したアナログ機器は、TEL1ポートが内線番号[1]、TEL2ポートが内線番号[2]、TEL3ポートが内線番号[3]となります。



内線をかける

内線をかけるときは、次のように操作します。

1 受話器を取ります。

発信音が聞こえます。

2 [*] に続けて内線番号をダイヤルします。

全ての内線呼び出す場合には [*] [*] をダイヤルします。

指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。相手が出ると通話できます。

⊗ ① (TEL1ポートを呼び出す場合の例)

⊗ ⊗ (全てのポートを呼び出す場合の例)

MEMO ● 指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りません。

外線通話を他の内線へ転送する

通話中の外線通話を、他のアナログ機器へ転送できます。

1 通話中にフッキングします。

2 [*] に続けて内線番号をダイヤルします。

指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。

ⓧ ③ （TEL3ポートへ転送する場合の例）

3 内線の相手が出たら外線の転送を伝え、フッキングします。

呼出中に受話器を置くと内線相手が出る前に転送することができます。

4 " ツツツーツツツ " という音が聞こえている間に受話器を置きます。
外線通話が転送されます。

MEMO ● 指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りま
● せん。

他の電話機にかかった外線を受ける

ダイヤルインサービスなどでアナログ機器の着信を使い分けている場合、ベルが鳴っていない電話機からでも、他のアナログ機器の着信を受けることができます。これを"代理応答"といいます。

代理応答するときは、次の手順で操作します。

1 外線がかかってきたら、ベルの鳴っていない電話機の受話器をとります。
発信音が聞こえます。

2 フッキングします。
他の電話機のベルが鳴り止み、外線の相手と通話できます。

- MEMO
- フックボタンを長く(1秒以上)押すと、"オンフック"(受話器
 - を置いた状態)とみなされて切り替わりませんので、ご注意ください。
 - さい。

通話中に他の着信を受ける

通話中に電話がかかってきた場合、アナログ回線のキャッチホンサービスのように通話中の相手を保留にし、着信した電話を受けることができます。これを"擬似コールウェイティング"といい、ISDN付加サービスのコールウェイティングを契約していなくても、本機に内蔵の機能で利用できます。

まず、話中着信の設定を行います。

- MEMO
- ダイヤルの設定は、必ず電話機をトーン（プッシュ）に設定して
 - 操作してください。パルス（ダイヤル）の設定およびトーンの機
 - 能がない電話機では、設定できません（ P.89 ）

話中着信の設定

- 1 受話器をあげます。
発信音が聞こえます。ただし、回線が接続されていないときは、話中音が聞こえます。

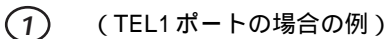
- 2 [*] と [#] を押します。
発信音が止まり、 " ツツー、ツツー " という音が聞こえます。



- 3 機能番号 36 を押します。



- 4 TEL ポート番号を押します。
TEL1ポートは[1]、TEL2ポートは[2]、TEL3ポートは[3]となります。



- 5 [1] を押します。



6 [#] を押します。

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度操作してください。



7 受話器を置きます。

別のポートも続けて設定する場合は、受話器をおかずに手順3から繰り返します。

- MEMO
- ISDN付加サービスのコールウェーティングを契約している場合は、
 - 電話機から設定するか(P.111) RTA50iかんたん設定ページ
 - の電話設定で、フレックスホンのコールウェーティングを[使用
 - する] に設定ください(P.108)。本機の工場出荷時は、「擬似
 - コールウェーティングを使用する」(フレックスホンサービスを
 - 使用しない) になっています。
- MEMO
- アナログ機器を接続していないTELポートは、なるべく電話設定
 - の「アナログポート使用制限の設定(機能番号14)」を「使用し
 - ない」に設定してください。(P.111)

操作手順

- 1 通話中に電話がかかってくると"ププププッ"という話中着信音が聞こえます。フッキングします。
通話中の相手が保留になり、着信した相手と通話できます。

- 2 通話の相手を切り替えるときは、フッキングします。
フッキング後 [*] を押すとすぐに切り替わります。
通話中の相手が保留になり、保留していた相手と通話できます。

- 3 通話を切るときは、フックボタンを長く押して放します。
通話中の電話が切れて、保留になっていた相手と通話できます。

通話を別の外線へ転送する

通話中に別の外線へ転送することができます。これを"擬似通信中転送"といい、ISDN付加サービスの通信中転送を契約していなくても、本機に内蔵の機能で利用できます。擬似通信中転送機能を使用するには、まず本機の設定変更が必要です。

- MEMO
- ダイヤルの設定は、必ず電話機をトーン(プッシュ)に設定して
 - 操作してください。パルス(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません(P.89)

擬似通信中転送の設定

- 1 受話器を取ります。
発信音が聞こえます。ただし、回線が接続されていないときは、話中音が聞こえます。
- 2 [*] と [#] を押します。
発信音が止まり、" ツツー、ツツー " という音が聞こえます。



- 3 機能番号 53 を押します。



- 4 [2] を押します。



5 [#] を押します。

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度操作してください。



6 受話器を置きます。

MEMO ● ISDN 付加サービスの通信中転送を契約している場合は、電話機から設定するか(P.111) RTA50i かんたん設定ページの電話設定で、フレックスホンの通信中転送を[使用する] に設定ください(P.108)。本機の工場出荷時は、「擬似通信中転送を使用しない」(フレックスホンサービスを使用しない)になっています。

MEMO ● アナログ機器を接続していないTELポートは、なるべく電話設定の「アナログポート使用制限の設定(機能番号14)」を「使用しない」に設定してください。(P.111)

転送手順

1 外線の手元に待っていただくように伝え、フッキングします。

2 受話器から"プッププップ"という音が聞こえたら、転送したい相手の電話番号をダイヤルします。
通話中の相手は保留状態になります。

3 相手の方が出たら、外線を転送することを伝え、フッキングします。
呼出中に受話器を置くと、相手が出る前に転送することもできます。

4 "ツツツー、ツツツー"という音が聞こえている間に受話器を置きます。
受話器を置いた後に、外線の相手と保留した外線がつながります。

三者通話

通話中に別の相手呼び出して三人で通話することができます。これを"擬似三者通話"といい、ISDN付加サービスの三者通話を契約していなくても、本機に内蔵の機能で利用できます。擬似三者通話機能を使用するには、まず本機の設定変更が必要です。

- MEMO
- ダイヤルの設定は、必ず電話機をトーン(プッシュ)に設定して
 - 操作してください。パルス(ダイヤル)の設定およびトーンの機
 - 能がない電話機では、設定できません(P.89)。

電話機から設定する

- 1 受話器をあげます。
発信音が聞こえます。ただし、回線が接続されていないときは、話中音が聞こえます。
- 2 [*] と [#] を押します。
発信音が止まり、" ツツー、ツツー " という音が聞こえます。



- 3 機能番号 5 4 を押します。



- 4 [2] を押します。



5 [#] を押します。

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度操作してください。



6 受話器を置きます。

- MEMO
- ISDN 付加サービスの三者通話を契約している場合は、電話機から設定するか(P.111) RTA50i かんたん設定ページの電話設定で、フレックスホンの三者通話を[使用する]に設定ください
 - (P.108) 本機の工場出荷時は、「三者通話を使用しない」(フレックスホンサービスを使用しない) になっています。

三者通話の手順

- 1 外線の手元に待っていただくように伝え、フッキングします。
- 2 受話器から "プッププップ" という音が聞こえたら、三者通話を行いたい相手の電話番号をダイヤルします。
通話中の相手は保留状態になります。
- 3 相手の方が出たらお話しください。
- 4 フッキングします。
「ツツツ、ツツツ」 という音が聞こえます。
- 5 「ツツツ、ツツツ」 という音が聞こえている間にもう一度、フッキングします。

6 通話中の相手と、保留中の相手の三者で通話可能になります。

- MEMO
- 三者通話を解除するには、フッキングします。三者通話になる前に話していた相手と通話状態になり、もう一方の相手は保留になります。
 -
 - 通話の相手を切り替えるとき(保留中の相手と通話するとき)はフッキングします。 " ツツーツツ " という音が聞こえたら、
 - [*] を押すことで保留中の相手と通話できます (通話中の相手は保留中になります)。

7 お話がすんだら、受話器を置きます。

三者通話の状態を受話器を置くと、両方の相手が切断されます。三者通話でない状態で受話器を置くと、保留中の相手があれば呼び出し音が鳴り、受話器を取ることでその相手とお話することができます。

外線の着信を転送する

外線の着信があったとき、その着信に回答しないであらかじめ登録しておいた相手に転送することができます。これを"擬似着信転送"といい、ISDN 付加サービスの着信転送を契約していなくても、本機に内蔵の機能で利用できます。擬似着信転送機能を使用するには、まず本機の設定変更が必要です。

- MEMO
- 転送後の通話料金は、転送した本機に課金されます。
 -
 - 擬似着信転送では転送先アドレスにサブアドレスが使用できます
 - が、NTTの着信転送を使用する場合にはサブアドレスは使用できません。
 -
 - TELポートに実際にアナログ通信機器が接続されていなくても着信転送動作を行うことはできます。
 -
 - TEL1, TEL2, TEL3ポートに異なる転送先アドレスを設定する場合は、それぞれのポートを指定して着信させるようにダイヤルイン番号を設定してください(ただし、起動できるのは先に転送開始した1つの着信のみです)。

擬似着信転送の設定

ここでは、TEL2ポートへの着信を"03-1234-9876"へ転送する場合を例に設定操作の手順を説明します。

- 1 受話器をあげます。
発信音が聞こえます。ただし、回線が接続されていないときは、話中音が聞こえます。

- 2 [*] と [#] を押します。
発信音が止まり、"ツツー、ツツー"という音が聞こえます。



- 3 機能番号 5 5 を押します。



4 TELポート番号を押します。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。TEL2ポートに設定するときは、2を押します。

[*]を押すと今お使いのTELポートに設定されます。

② (TEL2ポートの場合の例)

5 [2]を押します。

②

6 [#]を押します。

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度手順3から操作してください。

Ⓜ

7 機能番号56を押します。

⑤ ⑥

8 TELポート番号を押します。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。TEL2ポートに設定するときは、2を押します。

[*]を押すと今お使いのTELポートに設定されます。

② (TEL2ポートの場合の例)

9 転送する電話番号を設定します。

サブアドレスは電話番号の後ろに [*] を入力してから設定します。

① ③ ① ② ③ ④ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥

10 [#] を押します。

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度手順7から操作してください。

Ⓜ

11 機能番号58を押します。

⑤ ⑧

12 TELポート番号を押します。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。TEL2ポートに設定するときは、2を押します。

[*] を押すと今お使いのTELポートに設定されます。

② (TEL2ポートの場合の例)

13 着信時のコール回数を押します。

0を押すと呼出音を鳴らさずに転送します。

② (コール数2回の場合の例)

14 [#]を押します。

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度手順 11 から操作してください。



15 受話器を置きます。

この後、設定した TEL ポートへの着信は全て転送されます。

なお、設定したコール数以内に受話器を取ると転送せずに応答することができます。

- MEMO
- 着信転送モードを解除するときには「着信転送の解除・セット」
 - (P.106) を参照してください。

着信転送時の動作

1 呼出音が設定回数鳴ります。

- MEMO
- 着信転送がセットされていることを示すランプ等の表示はありません。解除忘れにご注意ください。

2 着信が転送されます。

NTT の着信転送サービスの場合は、転送完了後に発着信可能になります
が、擬似着信転送機能を使用した場合には発信も着信もできません。

- MEMO
- ISDN 付加サービスの着信転送を契約している場合は、電話機か
 - ら設定するか (P.111) RTA50i かんたん設定ページの電話設
 - 定で、フレックスホンの着信転送を [使用する] に設定ください
 - (P.108)。本機の工場出荷時は、「着信転送を使用しない」(フ
 - レックスホンサービスを使用しない) になっています。

着信転送の解除・セット

ここでは、TEL2ポートへ設定した着信転送モードにセット、または解除する操作の手順を説明します。着信転送モードをセットしたり解除しても転送先アドレスの設定は消えません。

1 受話器をあげます。

発信音が聞こえます。ただし、回線が接続されていないときは、話中音が聞こえます。

2 [*] と [#] を押します。

発信音が止まり、" ツツー、ツツー " という音が聞こえます。



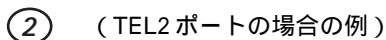
3 機能番号 5 5 を押します。



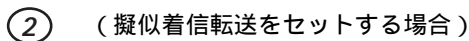
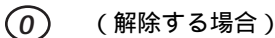
4 TEL ポート番号を押します。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。TEL2ポートに設定するときは、2を押します。

[*] を押すと今お使いのTELポートに設定されます。



5 解除する場合は [0] を、セットする場合は [2] を押します。



6 [#] を押します。

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度操作してください。

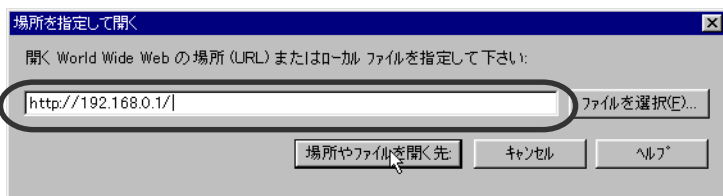


7 受話器を置きます。

かんたん設定ページから電話機能を設定する

本機の電話機能の設定は、本機とパソコンがLANで接続されていれば以下の手順で行うことができます。

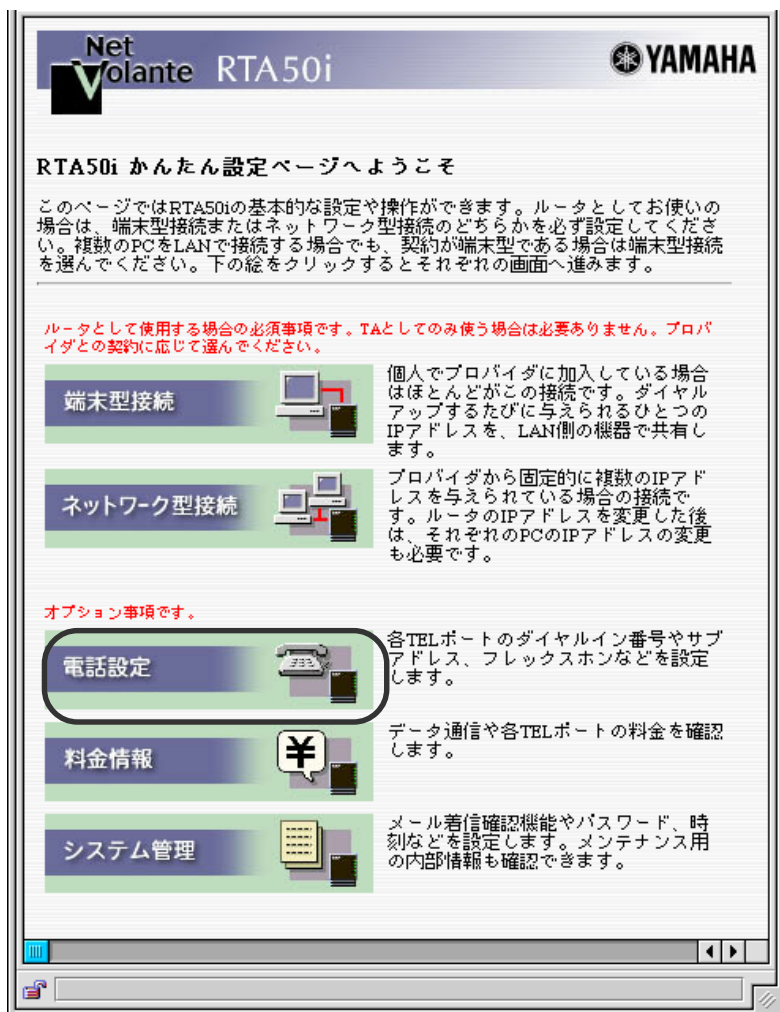
- 1 パソコンを起動します。
- 2 ブラウザを開き、ファイルメニューの[ページを開く]を選択します。
- 3 "http://192.168.0.1/" と入力して [場所やファイルを開く先:] ボタンを押します。
すでに本機に IP アドレスが設定されている場合には、192.168.0.1 のかわりにその IP アドレスを入力します。
まだパスワードが設定されていない場合にはパスワード設定画面が現れますのでパスワードを設定してください。「RTA50iかんたん設定ページへ行く前に」ページが表示されます。



- 4 「ユーザ名とパスワードの入力」ウィンドウが表示されたら、パスワードのみを入力して [OK] ボタンを押します。
本機に内蔵の「RTA50i かんたん設定ページ」が表示されます。



5 [電話設定]を押します。



- 6 画面入力が終わったら[登録]ボタンを押します。
この画面にない、さらにすすんだ設定を行う場合には[オプション設定]ボタンを押して設定してください。

RTA50i

タッチページ
端末型
ネット型
料金
システム

電話設定

ポート毎の設定

※回線番号は半角32桁以内、サブアドレスは半角16桁以内で入力してください。

TEL1ポート

回線(ダイヤルイン)番号
サブアドレス

相手へ自分の番号を通知
☒ しない
☐ する

TEL2ポート

回線(ダイヤルイン)番号
サブアドレス

相手へ自分の番号を通知
☒ しない
☐ する

TEL3ポート

回線(ダイヤルイン)番号
サブアドレス

相手へ自分の番号を通知
☒ しない
☐ する

※相手へ自分の番号を通知「する」にした場合
相手番号の前に 184 を押すことで、その発信に限って自分の番号を通知しないようにできます。
※相手へ自分の番号を通知「しない」にした場合
相手番号の前に 186 を押すことで、その発信に限って自分の番号を通知することができます。

優先着信ポートの設定

着信ポート優先順位

優先順位なし

フレックスホンの設定

種別

疑似

※フレックスを選択する場合はNTTとの契約が必要です。

コールウェーティング
☐ しない
☒ する

通信中転送
☒ しない
☐ する

三者通話
☒ しない
☐ する

着信転送
※ポート毎に設定できます。オプション設定で設定してください。

上記各項目も設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録
キャンセル
オプション設定

- 7 画面入力が終わったら[登録]ボタンを押します。

電話機から本機の電話機能を設定する

本機の機能設定は、TELポートに接続した電話機から行うことができます。電話機から〔＊〕＋〔＃〕＋〔機能番号〕＋〔TELポート番号〕＋〔設定値〕の順でダイヤルし、〔＃〕を押すと、本機の電話機能の設定が変更されます。

- MEMO
- ダイヤルの設定は、必ず電話機をトーン（プッシュ）に設定して
 - 操作してください。パルス（ダイヤル）の設定およびトーンの機
 - 能がない電話機では、設定できません（ P.89 ）
 -
 - 電話機から設定すると、設定内容は不揮発性メモリに保存されま
 - すので、電源が切れても内容は消えません。
 -
 - 外線電話から設定することはできません。
 -

電話機から設定する

ここでは、TEL2ポートにダイヤルイン番号"03-1234-9876"を設定する場合を例に操作の手順を説明します。設定できる機能と設定値については、「機能一覧表」（ P.116 ）をご覧ください。よくある設定例はP.113以降を参照してください。

1 受話器をあげます。

発信音が聞こえます。ただし、回線が接続されていないときは、話中音が聞こえます。

2 〔＊〕と〔＃〕を押します。

発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。



3 機能番号を押します。

TEL2 ポートにダイヤルイン番号を設定するときは、11 を押します。

① ①

4 TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。TEL2 ポートに設定するときは、2 を押します。

[*] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

② (TEL2 ポートの場合の例)

5 設定値を押します。

ダイヤルイン番号 "03-1234-9876" を設定するときは、0312349876 を押します。

① ③ ① ② ③ ④ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥

6 [#] を押します。

"ピー" という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー" と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度手順 3 から操作してください。

Ⓜ

7 受話器を置きます。

続けて設定するときは、受話器をあげたまま手順 3 ~ 6 の操作を繰り返します。

設定例1：ダイヤルイン番号を設定する

TEL2 ポートのダイヤルイン番号を " 03-1234-9876 " にする場合の手順。

オフフック (✖) (＃) (1) (1) (2)
(0) (3) (1) (2) (3) (4) (9) (8) (7) (6) (＃)

設定例2：サブアドレスを設定する

TEL1 ポートのサブアドレスを " 123 " にする場合の手順。

オフフック (✖) (＃) (1) (2) (1) (1) (2) (3) (＃)

設定例3：アナログポートを使用制限する

TEL3 ポートに何も接続しない場合の手順。

オフフック (✖) (＃) (1) (4) (3) (0) (＃)

設定例4：フレックスホンを設定する

NTT のコールウェイティングを使用する場合の手順。

オフフック (✖) (＃) (5) (2) (1) (＃)

NTT の通信中転送を使用する場合の手順。

オフフック (✖) (＃) (5) (3) (1) (＃)

NTT の三者通話を使用する場合の手順。

オフフック (✖) (＃) (5) (4) (1) (＃)

TEL2 ポートで NTT の着信転送を使用する場合の手順。

(転送先アドレスは " 03-1234-9876 "、1 回コール後に転送)

オフフック (✖) (＃) (5) (5) (2) (1) (＃)
(5) (6) (2) (0) (3) (1) (2) (3) (4) (9) (8) (7) (6) (＃)
(5) (8) (2) (1) (＃)

設定例 5：話中着信の設定

TEL1 ポートで話中着信を許可する場合の手順。

オフフック ※ 井 3 6 1 1 井

設定例 6：フッキング判定時間を設定する

TEL1 ポートのフッキング判定時間を 1.2 秒に設定する場合の手順。

オフフック ※ 井 4 2 1 1 2 井

設定例 7：識別着信を設定する

03-1234-9876 から TEL 3 ポートへの着信を拒否する場合の手順。

オフフック ※ 井 3 2 3 2 井
3 3 3 0 3 1 2 3 4 9 8 7 6 井

設定例 8：ナンバーディスプレイ対応に設定する

TEL3 ポートをナンバーディスプレイ対応にする場合の手順。

オフフック ※ 井 3 9 3 1 井

設定例 9：RVS-COM 着信拒否に設定する

オフフック ※ 井 6 4 0 井

設定例 10：パスワードを変更する

パスワード " 123 " を " 69 " に変更する場合の手順。

オフフック ※ 井 0 0 1 2 3 ※
6 9 ※ 6 9 井

設定例 11：IP アドレスとネットマスクを新規設定する

IP アドレスを " 192.168.10.1 "、ネットマスクを " 255.255.255.0 " (24 ビット) に新規に設定する場合の手順。

オフフック (※) (＃) (7) (1) (1) (9) (2) (※) (1) (6) (8)
 (※) (1) (0) (※) (1) (＃)
 (7) (2) (2) (5) (5) (※) (2) (5) (5) (※) (2) (5) (5)
 (※) (0) (＃)

- MEMO ● IP アドレスを変更する場合には、「IP アドレスを新規設定・変更
 ● する」(P.152) の注意事項にご注意ください。
 ●

機能一覧表

機 能	機能番号	設 定 値		初期設定値
TEL ポートの ダイヤル番号設定	11	TEL ポート 番号 1 = TEL1 2 = TEL2 3 = TEL3	回線番号または ダイヤルイン番号	番号なし
TEL ポートの サブアドレス設定	12		サブアドレス	番号なし
通信機器の種類設定	13		0 = 指定なし 1 = 電話 2 = FAX (G2/G3)	0
アナログポート 使用制限の設定	14		0 = 使用しない 1 = 発信のみ 2 = 着信のみ 3 = 発信・着信可能	3
発信者番号通知	21		0 = 通知しない 1 = 通知する	0
即時発信	22		0 = 使用しない 1 = 使用する	1
グローバル着信	31		0 = しない 1 = する	1
識別着信	32		0 = しない 1 = 一致時着信 2 = 一致時拒否	2
識別着信の番号登録	33		識別する電話番号	番号なし
サブアドレス なしの着信	34		0 = 拒否 1 = 許可	1
通信機器種別 指定の着信	35		0 = 拒否 1 = 許可	1
話中着信	36		0 = 拒否 1 = 許可	0
優先着信ポート	37		1 = 優先順位 1 位 2 = 優先順位 2 位 3 = 優先順位 3 位	2
着信ベル設定	38		着信ベル番号 1 = パターン1 2 = パターン2	回線番号または ダイヤルイン番号 番号なし
ナンバー ディスプレイ機能	39		0 = 使用しない 1 = 使用する	0
ダイヤル桁の 間隔設定 (秒)	41		1 ~ 59	4
フッキング判定 時間 (1/10 秒)	42		5 ~ 20	10
フッキング後の 操作有効時間 (秒)	43		1 ~ 9	4
フッキング, オン フック無効時間 (秒)	44		1 ~ 3 0 = 全て有効	0
擬似切断信号の設定	45		0 = 送出しない 1 = 送出する	1

機 能	機能番号	設 定 値		初期設定値
コールウェイトニング機能	52	-	0 = 使用しない 1 = フレックスホン 2 = 擬似	2
通信中転送機能	53	-	0 = 使用しない 1 = フレックスホン 2 = 擬似	0
三者通話機能	54	-	0 = 使用しない 1 = フレックスホン 2 = 擬似	0
着信転送機能	55	TEL ポート番号	0 = 使用しない 1 = フレックスホン 2 = 擬似	0
着信転送先番号登録	56		転送先番号	番号なし
着信転送トーク設定	57		0 = なし 1 = 転送先のみ 2 = 転送元のみ 3 = あり	0
着信転送起動タイミング設定	58		0 = 無音転送 1 ~ 10 = コール数	0
着信転送失敗時の動作設定	59		0 = 話中音 1 = 着信ベル	1
送話 PAD の音量設定	61		0 = PAD なし 1 = -3dB 2 = -6dB 3 = -9dB	0
受話 PAD の音量設定	62		0 = PAD なし 1 = -3dB 2 = -6dB 3 = -9dB	0
DTMF 検出レベル	63	(0 = SERIAL)	0 ~ 30	18
RVS-COM 着信許可	64	-	0 = 拒否 1 = 許可	1
アナログ呼出時間	65	-	0 = 呼び出さない 5 ~ 160 = 秒数	15
LAN 側のルータ IP アドレス設定	71	IP アドレス		192*168*0*1
LAN 側のネットマスク設定	72	ネットマスク		255*255*255*0
BOD の設定	73	TEL ポート番号	0 = 使用しない 1 = 使用する	1
アナログポート設定の消去	91		-	-
識別着信の番号削除	92		登録済みの電話番号	-
着信ベルの番号削除	93		着信ベル番号 登録電話番号	-
料金情報の消去	94		-	-
アナログポート設定の全消去	99		-	-
パスワードの設定	00	[旧パスワード]*[新パスワード]*[新パスワード]		-

第5章

使いこなす

この章では、本機をよりよく理解し、より進んだ使いこなしをするために参考となることがらを説明します。

通信料金の調べ方

本機をルータとして使用する場合には、設定とその時の状況に従って自動的に通信を始めることがあるため、意図しない時に通信が行われて通信料金がかかることがあります。そのため、本機では通信を行った通信記録や、その時かかった通信料金を調べることができるようになっています。



注意

次のようなケースでは、通信記録や通信料金を時々調べて、意図しない発信が無いが、また課金額が妥当であるかどうかにご注意ください。

本機を使い始めた時
本機の設定を変更した
パソコンに新しいソフトウェアをインストールした
ネットワークに新しいパソコンや機器を接続した
本機のプログラムをリビジョンアップした、変更した
その他、いつもと違う操作を行った、反応に違いを感じた

- MEMO
- 通信料金は通信の切断時に NTT から ISDN で通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的に NTT から請求される料金とは異なる場合があります。また、NTT 以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されません。
 -
 -
 - なお、プロバイダの使用料金については表示されません。

かんたん設定ページから調べる

本機がLAN接続されている場合、LAN上のパソコンからブラウザを使用して料金を調べることができます。

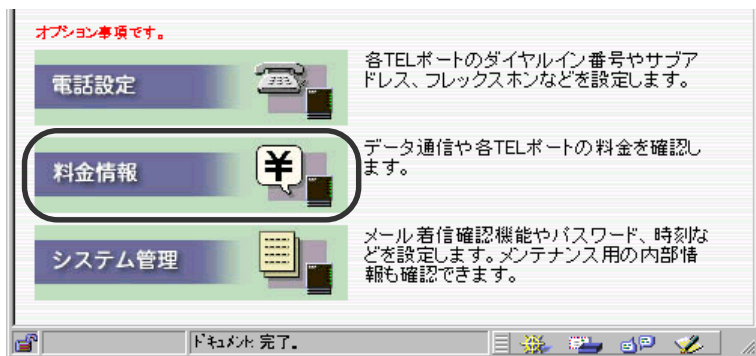
- 1 かんたん設定ページにアクセスします。パソコンのWWWブラウザから、本機のURL(例 -> <http://192.168.0.1/>)を入力して開きます。

- 2 パスワードを入力します。



- 3 「料金情報」を押します。

料金情報は、プロバイダごと、各ポートごとに知ることができます。



4 確認が終わったら「キャンセル」ボタンを押します。

RTA50i

ホームページ 端末型 ネット型 電話 システム

料金情報

回線の使用料金を表示します。
各種割引サービスを使用されますと内容が異なります。
本体の再起動でクリアされますのでご注意ください。

通信種別	最後の通信料金	累積料金	
TEL1ポート	0円	0円	クリア
TEL2ポート	0円	0円	クリア
TEL3ポート	0円	0円	クリア
SERIALポート	0円	0円	クリア
合計	0円		

☒ 全ての累積料金記録を毎月 15 日にクリアする

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 キャンセル

- MEMO
- コンソールから調べる場合には show account コマンドを使用します。
 -
 -

累積金額の活用

課金合計（累積金額）はご購入直後からの累計を意味していますが、それでは月日を重ねるごとに金額が増加していくだけで、今月はいくら使用したかを知ることができません。そんな場合は金額をクリアすることができます。

かんたん設定ページから設定する

- 1 「かんたん設定ページから調べる」(P.119) の手順 1 , 2、3 と同様にして「料金情報」ページにアクセスします。

RTA50i

トップページ 端末型 ネット型 電話 システム

料金情報

回線の使用料金を表示します。
各種制約サービスを使用されますと内容が異なります。
本体の再起動でクリアされますのでご注意ください。

通信種別	最後の通信料金	累積料金
TEL1ポート	0円	0円 <input type="button" value="クリア"/>
TEL2ポート	0円	0円 <input type="button" value="クリア"/>
TEL3ポート	0円	0円 <input type="button" value="クリア"/>
SERIALポート	0円	0円 <input type="button" value="クリア"/>
合計	0円	

☒ 全ての累積料金記録を毎月 15 日にクリアする

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

- 2 「全ての累積料金記録を毎月 日にクリアする」をチェック、更に何日にクリアするかを入力し、「登録」ボタンを押します。

MEMO

- 電源をオフにすると累積金額情報がクリアされることにご注意ください。
- コンソールから設定するには、clear accountコマンドを使用します。このコマンドはshow account コマンドで表示される発着回数や累計金額を0にもどします。0にしたい日にこのコマンドを実行してください。必要であれば、先にshow account コマンドで課金合計をメモしてください。

通信記録の見方

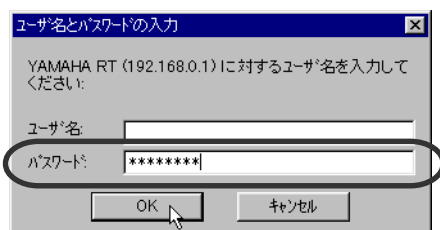
通信記録とは、本機の動作を記録した情報のことです。通信記録はかんたん設定ページにアクセスするか、コンソールを使用して見ることができます。

かんたん設定ページから見る

本機がLAN接続されている場合、LAN上のパソコンからブラウザを使用して通信記録を調べることができます。

1 かんたん設定ページにアクセスします。パソコンのWWWブラウザから、本機のURL(例 -> http://192.168.0.1/)を入力して開きます。

2 パスワードを入力します。



3 「システム管理」を押します。



4 「内部情報」を押します。

RTA50i

トップページ 端末型 ネット型 電話 料金

システム管理

ISDN回線を使用してメールチェックを行なう場合は課金にご注意ください。

メールサーバの登録

4つまで登録できます。メールの着信を確認すると、本体のL1ランプが点滅します。

メールサーバの登録

ルータにアクセスする時のパスワード

● [] 同じものをもう一度 ● []

ルータのISDN番号

ISDN番号 [] サブアドレス []

ルータに設定する日時

☒ 日時を変更しない ☐ 下記指定日時に変更する

1999 年 06 月 17 日 15 時 06 分 23 秒

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容も登録してください。

登録 キャンセル **内部情報** フィルタ設定

5 画面下の「Syslog 表示」を見ます。 年月日、時刻と、記録内容が英文で表示されています。

入力

Syslog 表示 最新情報 ログのクリア

各種状態やバケットのやりとりを表わすものです。「最新情報」ボタンで更新します。ブラウザの再読み込み/更新ボタンでも更新します。

999/06/17 09:54:34: RTA50i Rev.3.03.29 <Thu Apr 1 22:11:19 1999> starts

終了

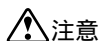
6 確認が終わったら「終了」ボタンを押します。

MEMO ● コンソールから調べる場合には show log コマンドを使用します

課金制限と通信時間制限を設定する

本機は NTT から ISDN 回線を通して通知される課金情報を記録します。

課金情報は 1 回 1 回の通信に対するものと、それらの累積金額を知ることができます。これらの金額の調べ方は「通信料金の調べ方」(P.118)を参照してください。



注意

かんたん設定ページからプロバイダ登録を新規に行うと、課金制限額が 1 万円に自動的に設定されます。また連続通信時間も 9 時間に制限されるように自動的に設定されます。

コンソールコマンドを使用して接続設定を行っても、これらの制限は自動的には設定されないことにご注意ください。

電源をオフにすると料金に関する情報が消えることにご注意ください。

本機はこの課金額と通信時間の両方に対して制限をかけることができます。これにより、通信料金の使いすぎや回線がつながりっぱなしになったまま気づかずにいたというトラブルを軽減することができます。

課金制限を設定

- 1 ブラウザを開いて本機へアクセスします。
[パスワード] 欄にパスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



- 2 [端末型接続]または[ネットワーク型接続]を押します。
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合には第 1、2 章を参照して設定してください。

- 3 プロバイダ名の右の[登録の修正]ボタンを押します。

4 [オプション設定]ボタンを押します。

YAMAHA

端末型接続設定：プロバイダの登録

契約したインターネットプロバイダから通知された情報を設定します。
DNSサーバアドレスの自動取得は、プロバイダが対応している必要があります。

プロバイダ名	PROVIDER	半角32文字分以内
プロバイダの電話番号 1	XX-XXXX-XXXX	半角入力32桁以内
2		〈省略可能〉
3		〈省略可能〉
ユーザID	UserName	半角入力32文字以内
パスワード	*****	半角入力32文字以内
DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する ▼	
プライマリDNSサーバアドレス	10.40.3.22	指定の場合半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	10.40.3.40	〈省略可能〉

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録し、オプション設定

登録 キャンセル **オプション設定**

5 課金制限のボックスをチェックし、金額を設定します。

☐ タイマによる自動切断を禁止する時間帯を指定する

時間帯 00 : 00 ~ 00 : 00

☒ タイマに関係なく連続通信時間 540 分で強制的に切断する
(再発信禁止 15 秒)

課金の制限

課金情報は本体の再起動でクリアされますのでご注意ください。
課金情報はNTTの交換機から通知される情報です。各種制限サービスを使用されると内容が異なりますのでご注意ください。

☒ 課金が 10000 円以上になったら接続を行わない

6 画面下にある[登録]ボタンを押します。

通信時間制限を設定

- 1 ブラウザを開いて本機へアクセスします。
[パスワード] 欄にパスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

YAMAHA RT (192.168.0.1) に対するユーザー名を入力してください:

ユーザー名:

パスワード:

OK キャンセル

- 2 「端末型接続」または「ネットワーク型接続」を押します。
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合には先に設定を行ってください。
- 3 プロバイダ名の右の[登録の修正]ボタンを押します。
- 4 「オプション設定」ボタンを押します。

YAMAHA

端末型接続設定: プロバイダの登録

契約したインターネットプロバイダから通知された情報を設定します。
DNSサーバーアドレスの自動取得は、プロバイダが対応している必要があります。

プロバイダ名	PROVIDER	半角32文字分以内
プロバイダの電話番号 1	XX-XXXX-XXXX	半角入力32桁以内
2		〈省略可能〉
3		〈省略可能〉
ユーザID	UserName	半角入力32文字以内
パスワード	*****	半角入力32文字以内
DNSサーバーアドレス	IPアドレスを指定する ▼	
プライマリDNSサーバーアドレス	10.40.3.22	指定の場合半角入力
セカンダリDNSサーバーアドレス	10.40.3.40	〈省略可能〉

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 キャンセル **オプション設定**

5 連続通信時間と、再発信するときの禁止時間を設定します。

☐ タイマによる自動切断を禁止する時間帯を指定する

時間帯 00 : 00 ~ 00 : 00

☒ タイマに関係なく連続通信時間 540 分で強制的に切断する
(再発信禁止 15 秒)

課金の制限

課金情報は本体の再起動でクリアされますのでご注意ください。

課金情報はNTTの交換機から通知される情報です。各種割引サービスを使用されますと内容が異なりますのでご注意ください。

☒ 課金が 10000 円以上になったら接続を行なわない

6 画面下にある「登録」ボタンを押します。

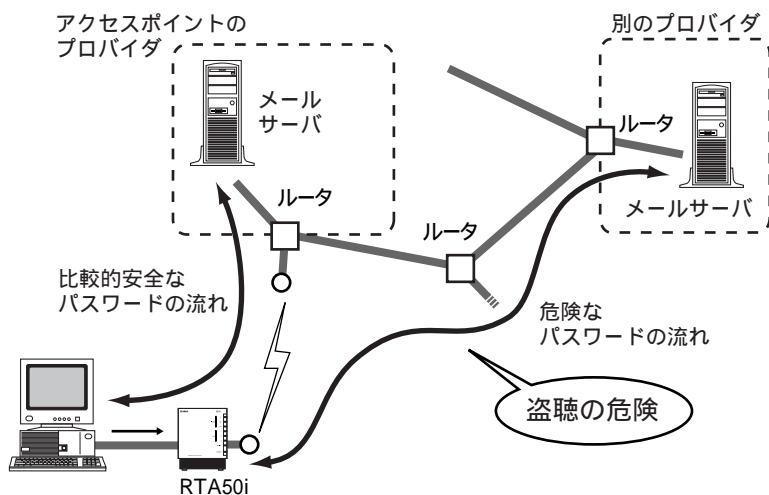
メール着信確認機能

メール着信確認機能は、プロバイダに新しいメールがあるかどうかを確認して、L1ランプを点滅させたり、ブラウザで確かめたりする機能です。対応するプロバイダ等の情報はYAMAHA ISDN ホームページの情報をご覧ください。



注意

プロバイダと接続中の場合、そのプロバイダのメールサーバでないメールサーバに対してこのコマンドが実行されると、パスワード情報などが暗号化されずにインターネット上にまで流れるので十分注意してください。



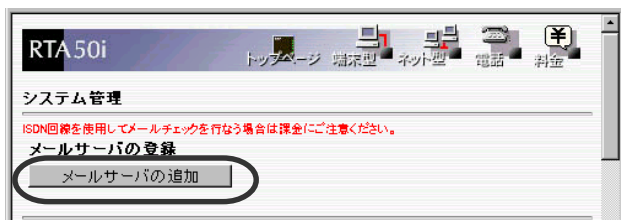
ブラウザからの設定・操作手順

- 1 ブラウザを開いて本機へアクセスします。
[パスワード] 欄にパスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



2 「かんたん設定ページ」が表示されたら、[システム管理]を押します。

3 「システム管理」ページの[メールサーバの追加]ボタンを押します。



4 メールサーバの名称、メールサーバのIPアドレス、ユーザ名、パスワードを入力し、[登録]ボタンを押します。

メールサーバのIPアドレス、ユーザ名、パスワードは、プロバイダから通知されたものを入力してください。

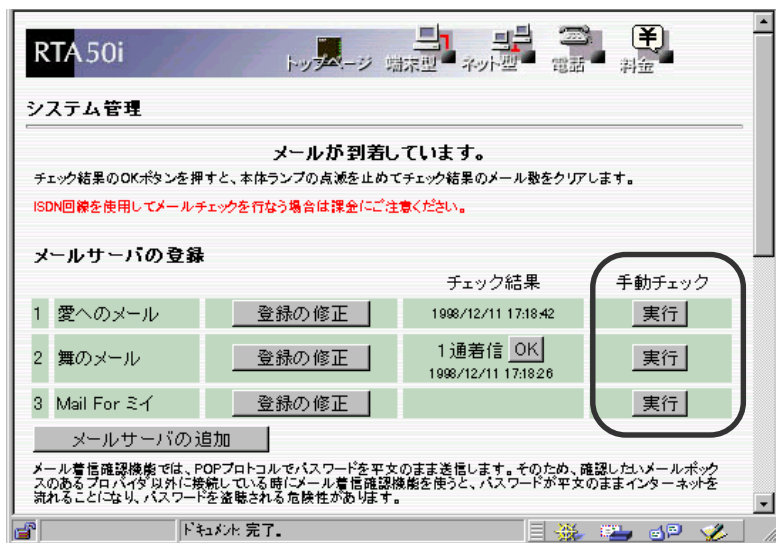
一定時間ごとにメールチェックする場合には、「自動チェック」を「行なう」を選択し、「自動チェック間隔」の時間間隔と指定時刻を入力します。メッセージに従ってボタンを押すと、設定が登録されて「システム管理」ページへ戻ります。

MEMO ● 接続先プロバイダは、[端末型接続]または[ネットワーク型接続]ページで設定したプロバイダになります。

- 5 手動チェックする場合には、登録したメールサーバの名称に対応する「手動チェック」欄の[実行]ボタンを押すと新しいメールがあるかどうかを調べます。

プロバイダへ接続していない時には、チェックを行うためにプロバイダと接続するので通信料金がかかります。

手動チェックでも自動チェックでも、既にプロバイダと接続中の場合、そのプロバイダのメールサーバでないメールサーバに対してこのコマンドが実行されると、パスワード情報などが暗号化されずにインターネット上にまで流れるので注意が必要です。



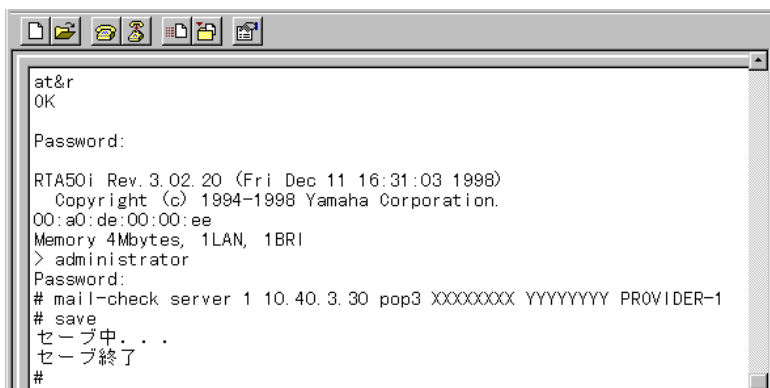
- 6 手動チェックの結果、新しいメールがあるとL1 ランプの点滅で知らせます。自動チェックの場合には指定時刻が来ると自動的にチェックが実行され、新しいメールがあるとL1 ランプの点滅で知らせます。

メールサーバ1に新しいメールがあると、L1 ランプが1回ピカッと光るのを繰り返します。もしメールサーバの1と2に新しいメールがあると、ピカッ...ピカピカッという繰り返しが見えます。なお、サーバ3と4は区別されずにピカピカピカッという点滅で表されます。

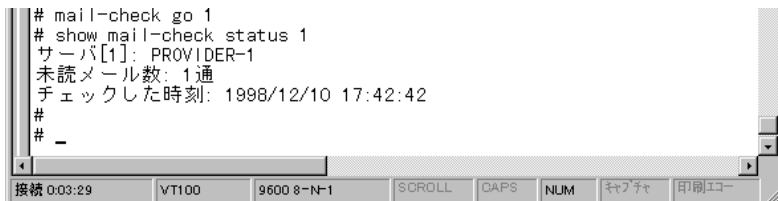
- 7 「チェック結果」欄の[OK]ボタンを押すと、対応したサーバ番号の点滅パターンが消えます。

コンソールからの設定

- 1 本機のコンソールへアクセスします。
コンソールとしては、TELNETによりアクセスするか、SERIALポートに接続したパソコン上でターミナルソフトを開きます。
SERIALポートからログインする場合には、at&r コマンドを入力してコンソールに切り替えます。
- 2 パスワードを入力してログインし、administrator コマンドを実行します。
- 3 mail-check server コマンドを入力してメールサーバの設定を行い、save コマンドを実行して設定内容を保存してください。



- 4 mail-check go コマンドを実行します。
サーバ番号が1の場合にはmail-check go 1となります。
- 5 show mail-check status コマンドで結果を確認します。



- 6 確認が済んだら、mail-check led off コマンドを実行して、L1 LEDの点滅を止めます。

RVS-COM

RVS-COMはドイツのRVS社開発のWindows 95 / 98 / NT4.0用のソフトウェアです。RVS-COMをパソコンにインストールすると、SERIALポートへ接続したパソコンからFAXの送受信を直接行なうことができます。詳しくはRVS-COM製品添付のユーザーズマニュアルを参照してください。国内では、RVS-COMはメガソフト株式会社が取り扱っています。

パソコンの設定について

お使いのパソコンでRVS-COMを使用するためには、パソコンの設定が必要です。具体的な設定手順については製品添付の別紙をご覧ください。
また、RVS-COM 対応に関する最新情報についてはYAMAHA ISDN ホームページのRTA50iに関する下記のページを参照してください。

URL <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RTA50i/index.html>

パソコンからの FAX 送信手順

- 1 パソコンのRVS-COMを起動します。
- 2 送信したいファイルを開き、プリンタに「RVS-COM」を指定して印刷と同じ操作を行います。
- 3 RVS-COMのダイアログに従って相手電話番号などを入力します。

パソコンからの FAX 受信手順

- 1 パソコンのRVS-COMを起動して、FAX受信できる状態にしておきます。
- 2 アナログの着信があると接続してあるアナログ機器の呼出音が鳴ります。

3 15秒経過すると、自動的にアナログ機器の呼出音が切れ、RVS-COM が応答します。

呼出音が鳴っている間に受話器を取り、フッキングしてから[* I 0]を押すと着信はすぐにパソコンへ転送されます。

MEMO ● アナログ機器を呼び出す時間は工場出荷設定で15秒ですが、5秒
● から160秒の間に設定変更できます(P.173)。

パソコンでFAXを受信させない設定手順

1 アナログポートに接続したアナログ電話機の受話器をあげます。
発信音が聞こえます。

2 [*] と [#] を押します。
発信音が止まり、" ツツー、ツツー " という音が聞こえます。



3 6 4 0 を押します。
(もとの設定に戻す場合には、6 4 1 を押します)



4 [#] を押します。
" ピー " という音が聞こえ、RVS-COM の着信を拒否する設定に切り替わります。



5 受話器を置きます。

本機への設定について

本機ご購入直後は電話(アナログ通信)については基本的な通話ができる状態ですが、ルータやTAとしてデータ通信をする場合には一般に何らかの設定が必要となってきます。例えば、プロバイダへの接続にはプロバイダのアクセスポイントの電話番号がわからないと電話をかけることができませんが、ご購入直後の本機はその情報を知る由もないわけです。

(ただし、TA機能だけをご使用になる場合には、パソコン側の通信設定がなされているとすぐに本機につないでお使いになることができます。これは、プロバイダ接続に必要な情報がパソコン側に揃っているからです)

本機への設定を行なうには

次の6つの手段があります。

1. WWW ブラウザから「かんたん設定ページ」へアクセスする
2. 本機の TEL ポートに接続している アナログ電話機からキー操作する
3. SERIALポートへ接続したパソコン上で ターミナルソフトを動作させ、AT コマンドで設定する。(TA機能に関する設定が行なえます)
4. SERIAL ポートへ接続したパソコン上で ターミナルソフトを動作させ、コンソールコマンドを入力して設定する。
5. TELNET を使用して LAN またはインターネット経由でログインし、コンソールコマンドを入力して設定する。
6. ISDN 回線を経由してログインし、コンソールコマンド を入力して設定する(これをリモートセットアップと呼びます)。

1. かんたん設定ページから設定

かんたん設定ページからの設定は、WWW ブラウザが使える方なら簡単に設定を行なえます。通常のホームページを閲覧するようにして、キーボードから数字や文字を入力したり画面上のボタンをクリックすることで設定できるようになっています。

かんたん設定ページで本機のすべての設定を行なうことはできませんが、ルータコンソール用のコマンドをいくつか組み合わせて設定するようなことが、ボタン一つで自動的に行なわれますので、最初はこのかんたん設定ページで設定できることから 本機とつきあっていくのがよいでしょう。

2. アナログ電話機から設定

アナログ電話機からの設定では、かんたん設定ページよりも更に設定できる項目が少なく、かなり限られたものになりますが、その他の手段の設定よりも素早く手軽に設定できるというのが最大のメリットです。

具体的な設定手順は「電話機から本機の電話機能を設定する」(P.111) を参照してください。

3. AT コマンドによる設定

TA機能に関する設定はATコマンドで行ないます。ATコマンドを使用するためには、SERIAL ポートに接続したパソコン上でターミナルソフトと呼ばれるソフトウェアを使って行ないます。Windows95であれば、ハイパーターミナルがターミナルソフトです。Macintosh の場合にはOS 標準のターミナルソフトがありませんので、インターネット上のシェアウェアやフリーウェア、雑誌付録などによく収められているユーティリティなどを使いましょう。FAQ にも関連情報があります。

URL <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RTA50i/index.html>

ターミナルソフトを動かして本機にアクセスする具体的な設定手順は「ターミナルソフトを使う」(P.138) を参照してください。

4-6. コンソールから設定

以下のページを参照してください。

SERIAL ポートから設定する： 「ターミナルソフトを使う」(P.138)

TELNET で設定する： 「パソコンからの TELNET で本機を設定する」(P.144)


ISDN 回線経由で設定する： 「ISDN 回線を介して本機を設定する」(P.146)

工場出荷設定と設定の保存

工場出荷設定について

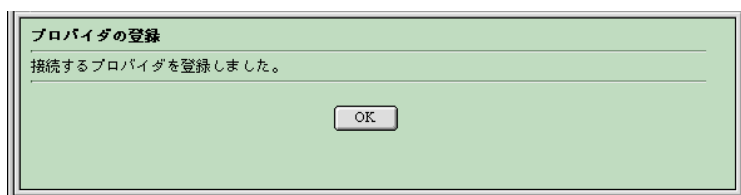
本機は設定内容の保存に不揮発性メモリを使用しています。不揮発性とは電源が切れた状態でも内容が失われないということです。お買い上げ頂いた直後には、工場出荷設定で動作を開始します。工場出荷設定を初期値、デフォルト(default)という場合もあります。工場出荷設定では、ダイヤルアップ接続などを行うことはできず、アナログポートの電話をごく普通に使用することだけができます。

すべての設定内容を破棄したい場合、すなわち工場出荷設定にもどしたい場合には「本機の設定を出荷状態にもどすには」(P.179)を参照してください。

 **注意** 一旦工場出荷設定にもどしたあとに、過去の設定内容を参照することはできません。

設定値の保存について

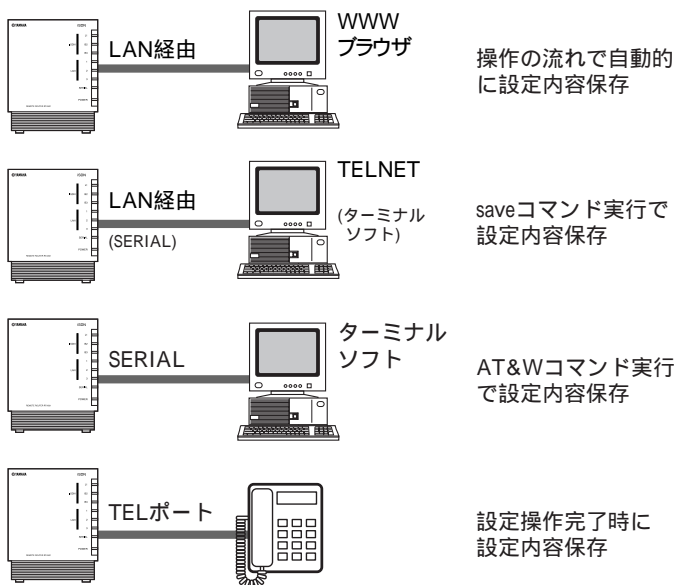
1) 「かんたん設定ページ」を使用して設定を行った場合には、操作手順の中で自然に設定内容の保存が行われるようになっていきます(下図はプロバイダの登録を行った際の確認画面です)。



2) コンソールを使用した設定を行った場合には、コンソールから保存コマンドを実行することで不揮発性メモリへの保存が行われます。コンソールからの保存では、ルータに関する設定の保存だけをおこなうことと、ATコマンドにより設定された設定内容も同時に保存することもできます。

3) ATコマンドを使用してATコマンドに関する設定を行った場合には、それらの設定を保存する AT&W コマンドを実行する必要があります。

4) アナログ電話機から設定を行った場合には、かんたん設定ページの場合と同様に、設定ごとに設定内容の保存が行われます。



ターミナルソフトを使う

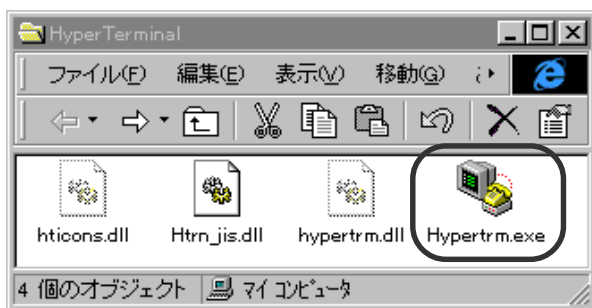
本機の SERIAL ポートにパソコンを接続して本機の設定を行う場合には、ターミナルソフトを使用します。ターミナルソフトは、ATコマンドを使用して本機を設定したり、SERIALポートからコンソールコマンドを使用するためにログインする場合に必要となります。

Windowsでは標準のハイパーターミナルを、Macintoshではフリーソフトなどを使用してください。

ハイパーターミナルを使う

ここでは Windows からハイパーターミナルを使用する手順を説明します。

- 1 パソコンと本機の電源をオフにします。
- 2 パソコンのCOMポートと本機のSERIALポートを付属のシリアルケーブルで接続します。この時にパソコン側のポート名(COM1など)を覚えておいてください。
- 3 パソコンと本機の電源をオンにします。
- 4 スタートメニューの[プログラム]から[ハイパーターミナル]を開き、[Hypertrm.exe]アイコンを開きます。



- 5 名前を入力し、好みのアイコンを選択し[OK]ボタンを押します。



- 6 電話番号ウィンドウの[接続方法]に選択したポートヘダイレクトを選び、[OK]ボタンを押します。



- 7 [ポートの設定]画面では、[ビット/秒]を115200に、[データビット]を8に、[パリティ]を”なし”に、[ストップビット]を1に、[フロー制御]を”ハードウェア”に設定し、[OK]ボタンを押します。



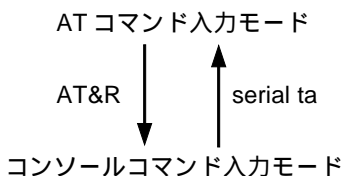
- 8 SERIAL ランプが点灯します。
点灯しない場合には設定を確認してください。

- 9 at と入力しリターンキーを押します。
OK と返ってきます。

- MEMO
- OKが返ってこない場合にはコンソールコマンドの入力待ち状態
 - になっています (serial default コマンドが console に設定されて
 - います)
 -

ハイパーターミナルからの設定と操作

- 1 ATコマンド一覧(P.156)を参照してTA関連のATコマンドを入力します。コンソールコマンドを使用する場合は次の手順に進んでください。TA関連の設定や操作を行った場合はかならずAT&Wを実行して設定内容を保存してください。その後は手順8へ進んでください。
- 2 at&r と入力します。
- 3 もう一度リターンキーを押します。
- 4 パスワードを入力し、リターンキーを押します。
- 5 administrator コマンドを入力します。
- 6 パスワードを入力し、リターンキーを押します。コンソールコマンドを使った設定や操作を行ってください。
設定を変更した場合には必ず save コマンドを実行して設定内容を保存してください。
- 7 quit コマンドを入力して終了します。
ここでATコマンドを入力するモードへ移行するにはserial ta コマンドを実行します。



- 8 ハイパーターミナルの[通信]メニューから[切断]を選びます。
- 9 ハイパーターミナルを終了します。
セッションを保存するウィンドウが現れたら[保存する]を選ぶとアイコンが作成されるので、次回からはこのアイコンを開くと本機へアクセスできます。

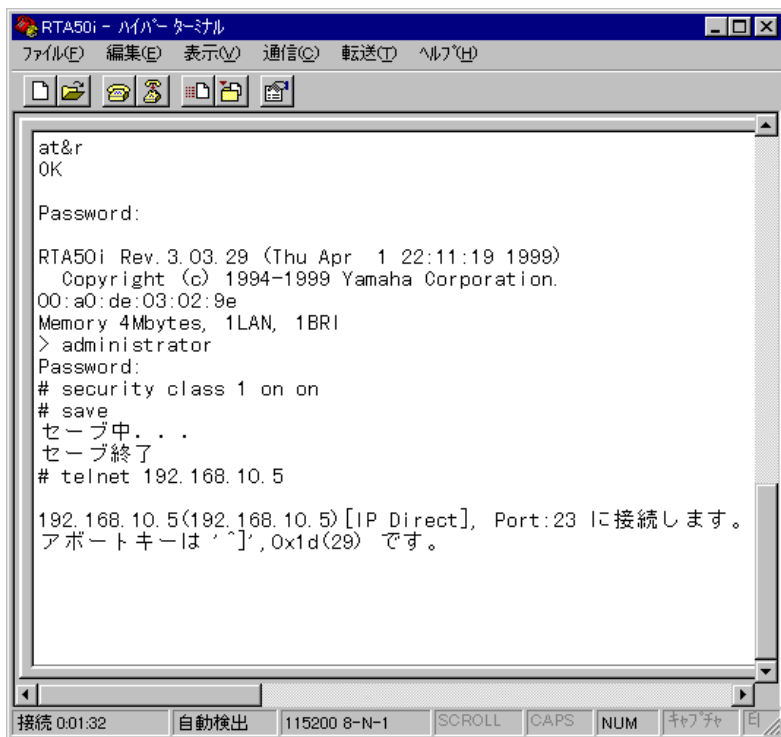
本機から TELNET を使用する

TELNET は、ネットワークに接続されたコンピュータから別のコンピュータを操作するためによく使われる通信方式です。本機の工場出荷設定状態では、別のコンピュータから TELNET を使用してログインできる状態ですが、本機の方から別のコンピュータへ TELNET でログインできる設定になっていません。

TELNET を使用できる状態に設定変更する場合にはコンソールからの設定が必要です。SERIAL ポートからか、ネットワーク上のコンピュータから TELNET でログインしてコンソールコマンドを実行します。

コンソールからの設定

- 1** 本機の IP アドレスを指定してアクセスします。
- 2** リターンキーを押します。Password: と表示されます。
- 3** ログインパスワードを入力します。
- 4** 設定を行なうためには、administrator コマンドを実行します。
- 5** security class コマンドを使用して、TELNET を使用可能に設定します。
- 6** 設定を終了するには quit コマンドを入力します。
- 7** コンソールを終了するには quit コマンドを入力します。



MEMO ● 180 秒間何も操作しないと、本機の方から接続を切断します。

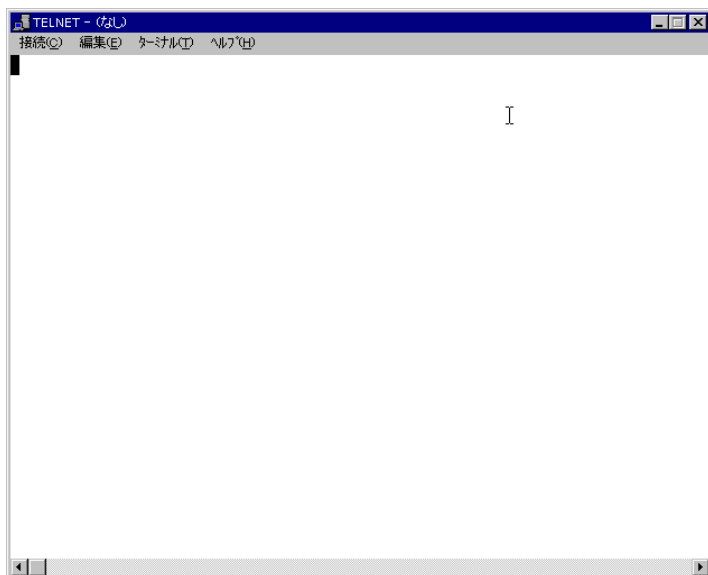
パソコンからの TELNET で本機を設定する

TELNET と呼ばれる通信を使って本機を設定できるのは、すでに LAN が使える状態になっている場合に限られます。TELNET を使用すると、ターミナルソフトを使用した場合とは異なり、ログインの直後からコンソールコマンドが使用できる状態になっています。なお、TELNET 使用中に AT コマンドを使用することはできません。

TELNET でログインする

Windows95 標準の TELNET を使用する場合の例を示します。

1 Telnet.exe を起動します。



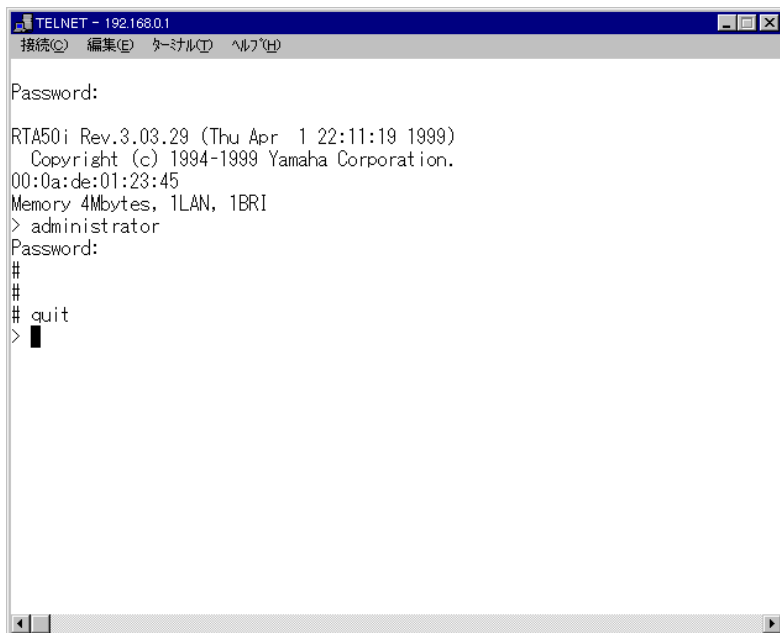
2 [接続]メニューの[リモートシステム]を開き、本機の IP アドレスを入力して[接続]ボタンを押します。



3 Password:と表示されたらログインパスワードを入力します。

何も表示されなければ一度リターンキーを押します。

> の文字が表示されると、各種ルータコンソールコマンドが入力できます。どのようなコンソールコマンドがあるかといった詳細についてはコマンドリファレンスを参照してください。



```
TELNET - 192.168.0.1
接続(C) 編集(E) ターミナル(T) ヘルプ(H)

Password:

RTA50i Rev.3.03.29 (Thu Apr 1 22:11:19 1999)
Copyright (c) 1994-1999 Yamaha Corporation.
00:0a:de:01:23:45
Memory 4Mbytes, 1LAN, 1BRI
> administrator
Password:
#
#
# quit
>
```

- MEMO
- help と入力するとキー操作の説明が表示されます。
 - show command と入力するとコマンド一覧が表示されます。

4 設定を行なうためには、administrator コマンドを実行します。

5 設定を終了するには quit コマンドを入力します。

6 コンソールを終了するには quit コマンドを入力します。

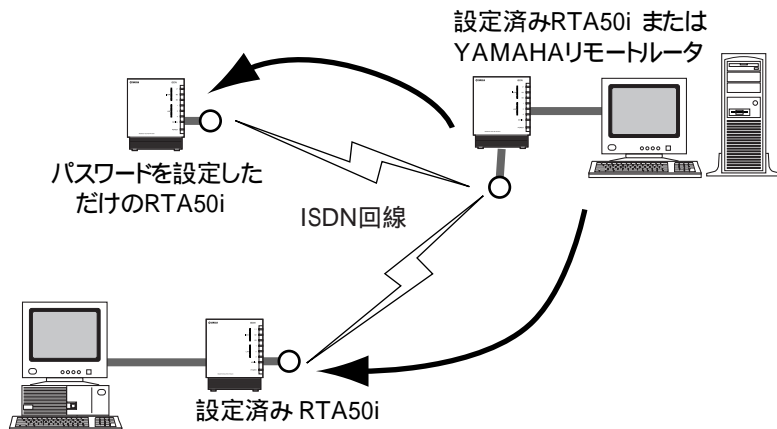
ISDN 回線を介して本機を設定する

遠隔地の RT シリーズルータを ISDN 回線を經由して設定することを「リモートセットアップ」と呼びます。パスワードだけが設定された RTA50i であっても、リモートセットアップにより、ISDN 回線を介して設定することが可能になります。

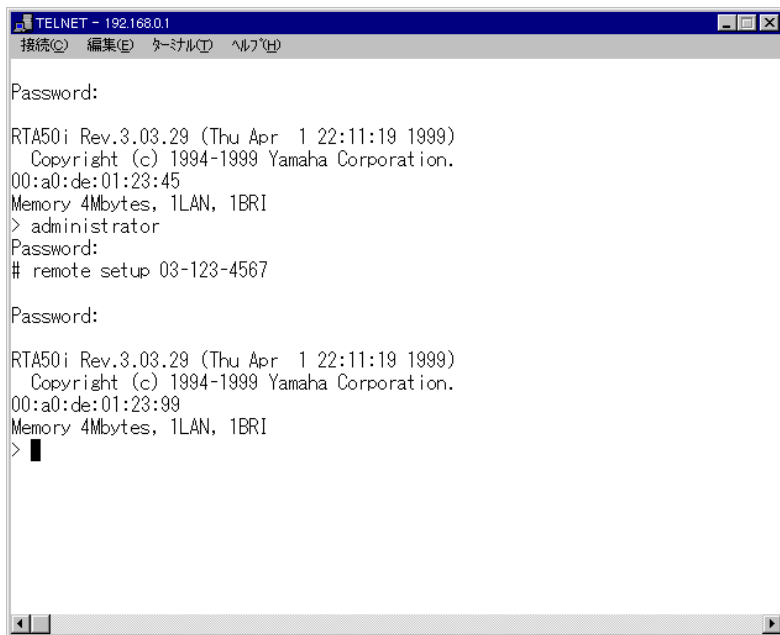
ISDN 回線経由なのでプロバイダに契約していなくてもインターネット接続できなくても構いません。

- MEMO
- リモートセットアップされる側はパスワードが設定されています
 - から、パスワードを知らないと設定することはできません。また、
 - リモートセットアップを許可したり拒否するようにも設定できますので、拒否に設定しおけば、不特定の相手からの侵入を防げます (remote setup accept コマンド P.170)。
 -
 - ヤマハ製リモートルータ以外のルータからリモートセットアップすることはできません。

リモートセットアップはコンソールから行なうことができます。相手の YAMAHA リモートルータへのログインが完了すると、あたかも設定したいルータのコンソールにいるようにコマンドが使用可能になります。



次に、ISDN 番号が 03-123-4567 の RTA50i を設定するためにログインする時の例を示します。



```
TELNET - 192.168.0.1
接続(C) 編集(E) ターミナル(T) ヘルプ(H)

Password:
RTA50i Rev.3.03.29 (Thu Apr 1 22:11:19 1999)
  Copyright (c) 1994-1999 Yamaha Corporation.
00:a0:de:01:23:45
Memory 4Mbytes, 1LAN, 1BRI
> administrator
Password:
# remote setup 03-123-4567

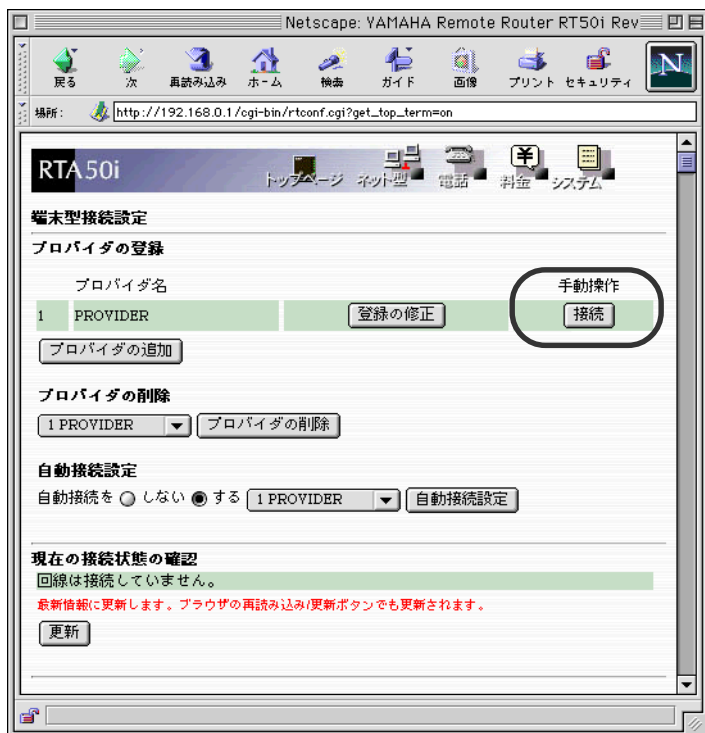
Password:
RTA50i Rev.3.03.29 (Thu Apr 1 22:11:19 1999)
  Copyright (c) 1994-1999 Yamaha Corporation.
00:a0:de:01:23:99
Memory 4Mbytes, 1LAN, 1BRI
> █
```

手動発信と手動切断

本機はデータの流れに基づいて自動的に発信を行います。これをユーザが手動で行うこともできます。また逆に通信中に強制的にユーザが切断させてしまうこともできます。

- MEMO ● プロバイダ登録を済ませていない場合はまず登録設定を行ってください。

- 1 かんたん設定ページにアクセスします。パソコンのWWWブラウザから、本機のURL(例 -> http://192.168.0.1/)を入力して開きます。
- 2 かんたん設定ページ画面に進んだら[端末型設定]を押します。
- 3 手動接続するには[接続]ボタンを押します。
すでに接続されている場合には[切断]ボタンになっています。



パスワードを設定したり変更したりするには

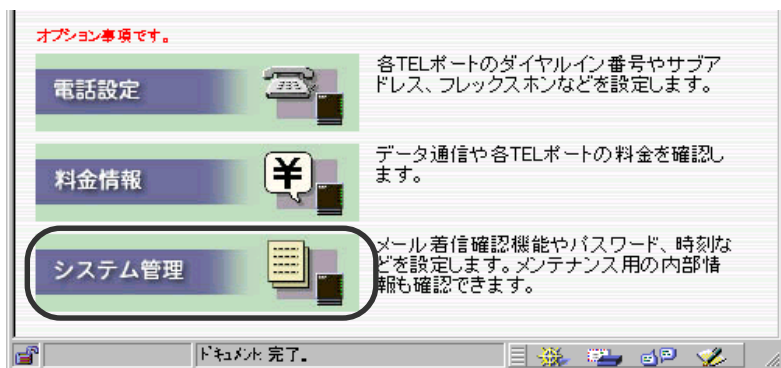
パスワード、すなわち暗証番号が非常に大切なのは言うまでもないでしょう。本機をご購入された直後の状態ではパスワードは設定されていませんが、ご使用になる際には必ずパスワードを設定してください。かんたん設定ページでは、パスワードを入力しないとその先には進めなくなっていますが、最初からコンソールで設定を始めた方も忘れずにパスワードを設定してください。そうしておくことが、その後の安全につながります。また、パスワードは定期的に変更するのがベストです。

本機のパスワードには2種類あります。本機にアクセスする際に必要となる「ログインパスワード」と各種設定を行なう際に必要な「管理パスワード」です。かんたん設定ページでのパスワード設定では「ログインパスワード」も「管理パスワード」のどちらも同じパスワードになります。また、かんたん設定ページでは両方をまとめて単にパスワードと呼んでいます。

両パスワードに使用できるのは、番号すなわち数字だけではありません。8文字以内のASCII文字(いわゆる半角の英数字です)で設定できます。

かんたん設定ページからパスワードを変更

- 1 かんたん設定ページにアクセスします。パソコンのWWWブラウザから、本機のURL(例 -> <http://192.168.0.1/>)を入力して開きます。
- 2 かんたん設定ページ画面に進んだら[システム管理]を押します。



- 3 「パスワード」の部分が「*」になっています。これは、既にパスワードが設定されていることを示しています。この「*」を全て消して、2つの入力欄に同じパスワードを入力します。

- 4 ページ画面下の「登録」ボタンを押します。

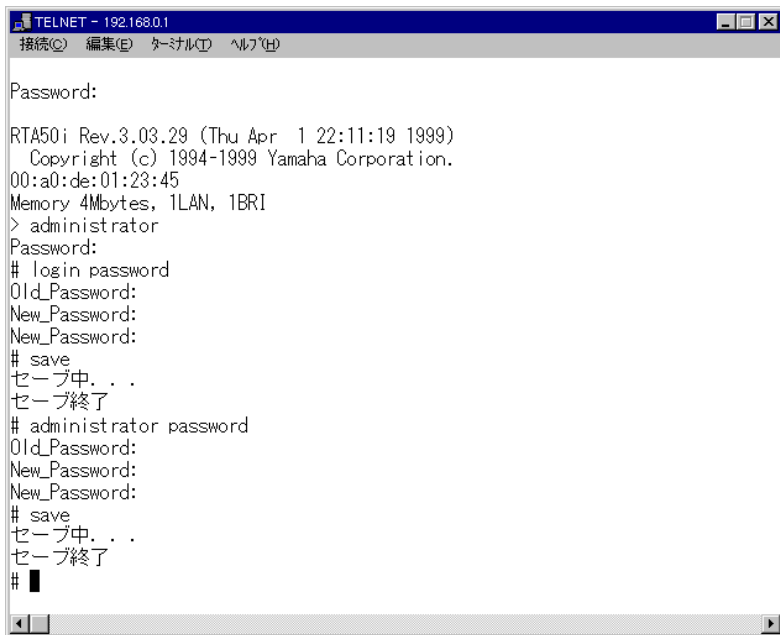
コンソールからパスワードを設定

コンソールからパスワードを設定する場合にはログインパスワードと管理パスワードが区別されることに注意してください。かんたん設定ページでパスワードを設定すると、2つのパスワードは同じものとして設定されています。

- 1 コンソールにアクセスします。
ターミナルソフトを使用するか、TELNET でログインします。
- 2 administrator と入力してリターンキーを押し、パスワードを入力します。
(次ページの図参照)
- 3 login password と入力します。

4 Old_Password: には現在のパスワードを入力してリターンキーを押します。引き続き New_Password: に新しいパスワードを入力してリターンキーを押します。確認のため、これをもう一度繰り返します。

5 save と入力し、設定したパスワードを保存します。
他の設定を行なわないなら quit と入力し、管理ユーザから一般ユーザへもどります。コンソールを終了するならもう一度 quit を入力してください。



```

TELNET - 192.168.0.1
接続(C) 編集(E) ターミナル(T) ヘルプ(H)

Password:

RTA50i Rev.3.03.29 (Thu Apr 1 22:11:19 1999)
Copyright (c) 1994-1999 Yamaha Corporation.
00:a0:de:01:23:45
Memory 4Mbytes, 1LAN, 1BRI
> administrator
Password:
# login password
Old_Password:
New_Password:
New_Password:
# save
セーブ中. . .
セーブ終了
# administrator password
Old_Password:
New_Password:
New_Password:
# save
セーブ中. . .
セーブ終了
#

```

アナログ電話機からパスワードを設定

本機に接続しているアナログ電話機からもパスワードを設定 できます。「電話機から本機の電話機能を設定する」(P.111) を参照してください。

MEMO

- ただし、この場合にはパスワードとして数字しか使用することは
- できません。また、ログインパスワードと管理パスワードは同じ
- として設定されます。パスワードを少しでも破られにくくすると
- いう意味では、かんたん設定ページや、コンソールからの設定を
- お勧めします。

IP アドレスを新規設定・変更する

本機をTCP/IPのネットワークに接続するためにはIPアドレスが必要です。IPアドレスは回線側とLAN側の両方のものがありますが、回線側は通常通信によって自動的に処理されます。LAN側は工場出荷設定でそれぞれ192.168.0.1、255.255.255.0に設定されています。

IP アドレス設定の必要性

本機とパソコン数台程度の規模の環境では工場出荷設定のIPアドレスで運用してください。すでに稼働しているLANに本機を接続する場合やプロバイダから指定されたものを設定する必要がある場合にIPアドレスの設定や変更を行ってください。

本機に新規にIPアドレスを設定する場合は、アナログ電話機からの設定が便利です。この場合は必ずネットマスクも設定してください。



警告

ネットワーク管理者がいる環境では、必ずその管理者の指示に従ってください。適切な管理者がいない場合は、必要に応じて事前に専門家に相談するなどしてください。

グローバルアドレスを設定する場合には、設定の前に使用許可とアドレスの正当性を十分に検討確認してください。

不適切な設定であった場合、設定を変更した瞬間にその被害を被ることになります。最悪の場合、被害はネットワーク全体と接続された機器全体に及ぶことをよく認識してください。被害は直後に起こる通信の不能だけでなく、その復旧作業、設定不足による情報の漏洩や悪意なネットワーク攻撃に対する危険なども視野に入れてください。

本機の設定全体を通して、影響のある設定を列挙理解した上で設定してください。

設定を変更する前に、関係する利用者全員への通知を徹底してください。

通信を正常に停止させてからIPアドレスの変更を行ってください。通信中の設定変更はやむを得ない場合を除き避けてください。

IP アドレスの変更を始める前に次のポイントを確認してください。本機の IP アドレスを変更すると、今まで本機にアクセスしたり本機のネットワーク機能を利用していたりしたコンピュータや他のネットワーク機器側でも設定の変更が必要となる場合があります。

- ・ IP アドレスを本当に変更する必要があるか（別の手段はないか）
- ・ 設定すべき具体的な IP アドレスとネットマスクの確認（グローバルアドレスを設定する場合にはプロバイダや JPNIC による許可が必要です）
- ・ その IP アドレスは将来的に変更する可能性の低いものであるか
- ・ 本機の他の設定に矛盾や間違い、破綻が生じないか

設定・変更手順

IP アドレスを変更する場合には、事前に通信を停止させて通信が途中で切断されないようにします。変更は SERIAL ポートに接続したコンピュータから ISDN 回線を経由したリモートセットアップによって行います。

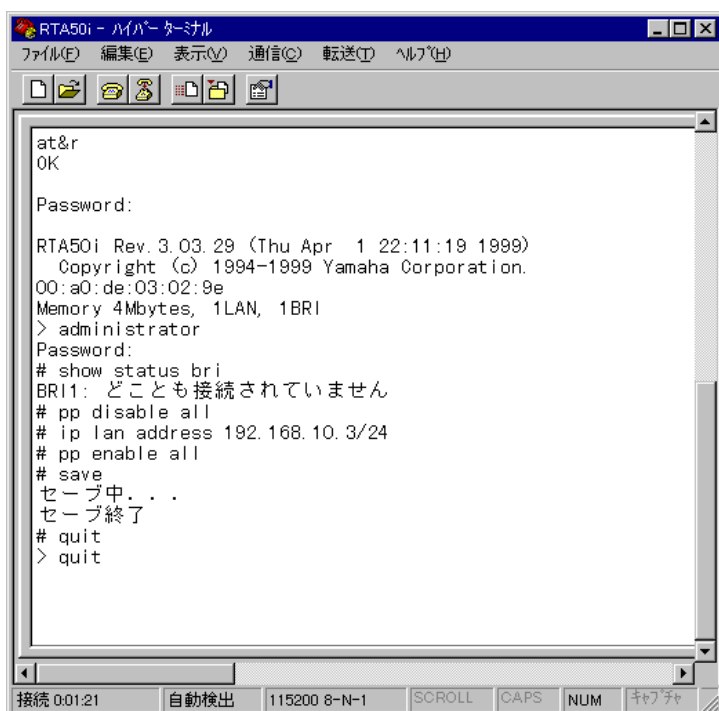


注意 ネットワーク経由の TELNET でも設定は可能ですが、IP アドレスを変更した直後に通信が途切れてしまい保存されません。

ハイパーターミナルを使って SERIAL ポートから設定する手順を次に示します。基本的な使い方は「ターミナルソフトを使う」（P.138）を参照してください。リモートセットアップを使用して設定を行う場合には「ISDN 回線を介して本機を設定」（P.146）を参照してください。コンソールの使用手順についてはいずれもほぼ同じになります。

- 1** コンソールにアクセスします。
かんたん設定ページでパスワードを設定していれば、そのパスワードがログインパスワードです。
- 2** administrator と入力してリターンキーを押し、パスワードを入力します。
（次ページの図参照）
- 3** show status bri コマンドを使用して通信状態を確認します。
通信状態であればタイムアウトして切断するまで待つか、disconnect all コマンドを使用してすべての通信を強制切断します。

- 4 pp disable all コマンドを使用して自動発信機能を停止させます。
- 5 事前に現在の設定値を確認するには show config, show ip lan コマンドを入力します。
- 6 ip lan address コマンドを使用して、LAN 側の IP アドレスとネットマスクを設定します。
- 7 pp enable コマンドを使用して必要な相手先情報を有効にします。
- 8 show config, show ip lan コマンドなどを使用して設定を確認します。
- 9 save と入力しリターンキーを押します。
他の設定を行わないならquitと入力し、管理ユーザから一般ユーザへもどります。コンソールを終了するならもう一度quitを入力してください。
- 10 ハイパーターミナルを終了します。

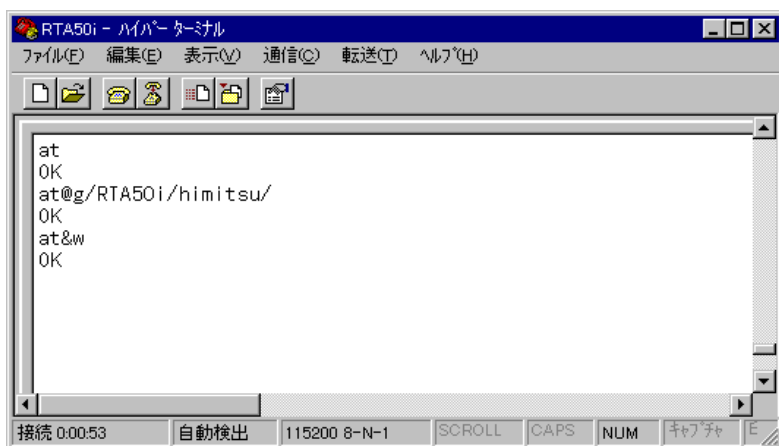


TA 接続による MP

本機をTAとして使用する場合にMP通信を行うためには、第1章で説明した設定の他に、別途、ATコマンドによりプロバイダに接続するためのユーザIDとパスワードの設定が必要です。これらはターミナルソフトを用いて、AT@Gコマンドを使用して設定します。

ハイパーターミナルを使用した設定例を示します。

- 1 スタートメニューの[プログラム]から[ハイパーターミナル]を開き、[Hyperterm.exe]アイコンを開きます。
- 2 AT@G コマンドで、ユーザID、パスワードを設定します。
- 3 AT&W と入力し、設定内容を保存します。
- 4 ターミナルソフトを終了します。



AT コマンド

AT コマンドは、米国 Hayes 社が開発したモデムを使うためのコマンドです。モデムや TA を使用したパソコン通信でよく使われている方式です。

本機を TA として使用してプロバイダにアクセスするための設定を行ったり、実際にプロバイダへ接続したりする場合に使用します。

AT コマンドを使用するためには、本機の SERIAL ポートへパソコンを接続し、そのパソコン上でターミナルソフトと呼ばれるアプリケーションを起動して設定や操作を行います。ターミナルソフトの使用については「ターミナルソフトを使う」(P.138) を参照してください。

AT コマンドに関連した用語としては、リザルトコード、S レジスタ、INF ファイル、CCL ファイル、モデム初期化コマンドなどがあります。

用語	説明
リザルトコード	AT コマンドを実行した結果、パソコンまたは通信相手から返ってくる返事です。
S レジスタ	AT コマンドによる設定や実行結果内容などを保存する記憶場所です。S レジスタには番号があり、番号によって記憶内容や役割が予め決められています。
INF ファイル	ターミナルソフトが本機の使用を開始する際に参照するファイルです。中身は AT コマンドなどで記述されています。
CCL ファイル	Macintosh 用のモデム記述ファイルです。Windows の INF ファイルに相当します。
モデム初期化コマンド	モデムを使用して通信を始める前に自動的にモデムや TA に実行させるコマンドです。INF ファイルや CCL ファイルによる設定以外のオプション設定コマンドなどを記述します。

AT コマンドによる設定

AT コマンドによる設定の流れは一般的に次のようになります。

- 1 ターミナルソフトを起動します。
「ターミナルソフトを使用する」(P.138) を参照してください。
- 2 「AT」とだけキー入力し、リターンキーを押します。
「OK」という文字が表示されるのを確認します。
- 3 AT コマンド一覧 (P.158) を参照しながら、まず AT&V で設定内容を調べ、必要な設定を行います。
- 4 設定した内容を本機に保存するために AT&W と入力します。
- 5 ターミナルソフトを終了します。



注意

手順4の&Wコマンドを実行しないと、設定した内容が不揮発性メモリに保存されないの、電源を切るとその設定内容が失われます。

AT コマンドに関する設定の保存と、ルータ機能に関する設定の保存は同じ不揮発性メモリに対して行われますが、AT コマンドを使用した設定の保存はATコマンドに関する設定に対してだけ行われます。

- MEMO ● なんらかの AT コマンドを実行することで、SERIAL ポートで使用する速度が自動的に設定されます。上の例では手順2がこれにあたります。

次に AT コマンドの使用上の注意を示します。

入力文字： 半角の ASCII 文字だけが使用できます。

先頭文字： AT または at が使用できます。At や aT というように大文字と小文字の混在はできません。

繰り返し： 「A/」または「a/」を入力すると直前のコマンドの繰り返になります。

連続実行： 複数のコマンドを 1 回で入力することができます。例えば、AT&D0 と AT\$M1 は、AT&D0\$M1 と入力できます。

AT コマンド一覧

A 着信に対して応答

実行例 ATA

D 指定された相手に発信

実行例	ATD031234567	03-123-4567 ヘダイヤルする
	ATD031234567;	03-123-4567 ヘダイヤルし、コマンドモードへ
	ATD031234567/123	03-123-4567, サブアドレス 123 ヘダイヤル
	ATDR031234567/123	03-123-4567/123 ヘコールバック要求する
	ATDN	再ダイヤルする
	ATDS=3	短縮 3 番ヘダイヤルする

E コマンド入力に対するエコーの有無の指定

設定例	ATE0	入力されたコマンドをエコーバックしない
	ATE1	入力されたコマンドをエコーバックする (工場出荷設定)

H 切断復旧処理の起動

実行例 ATH

I 製品情報等の表示

実行例	ATI0	製品名表示
	ATI1	ファームウェアのバージョン表示
	ATI2	製造メーカー名を表示する
	ATI3	診断情報等の表示

N 発信時の V.110 回線速度の指定

設定例	ATN0	DTE 速度 (工場出荷設定)
	ATN1	2400 bit/s
	ATN2	4800 bit/s
	ATN3	9600 bit/s
	ATN4	19200 bit/s
	ATN5	38400 bit/s
	ATN6	57600 bit/s

ノート DTE 速度を越える速度が指定された場合はERROR となるので、それ以下の速度の設定を改めて行なう必要がある。

O オンラインコマンドモードからオンラインデータ状態への遷移

実行例 ATO

Q コマンド入力に対する応答の有無の指定

設定例 ATQ0 入力されたコマンドに対する応答あり (工場出荷設定)
 ATQ1 入力されたコマンドに対する応答なし

S S レジスタの値の表示

実行例 ATS30?S レジスタ 30 の値の表示

ノート S レジスタのレジスタ番号([S レジスタの詳細] 参照)

S S レジスタの値の設定

設定例 ATS30=0 S レジスタ 30 の値を 0 に設定

ノート S レジスタのレジスタ番号([S レジスタの詳細] 参照)

V リザルトコードと情報テキストの表示フォーマットの指定

設定例 ATV0 数字形式(numeric form) で出力

ATV1 文字形式(verbose form) で出力 (工場出荷設定)

ノート 数字形式 / 文字形式の対応はリザルトコードセット表を参照

W CONNECT の通信速度の指定

設定例 ATW0 通信速度表示には DTE 速度を使用

ATW2 通信速度表示には回線速度を使用(default)

X CONNECT の通信速度表示とトーン検出の指定

設定例 ATX0 通信速度表示なし、BT 検出なし、DT 検出なし

ATX1 通信速度表示あり、BT 検出なし、DT 検出なし (工場出荷設定)

ATC2 通信速度表示あり、BT 検出なし、DT 検出あり

ATX3 通信速度表示あり、BT 検出あり、DT 検出なし

ATX4 通信速度表示あり、BT 検出あり、DT 検出あり

ノート 表示の詳細はリザルトコードセット表を参照

Z シリアルポートのリセットとユーザプロファイルの読み出し

実行例 ATZ

&C CD 信号線の制御

設定例	AT&C0	常時 ON
	AT&C1	リモート DTE の RS 信号(= 受信キャリア) に応じて変化 (工場出荷設定)

&D DTR 信号の ON から OFF への変化に対する処理

設定例	AT&D0	何もしない
	AT&D1	オンラインモードならばコマンドモードに遷移
	AT&D2	回線切断 (工場出荷設定)
	AT&D3	回線切断、シリアルポートのリセット

&F 工場出荷設定に戻す

実行例	AT&F
-----	------

&K DTE フロー制御

設定例	AT&F0	なし
	AT&F1	RS/CS フロー制御 (工場出荷設定)
	AT&F2	XON/XOFF フロー制御

&N CI 信号線の制御

設定例	AT&N0	着信中に ON (工場出荷設定)
	AT&N1	着信から通信終了まで ON
	AT&N2	着信中に ON(1 秒) と OFF(2 秒) の繰り返し

&Q 発信時のプロトコル選択

設定例	AT&Q0	V.110
	AT&Q1	非同期 / 同期 PPP (工場出荷設定)

&R コンソールコマンド入力状態へ移行

実行例	AT&R
-----	------

&S DSR 信号線の制御

設定例	AT&S0	常時 ON (工場出荷設定)
	AT&S2	リモート DTE の DTR 信号に応じて変化

&V 現在のパラメータとユーザプロフィールの内容の表示

設定例 AT&V0 現在のパラメータとSレジスタの内容の表示
 AT&V1 ユーザプロフィールの内容の表示

&W 現在のパラメータをユーザプロフィールへ保存

実行例 AT&W

&Z 短縮番号の登録

設定例 AT&Z2=031234567 03-123-4567 を短縮2番に登録
 AT&Z9=031234567/12 03-123-4567/12 を短縮9番に登録
 ノート 短縮番号は0から9が使用可能

&Z 短縮番号の表示

実行例 AT&Z 0～9の全ての登録番号表示
 AT&Z5 登録番号5の表示

&Z 短縮番号の削除

実行例 AT&Z3= 登録番号3の削除
 ノート 短縮番号は0から9が使用可能

\$A 直前の通信料金の取り出し(下注参照)

実行例 AT\$A

\$B 累積通信料金表示(下注参照)

実行例 AT\$B

\$C 直前の通信の切断コードの取り出し(下注参照)

実行例 AT\$C

**注意**

電源OFFや再起動により、それまでの課金情報やログがクリアされることに注意。

課金額は通信の切断時にNTTからISDNで通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的にNTTから請求される料金とは異なる場合がある。
 また、NTT以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されない。

\$D 累積通信料金の初期化

 実行例 AT\$D

\$G グローバル着信の有無

 設定例 AT\$G0 グローバル着信しない
 AT\$G1 グローバル着信する (工場出荷設定)

\$H 着信時における HLC による通信可能性確認の有無

 設定例 AT\$H0 HLC が異なる端末からの着信は受け付けない
 AT\$H1 HLC が異なる端末からの着信も受け付ける (工場出荷設定)

\$I 自己アドレス登録時のサブアドレスなし着信の扱いの設定

 設定例 AT\$I0 着信しない
 AT\$I1 着信する (工場出荷設定)

\$L 着信時のリザルトコード RING の表示形式

 設定例 AT\$L0 発信アドレス情報なし (工場出荷設定)
 AT\$L1 発信アドレス情報あり

\$M MP 機能使用の設定

 設定例 AT\$M0 MP 機能は使用不可 (工場出荷設定)
 AT\$M1 MP 機能は使用可

\$N スループット BOD の設定

 設定例 AT\$N0 スループット BOD 使用しない (工場出荷設定)
 AT\$N1 スループット BOD 使用する

\$P 発信者番号通知の有無

 設定例 AT\$P0 発信者番号を通知しない
 AT\$P1 発信者番号を通知する (工場出荷設定)

\$R コールバックの有無

 設定例 AT\$R0 コールバック用の着信を受け付けない (工場出荷設定)
 AT\$R1 コールバック用の着信を受け付ける

\$S 識別着信の有無

設定例	AT\$S0	識別着信しない (工場出荷設定)
	AT\$S1	登録番号と一致時にその着信を拒否
	AT\$S2	登録番号と一致時にその着信を許可

\$V 非同期 / 同期 PPP 変換での制御キャラクタの2バイト文字変換

設定例	AT\$V0	制御キャラクタを2バイト文字に変換しない (工場出荷設定)
	AT\$V1	制御キャラクタを2バイト文字に変換する

\$W 識別番号の登録

設定例	AT\$W2=031234567	識別 2 番 03-123-4567
	AT\$W6=031234567/2	識別 6 番 03-123-4567/2
ノート	識別番号は0から9まで使用可能	

\$W 識別番号の表示

実行例	AT\$W2	識別番号 2 を表示
	AT\$W	0 ~ 9 の全ての登録番号表示
ノート	識別番号は0から9まで使用可能	

\$W 識別番号の削除

実行例	AT\$W2=	識別番号 2 を削除
ノート	識別番号は0から9まで使用可能	

\$Z 自己アドレスの登録

設定例	AT\$Z=031234567	自己アドレス 03-123-4567
	AT\$Z=031234567/9	自己アドレス 03-123-4567/9

\$Z 自己アドレスの表示

実行例	AT\$Z
-----	-------

\$Z 自己アドレスの削除

実行例	AT\$Z=
-----	--------

@A 擬似 LAN 接続用のダイヤル番号の登録

設定例	AT@A=123456789*#
	AT@A=**** (工場出荷設定)

@A 擬似 LAN 接続用のダイヤル番号の表示

実行例 AT@A

@A 擬似 LAN 接続用のダイヤル番号の削除

実行例 AT@A=

@B 擬似 LAN 接続時の IP アドレスの登録

設定例 AT@B192.168.0.240 擬似 LAN 接続用の IP アドレス 192.168.0.240
AT@B0.0.0.0 DHCP 使用 (工場出荷設定)

@C デフォルトのコンソールモードの設定

設定例 AT@C0 コンソール
AT@C1 AT コマンド (工場出荷設定)
ノート 起動時とログインタイマのタイムアウト時、ここで設定されているモードになる

@D DTE 速度未検出時のデフォルト DTE 速度の指定

設定例 AT@D0 DTE 使用不可
AT@D1 2400bit/s
AT@D2 4800bit/s
AT@D3 9600bit/s
AT@D4 19200bit/s
AT@D5 38400bit/s
AT@D6 57600bit/s
AT@D7 115200bit/s (工場出荷設定)
AT@D8 230400bit/s

@F TA での着信の許可 / 不許可の指定

設定例 AT@F0 TA で着信しない
AT@F1 TA で着信する (工場出荷設定)

@G MP 時の CHAP 認証のユーザ名とパスワードの設定

設定例 AT@G/RTA50i/himitsu/ ユーザ名 RTA50i、パスワード himitsu
AT@G?RTA50i?(/123)? ユーザ名 RTA50i、パスワード (/123)
ノート ユーザ名とパスワードは 32 文字以内で設定可能。
ユーザ名やパスワード文字列の中に '/' が含まれる場合は、'=' や '?' 等の文字を区切りとして使用する。

S レジスタの詳細

番号	設定範囲	内容
0	0	自動応答なし
	1 ~ 255	指定回数の呼び出し後に自動応答
	1 回	(工場出荷設定)
1	0 ~ 255	呼出カウント (注：設定不可)
	0 回	(工場出荷設定)
2	0 ~ 127	エスケープシーケンスを構成する文字 (コード)
	43	(工場出荷設定)
3	0 ~ 127	復帰文字(終端文字コード)
	13	(工場出荷設定)
4	0 ~ 127	改行文字コード
	10	(工場出荷設定)
5	0 ~ 127	後退文字(編集文字コード)
	8	(工場出荷設定)
7	1 ~ 50	発信時相手応答待ち時間(注：総合デジタル通信端末等の接続の技術的条件第4条)
	30 秒	(工場出荷設定)
10	0 ~ 255	キャリア断許容時間 (0.1 秒 単位)
	0 秒	(注：キャリア=同期パターン/同期フラグ) (工場出荷設定)
12	0 ~ 255	エスケープシーケンスガードタイム
	50x20m 秒	(20m 秒単位) (工場出荷設定)
20	1 ~ 100	スループット BOD で 2B チャンネル目の接続を始める回線の負荷率 (回線速度に対する % 値)。
	70%	ATS20 を越える負荷が ATS21 回繰り返されると 2B チャンネル目を接続。 (工場出荷設定)

番号	設定範囲	内容
21	1 ~ 100 1 回	スループット BOD で 2B チャンネル目の接続を始める回線の負荷率の回数。ATS20 を越える負荷が ATS21 回繰り返されると 2B チャンネル目を接続。 (工場出荷設定)
22	1 ~ 100 30%	スループット BOD で 2B チャンネル目の切断を始める回線の負荷率 (回線速度に対する % 値)。ATS22 を下回る負荷が ATS23 回繰り返されると 2B チャンネル目を切断。 (工場出荷設定)
23	1 ~ 100 2 回	スループット BOD で 2B チャンネル目の切断を始める回線の負荷率の回数。ATS22 を下回る負荷が ATS23 回繰り返されると 2B チャンネル目を切断。 (工場出荷設定)
30	0 1 ~ 30 10 分	自動切断しない 指定時間内にデータ送受信がなければ切断 (工場出荷設定; 擬似 LAN 接続では無効)
38	0 ~ 255 1x0.1 秒	DTR 許容断時間 (0.1 秒単位) (工場出荷設定)
42	0 ~ 255	現在の DTE-TA 間速度とプロトコル(設定不可)
43	0 ~ 255	現在の TA-TA 間速度とプロトコル(設定不可)
64	0 1 ~ 127 0	データポート用の呼に HLC なし データポート用の呼に HLC あり (コード) (工場出荷設定) (注 : JT-Q931 LLC の高位レイヤ特性識別)
96	1 ~ 255 60 秒	コールバック起動側での着信監視タイマ (工場出荷設定)
97	0 1 ~ 15 0 秒	コールバック被起動側ですぐ折り返し 1 ~ 15 コールバック被起動側で折り返すまでの待ち時間 (工場出荷設定)

S レジスタの S64 の設定値の設定範囲は10 進数で0 から127 までの全ての整数です。その中で決められているものだけを以下の表で示します。

10 進数	16 進数	意味
1	01	電話
4	04	G 2 / 3 F A X
33	21	G 4 F A X
49	31	テレテックス
50	32	ビデオテックス
53	35	テレックス
56	38	メッセージハンドリングシステム (M H S)
65	41	O S I アプリケーション

リザルトコード詳細

数字形式、文字形式のリザルトコードセットによる違いを表に示します。

数字形式	文字形式	ATX0	ATX1	ATX2	ATX3	ATX4
0	OK					
1	CONNECT		-	-	-	-
2	RING (注)					
3	NO CARRIER					
4	ERROR					
6	NO DIALTONE	-	-		-	
7	BUSY	-	-			
10	CONNECT 2400	-				
11	CONNECT 4800	-				
12	CONNECT 9600	-				
13	CONNECT 19200	-				
14	CONNECT 38400	-				
15	CONNECT 57600	-				
16	CONNECT 64000	-				
17	CONNECT 115200	-				
18	CONNECT 128000	-				
19	CONNECT 230400	-				

: 表示される - : 表示されない

MEMO ● AT\$LO に設定すると、文字形式での RING 表示の後ろの発信番号を省略できます。

よく使うコンソールコマンド

本機 でよく使われるコンソールコマンドを参考に列挙します。詳しい説明はコマンドリファレンスを参照してください。

操作に関するコマンド

help コンソールに対する簡易説明の表示

実行例 help

show command コマンド一覧の表示

実行例 show command

cold start 設定の初期化

実行例 cold start 工場出荷時の設定に戻し、設定を保存した後再起動

ノート コマンド実行時に管理パスワードを問い合わせる。

administrator 管理ユーザへの移行

実行例 administrator

ノート コマンド入力後、管理パスワードを入力しなければならない。

telnet TELNET の実行

実行例 telnet 192.168.0.2 192.168.0.2 のホストへ TELNET でログイン

restart 再起動

実行例 restart

ノート コンソールから、またはTFTP により回線種別を切替える設定を行なった場合には再起動が必要となる。

quit 終了

実行例 quit

quit save 不揮発性メモリに保存して終了

pp select 相手先情報番号の選択

実行例 pp select 1 コマンドの設定対象を PP1 にする。

pp enable 相手先の使用許可の設定

実行例	pp enable 2	相手先情報番号 2 を有効にする
-----	-------------	------------------

pp disable 相手先の使用不許可の設定

実行例	pp disable 2	相手先情報番号 2 を無効にする
-----	--------------	------------------

ping PING の実行

実行例	ping 192.168.0.2	192.168.0.2 のホストへ ping を実行する
-----	------------------	------------------------------

設定に関するコマンド

login password ログインパスワードの設定

設定例	login password
-----	----------------

ノート	一般ユーザとしてログインするためのパスワードを設定する。 コマンド入力後、パスワードを問い合わせる。 かんたん設定ページをつかった場合にはログインパスワードと管理パスワードは同じになる。
-----	---

administrator password 管理パスワードの設定

設定例	administrator password
-----	------------------------

ノート	管理ユーザとしてルータの設定を変更する為の管理パスワードを8文字以内で設定する。コマンド入力後、パスワードを問い合わせる。 かんたん設定ページをつかった場合にはログインパスワードと管理パスワードは同じになる。
-----	---

console character コンソールの言語とコードの設定

設定例	console character ascii	ASCII に設定
	console character euc	EUC に設定
	console character sjis	Shift-JIS に設定（工場出荷設定）

date 現在の日付けの設定

設定例	date 1999-04-01	1999 年 4 月 1 日に設定
-----	-----------------	-------------------

time 現在の時刻の設定

設定例	time 23:10:00	23 時 10 分 0 秒に設定
-----	---------------	------------------

save 設定内容の保存

実行例	save	TA に関する設定を除き保存
	save all	全ての設定を保存

tftp host TFTP によりアクセスできるホストの IP アドレスの設定

設定例	tftp host 192.168.0.2	192.168.0.2 のホストからだけアクセスできる
	tftp host any	すべてのホストから TFTP によりアクセスできる
	tftp host none	すべてのホストから TFTP によりアクセスできない (工場出荷設定)

ノート セキュリティの観点から、プログラムのリビジョンアップや設定ファイルの読み書きが終了したらすぐに none にすること。

account threshold 課金額による発信制限の設定

設定例	account threshold 10000	1 万円に制限する
-----	-------------------------	-----------

ノート 電源 OFF や再起動により、それまでの課金情報がクリアされることに注意。課金額は通信の切断時に NTT から ISDN で通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的に NTT から請求される料金とは異なる場合がある。また、NTT 以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されない。
かんたん設定ページをつかった場合には、プロバイダの登録を行うことで自動的に 1 万円に設定される。

remote setup 遠隔地のルータの設定

実行例	remote setup 03-123-4567	03-123-4567 のルータを設定
	remote setup	専用線のルータを設定

remote setup accept 遠隔地のルータからの設定に対する制限

設定例	remote setup accept 03-123-4567	03-123-4567 のルータのみ許可
	remote setup accept any	すべての遠隔地のルータからの設定を許可 (工場出荷設定)
	remote setup accept none	すべての遠隔地のルータからの設定を拒否

料金や内部情報に関するコマンド

show config すべての設定内容の表示

実行例 show config

ノート システムのリビジョンとイーサネットアドレスを表示した後、デフォルト以外に設定されたすべての設定内容を表示する。

show status bri PP 側の状態の表示

実行例 show status bri

clear account アカウントのクリア

実行例 clear account

show account アカウントの表示

実行例 show account

ノート 電源 OFF や再起動により、それまでの課金情報がクリアされることに注意。課金額は通信の切断時に NTT から ISDN で通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的に NTT から請求される料金とは異なる場合がある。また、NTT 以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されない。

show analog account アナログ関係のアカウントの表示

実行例 show analog account

ノート 電源 OFF や再起動により、それまでの課金情報がクリアされることに注意。課金額は通信の切断時に NTT から ISDN で通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的に NTT から請求される料金とは異なる場合がある。また、NTT 以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されない。

show log ログの表示

実行例 show log

ノート 電源を切るとそれまでのログはクリアされる。

clear log ログのクリア

実行例 clear log

TA 機能に関するコマンド

AT コマンドモードからのコンソールコマンド入力状態にもどるためには AT&R コマンドを実行します。コンソールコマンド入力状態から AT コマンドの入力を行なうためには serial ta コマンドを実行します。これらのコマンドの設定値を保存するためには save all コマンドを実行します。

serial ta AT コマンドモードへ切替

実行例 serial ta

ノート 一般ユーザの使用可能。
シリアルポートからのアクセス以外では実行不可能。

serial speed シリアルポートの速度を設定

設定例	serial speed 2400	2400bit/s
	serial speed 4800	4800bit/s
	serial speed 9600	9600bit/s
	serial speed 19200	19200bit/s
	serial speed 38400	38400bit/s
	serial speed 57600	57600bit/s
	serial speed 115200	115200bit/s (工場出荷設定)
	serial speed 230400	230400bit/s

serial default デフォルトのコンソールのタイプを指定

設定例	serial default console	コンソール
	serial default ta	AT コマンド (工場出荷設定)

serial pseudo-lan 擬似 LAN 接続を許可するか否かを設定

設定例	serial pseudo-lan on	許可 (工場出荷設定)
	serial pseudo-lan off	不許可

- MEMO
- ここに列挙した以外のコンソールコマンドについてはコマンドリファレンスを参照してください。
 -

RVS-COM に関するコマンド

analog pad send dte SERIAL ポートでの送話 PAD

設定例 analog pad send dte off （工場出荷設定）

analog pad send dte -3db

analog pad send dte -6db

analog pad send dte -9db

ノート RVS-COM で TEL/FAX 使用時の送話 PAD

analog pad receive dte SERIAL ポートでの送話 PAD

設定例 analog pad receive dte off （工場出荷設定）

analog pad receive dte -3db

analog pad receive dte -6db

analog pad receive dte -9db

ノート RVS-COM で TEL/FAX 使用時の受話 PAD

analog arrive dte permit SERIAL ポートでの着信を許可するか否か

設定例 analog arrive dte permit on 許可する（工場出荷設定）

analog arrive dte permit off 許可しない

analog arrive dte timer アナログ機器を呼び出す時間

設定例 analog arrive dte timer off 即座に着信させる

analog arrive dte timer 15 15 秒後に着信（工場出荷設定）

ノート SERIAL ポートに接続された PC 上で RVS-COM が起動されていなければ無効。5 から 160 秒の間で設定する。

show analog config dte RVS-COM に関する設定の表示

実行例 show analog config dte

メール着信確認機能に関するコマンド

mail-check server メールサーバの設定

実行例	mail-check server 1 clear	サーバ1の設定を消去
	mail-check server 2 clear	サーバ2の設定を消去
	mail-check server 3 clear	サーバ3の設定を消去
	mail-check server 4 clear	サーバ4の設定を消去

設定書式 mail-check server N DESTINATION pop3 USERID PASSWORD [NAME]

ノート メールサーバのIPアドレス等の情報を設定する。

パラメータの詳細は以下のとおり。

- ・ N ... サーバ番号(1..4)
- ・ DESTINATION
メールサーバのIPアドレス
ホスト名
clear ... メールサーバの宛先なし
- ・ USERID ... ユーザID (32文字以内)
- ・ PASSWORD ... パスワード (32文字以内)
- ・ NAME ... 識別名(32文字以内のASCII文字)

mail-check go メールチェックの実行

実行例	mail-check go 1	メールサーバ1をチェック
	mail-check go 2	メールサーバ2をチェック
	mail-check go 3	メールサーバ3をチェック
	mail-check go 4	メールサーバ4をチェック

ノート 結果はL1 LEDの点滅で知らされる。

既に接続中のプロバイダにないメールサーバに対してこのコマンドを実行すると、パスワード情報などが暗号化されずにインターネット上に流れるので注意が必要。

mail-check led off メールチェックによるL1ランプの消灯

実行例	mail-check led off	全てのサーバに対して消灯
	mail-check led off 1	サーバ1に対して消灯
	mail-check led off 2	サーバ2に対して消灯
	mail-check led off 3	サーバ3に対して消灯
	mail-check led off 4	サーバ4に対して消灯

show mail-check status メールチェックの状態表示

実行例	show mail-check status 1	サーバ 1 の状態を表示
	show mail-check status 2	サーバ 2 の状態を表示
	show mail-check status 3	サーバ 3 の状態を表示
	show mail-check status 4	サーバ 4 の状態を表示

mail-check timeout メールチェックタイムアウトの設定

設定例	mail-check timeout 1 30	サーバ 1 を 30 秒に設定（工場出荷設定）
	mail-check timeout 2 30	サーバ 2 を 30 秒に設定（工場出荷設定）
	mail-check timeout 3 30	サーバ 3 を 30 秒に設定（工場出荷設定）
	mail-check timeout 4 30	サーバ 4 を 30 秒に設定（工場出荷設定）
ノート	メールサーバに対するアクセスに時間がかかる場合には、この値を大きくする。秒数は 1 秒から 180 秒まで設定できる。	

第6章

困ったときは

ここでは、うまくつながらないときや設定が変更できないときなどの対処方法と、製品のサポートについて説明しています。困ったときや故障かなと思ったときは、まずこのページをお読みになり、対処してください。

通信がつながらない

ランプ表示のトラブル

ランプがひとつも点灯していない

- ・電源スイッチがオンになっていることを確認してください。
- ・電源コードはコンセントに接続されていることを確認してください。
- ・コンセントに電気がきているか確認してください。

POWER ランプが点滅している

- ・停電中でないかを確認してください。
- ・本機のコンセントが外れていないか確認してください。

SERIAL ランプが点灯しない

- ・両側の固定ネジがしっかりしまっているか、本機側、パソコン側共に確認してください。
- ・Windows 95 の場合は、接続したシリアルポートが有効になっているか、コントロールパネルの設定および BIOS の設定を確認してください。
- ・SERIAL ランプは、通信中のみ点灯および点滅します。ケーブルを接続しただけでは、点灯しません。

接続した LAN ポートの LAN ランプが点灯しない

- ・LAN3 = のポートに接続していないか確認してください。
パソコンのネットワークボードおよび HUB の UPLINK ポートの場合は、LAN3 x のポートに接続してください。HUB の通常ポートの場合は、LAN3 = のポートに接続してください。
- ・LAN ケーブル(青)が使われているか確認してください。ISDN ケーブルのときは、取り替えてください。
- ・本機側、パソコンおよび HUB 側共にコネクタを一旦外し、もう一度カチッとロックするまで差し込んでください。
- ・HUB やパソコンの電源がオンになっているか確認してください。

ISDN L1 ランプが点灯していない

- ・ ISDN U ポートに接続している場合は本機の電源をオフにし、DSU スイッチを OUT 側、極性反転スイッチを逆側にしてから電源スイッチをオンにしてください。
- ・ ISDN S/T ポートに接続している場合は本機の電源をオフにし、DSU スイッチを IN 側、接続されている機器のターミネータスイッチが1つオンになっているか確認してください。
- ・ 電話局側の回線が開通しているか確認してください。
- ・ 本機の電源をオフにし、「本機の設定を出荷状態にもどすには」(P.179)を行ってください。

インターネット接続時のトラブル

プロバイダに電話をかけ始めない

- ・ パソコンを再起動し、アクセスできるか確認してください。
- ・ Windows95 の場合は、「TCP/IP のアドレスをリセットする」(P.180)を行ってください。
- ・ RTA50iかんたん設定ページでルータにプロバイダの情報が設定されているか確認してください。
- ・ RTA50iかんたん設定ページでルータの自動接続機能がオンになっているか確認してください。
- ・ 本機をTAとして使っている場合は、Windows95ではダイヤルアップネットワークの設定、MacintoshではPPPまたはFreePPPの設定が正しく保存されているか確認してください。

プロバイダに電話をかけているが、つながらない。

- ・ プロバイダの通信速度とISDN対応電話番号が合っているか確認してください。番号違いやアナログ専用アクセスポイントの電話番号の場合は接続できません。
- ・ ユーザIDとパスワードが合っているか確認してください。
- ・ モデム設定のポート通信速度を低くしてアクセスできるか確認してください。
- ・ ネームサーバ (DNS) 情報に余計な情報が設定されていないか確認してください。
- ・ Macintoshの場合は、TCP/IPの経路先が正しく設定されているか確認してください。
- ・ Windows95で専用線接続の場合は、ゲートウェイ情報にルータのアドレスが設定されているか確認してください。

プロバイダにはつながっているが、ホームページが表示されない。

- ・ ルータのネームサーバアドレスが正しいか確認してください。
- ・ 本機をルータとして使用している場合、各パソコンのネームサーバアドレス設定に本機の IP アドレスを入力し、パソコンを再起動してください。
- ・ WWWサーバやネームサーバが運休しているかもしれませんので、しばらく時間を置いてからアクセスし直してください。

RTA50i かんたん設定ページのトラブル

RTA50i かんたん設定ページが見つからない。

- ・パソコンを再起動して、もう一度開いてください。
- ・Windows95 の場合は、「TCP/IP のアドレスをリセットする」(P.180) を行ってください。
- ・Macintosh の場合は、TCP/IP の経由先が Ethernet、アドレス取得先が DHCP サーバになっているか確認してください。
- ・ルータの IP アドレスを変更した場合は、ルータと LAN に接続しているすべてのパソコンを再起動してください。再起動またはオフにできないときは、パソコンを 1 台だけルータに接続し、それ以外の LAN ケーブルを取り外してから、ルータとパソコンの電源をオンにしてください。
- ・パソコンの IP アドレスを固定した場合は、他のパソコンと IP アドレスが重なっていないか確認してください。

RTA50i かんたん設定ページのパスワードが通らない。

- ・すでにパスワードが設定されているときは、ルータ管理者にご相談ください。
- ・設定したパスワードを忘れてしまったときは、「本機の設定を出荷状態にもどすには」(P.179) を行ったあと、ルータの設定をはじめからやり直してください。設定内容が元にもどってしまう。
- ・RTA50i かんたん設定ページで設定を変更したときは、必ず [登録] ボタンを押して設定を保存してください。[登録] ボタンを押さないままページを閉じると、設定内容は保存されません。

電話のトラブル

電話がかけられない。

- ・アナログ機器の接続や電源を確認してください。
- ・B1 ランプと B2 ランプが点灯しているときは、2 チャンネル共使用中です。アナログ機器は 3 つ接続できますが、同時に使えるのは、ルータや TA 機能での接続も含めて 2 台までです。
- ・アナログポートに実際に接続した機器と設定ページのアナログポート設定内容が合っているか確認してください。

電話が着信しない。

- ・RTA50i かんたん設定ページを開き、着信設定の内容を確認してください。
- ・着信転送機能が「使用する」になっている場合は、「使用しない」に設定してください。
- ・アナログ機器を接続していない TEL ポートは、電話機能設定の「アナログポート使用制限の設定 (機能番号 14)」を「使用しない」に設定してください。(P.111)

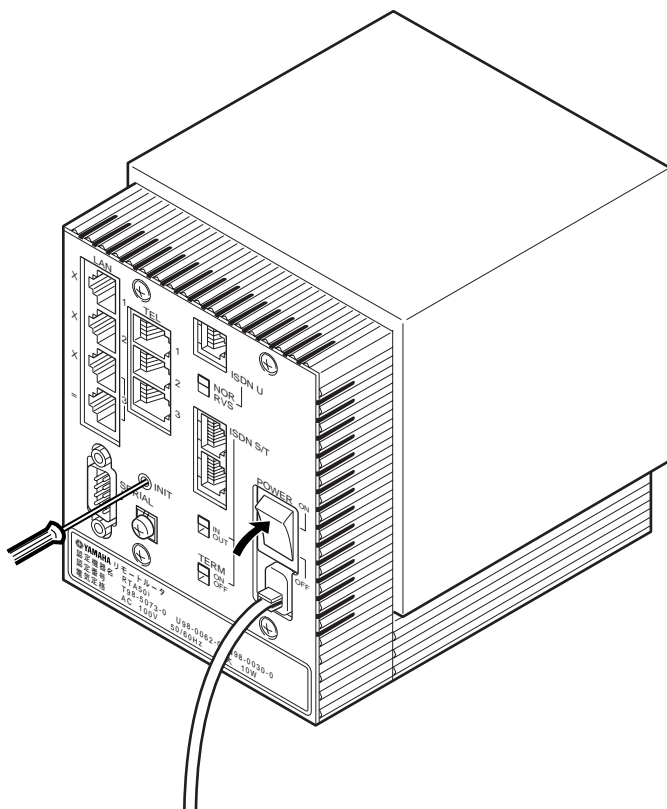
本機の設定を出荷状態にもどすには

本機の設定内容を出荷状態にもどしたいときは、次の操作を行ってください。

1 本機の電源スイッチをオフにします。

2 "INIT"スイッチを先の細いもので押しながら、電源スイッチをオンにします。

設定ページで設定した内容が、出荷時の設定内容にもどります。設定はすべてクリアされますので、最初からやり直してください。



TCP/IP のアドレスをリセットする

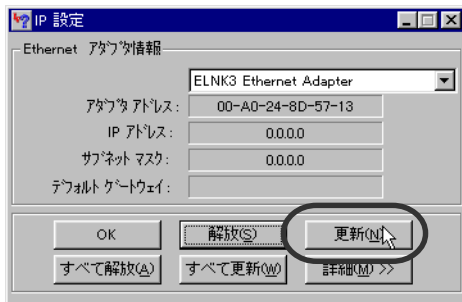
LANやインターネットへのアクセスができないときは、LAN内ローカルIPアドレスの重複が原因の場合があります。そのときは、次のような操作を行ってください。

Windows 95 の場合

- 1 起動ディスクの Windows フォルダ内にある [Winipcfg.exe] アイコンを開きます。
現在の TCP/IP 設定値が表示されます。
- 2 [解放] ボタンを押します。
現在の設定値が消去されます。



- 3 [更新] ボタンを押します。
他のパソコンと重複しない IP アドレスに更新されます。



Macintosh の場合

- 1 Macintosh を再起動します。
割り当てられていたローカル IP アドレスがリセットされます。

製品のサポートとサービスについて

本機の保証サービスについて

本機や本機の付属品に不良があった場合は、すぐにご購入の販売店へご連絡ください。また、通常のご使用で故障が発生した場合は、保証期間中は無償にて修理いたします。ご購入の販売店またはヤマハサービス窓口へご連絡ください。また保証期間後は、有料にて修理いたします。

なお、保証期間中の修理には、保証書が必要です。ご購入時に「お買い上げ年月日」と「販売店名」の記入をご確認の上、保証書をお受け取りください。保証書がない場合は、保証期間内であっても有料となります。

保証期間： ご購入から1年間

ご質問・お問い合わせについて

本機に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

RTA50i サービス窓口

ヤマハ株式会社 システム機器事業部 RTA50i 担当

〒438-0192 静岡県磐田郡豊岡村松之木島203

TEL: 0120-808384

リビジョンアップについて

本機に内蔵のファームウェアは、専用のユーティリティソフトウェアを使ってリビジョンアップすることができます。本機に関する情報提供やリビジョンアップデータの配布は、次の方法で行っております。

ホームページ

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>

<http://Netvolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

FTP サーバ

<ftp.rtpro.yamaha.co.jp>

付録

ここでは、CD-ROMに収録されているマニュアルを読むためのソフトウェアのインストール方法や本機の仕様などについて説明しています。

Acrobat Reader について

付属のCD-ROMに収録されているPDF形式の説明書を読むときは、"Acrobat Reader"が必要です。パソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROM から Acrobat Reader をインストールしてください。

Acrobat Reader のインストール

Windows 95 の場合

- 1 付属のCD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブ内の [Utility] - [Acrobat] フォルダの [ar32j30a.exe] を開きます。
インストーラのウィンドウが開いたら画面のメッセージに従い、Acrobat Reader をインストールします。

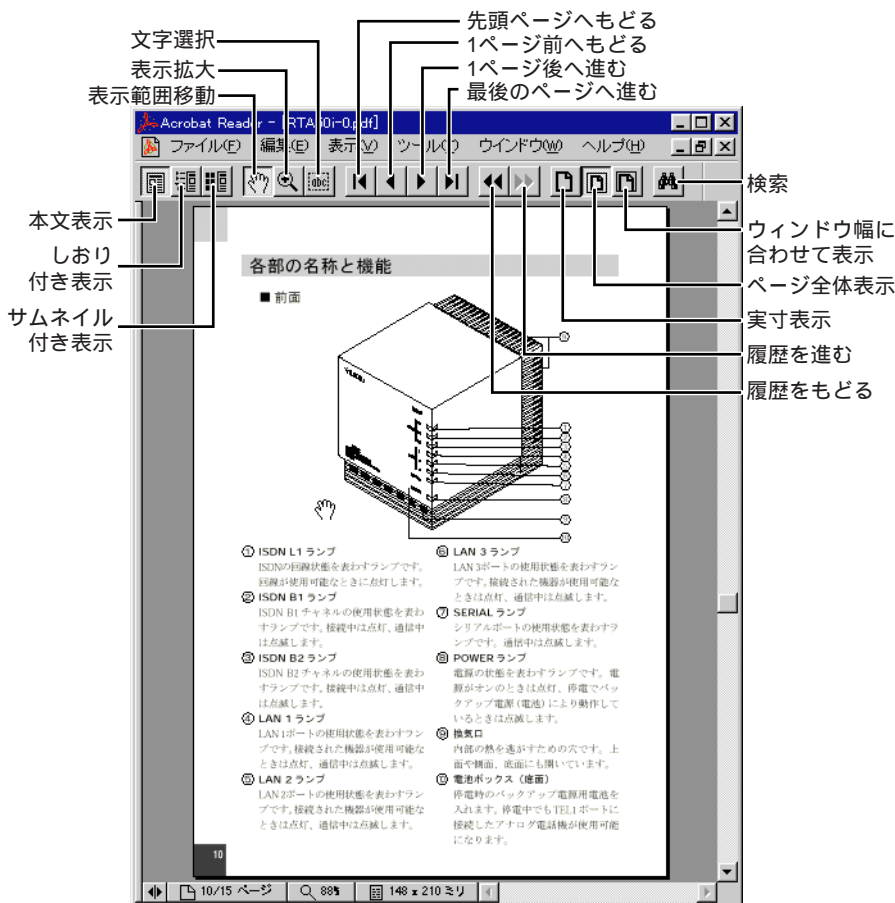
Macintosh の場合

- 1 付属のCD-ROMをセットし、CD-ROMドライブ内の[ユーティリティ] - [Acrobat 3.0J Reader] フォルダの [Reader 3.0J Installer] アイコンを開きます。
インストーラのウィンドウが開いたら画面のメッセージに従い、Acrobat Reader をインストールします。

Acrobat Reader の使いかた

本機の説明書は、Windows 95ではCD-ROMの[Manual]フォルダ、MacintoshではCD-ROMの[マニュアル]フォルダ内に収録されています。PDF形式の説明書のアイコンを開くと、「AcrobatReader」ウィンドウに説明書が表示されます。

Acrobat Readerには、次のような機能ボタンがあります。詳しい操作の説明については、Acrobat Readerのヘルプをご覧ください。



ブラウザのインストール

本機の設定を変更するときやHTML形式の説明書を読むときは、ブラウザを使います。パソコンにブラウザがインストールされていないときは、付属のCD-ROM からブラウザをインストールしてください。

Windows95 の場合

- 1 付属のCD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブ内の [Utility] - [Netscape] フォルダの [cc32e405.exe] を開きます。
ブラウザインストーラのウィンドウが開いたら画面のメッセージに従い、ブラウザをインストールします。

Macintosh の場合

- 1 付属のCD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブ内の [ユーティリティ] - [Netscape_JA_4041_PPC] - [Netscape Installer] フォルダの [Netscape Installer] アイコンを開きます。
ブラウザインストーラのウィンドウが開きます。画面のメッセージに従い、ブラウザをインストールします。

仕様

寸法	104(W) x 131mm(H) x 130mm(D) (突起物を除く)
質量	約 800g (乾電池を除く)
電源電圧、周波数	AC100V(50/60Hz) 停電時は内蔵単 3 型乾電池 x8 動作可能
最大消費電力	約 10W
動作環境条件	周囲温度 0 ~ 40 周囲湿度 15 ~ 85%(結露しないこと)
保管環境条件	周囲温度 -20 ~ 50 周囲湿度 10 ~ 90%(結露しないこと)
LAN インタフェース	イーサネット 10BASE-T x 1 10BASE-T ハブ 3 ポート (UP-link ポート付き)
WAN インタフェース	ISDN またはデジタル専用線 (RJ-11, DSU 機能内蔵) x 1
S/T インタフェース	入出力切替可能(RJ-45) x 2
シリアルインタフェース	非同期シリアル(RS-232C, D-sub9 ピン) x 1 2.4, 4.8, 9.6, 19.2, 38.4, 57.6, 115.2, 230.4 kbit/s
TA 機能	非同期通信速度 2.4, 4.8, 9.6, 19.2, 38.4, 57.6 kbit/s 速度整合方式 JT-V110 準拠
アナログインタフェース	2 線式(RJ-11) x 3 PB, DP(10PPS, 20PPS) 自動認識
表示機能	LED x 8 (L1, B1, B2, LAN1, LAN2, LAN3, SERIAL, POWER)

英数字

Acrobat Reader	182	ダイヤルアップルータ接続	50
の使いかた	183	ローカルアクセスサーバ	62
AT コマンド	156	MacTCP	29, 60
一覧	158	MP	25, 31, 155
CCL ファイル	156	NAT 機能	17
DHCP サーバ	50	NOR/RVS スイッチ	12
DSU スイッチ	14, 21, 43, 71	OCN エコノミー	68
FAX	86, 132	Opentransport/PPP . 31, 32, 38, 62, 63,	66
FreePPP	32, 39, 63, 67	PB (トーン)	89
FTP サーバ	181	POWER スイッチ	14
IN/OUT スイッチ	12	POWER ランプ	12, 21, 43, 71
INF ファイル	156	PPP	36, 61, 64
INIT スイッチ	13, 179	RVS-COM	132, 173
IP アドレス	16, 79	SERIAL ポート	13, 56
の新規設定・変更	152	SERIAL ランプ	12, 21
IP アドレス変換機能	15	Syslog	123
ISDN B1 ランプ	12	S レジスタ	156
ISDN B2 ランプ	12	詳細	165
ISDN L1 ランプ	12, 128	TA	18, 172
ISDN S/T ポート	14, 20, 42	TCP/IP	14
ISDN U ポート	14, 18, 40	TEL ポート	13
ISDN 回線契約	18, 40	TELNET	143, 144, 168
ISDN ケーブル	20, 42, 70	TERM スイッチ	12
ISDN のサービス	84	Windows 95 の設定	
LAN 1 ランプ	12	シリアルポート接続	22
LAN 2 ランプ	12	専用線接続	72
LAN 3 ランプ	12	ダイヤルアップルータ接続	44
LAN 型ダイヤルアップ	17	ローカルアクセスサーバ	57
LAN ケーブル	40, 68		
LAN ポート	13		
LAN ランプ	43, 71		
Macintosh の設定			
シリアルポート接続	30		
専用線接続	80		

ア行

アース端子	13
インターネット	16
に接続する	37, 55, 85

カ行

課金制限	124
各部の名称	10
活用ガイド	3
換気口	12
かんたん設定ページ	1, 108

機器の接続

LAN 接続	42
アナログ機器	88
専用線接続	70
シリアルポート接続	20
擬似 LAN 機能	25, 56
擬似フレックスホン	87
擬似コールウェイティング	95
擬似通信中転送	97
擬似着信転送	102
擬似三者通話	99
擬似	

極性反転スイッチ	14, 21, 43, 71
コマンドリファレンス	3
コールウェイティング	86, 95
工場出荷設定	136
コンソールコマンド	168

サ行

サービス窓口	181
サブアドレス通知	86
三者通話	86, 99
仕様	185
手動発信	148
手動切断	148
シリアルケーブル	20
シリアルポート	56
設定	134
の保存	136

設定例集	3
製品サポート	181
専用線	17
専用線契約	68
専用線接続	68

タ行

ターミナルソフト	139
ターミネータスイッチ ..	14, 21, 43, 71
ダイヤルアップ接続設定	
Macintosh	32
Windows95	26
ダイヤルアップルータ	38
ダイヤルイン	86
代理応答	94
端末型ダイヤルアップ	17
端末型ダイヤルアップ契約	19, 41
着信転送	86, 102
の解除・セット	106
通信記録	122
通信時間制限	124
通信中転送	86
通信中着信サービス	86
通信料金	118
停電バックアップ	13
デジタルアクセス 64	68
電源ケーブル	14
転送する	87
電池ボックス	12, 13
電話機	86
電話	86
のトラブル	178
をうける	91
をかける	90
機能設定	111

トーン	89
トラブル	176

ナ行

内線	92
をかける	92
を転送する	93
内部情報	123
認定機器名	13
認定番号	13
ネットワークアドレス	79
ネットワーク機能設定	
Macintosh	30, 50, 62, 80
Windows95	22, 44, 57, 72
トラブル	95

ハ行

ハイパーターミナル	139
発信者番号通知	86
パスワード	128, 149
の保存	61, 63
バックアップ電池	15
フッキング	89
ブラウザのインストール	184
フレックスホン	87
ブロードキャストアドレス	79
ホームページ	181
保証サービス	181

マ行

メール着信確認機能	128, 174
モデム設定	23
モデム初期化コマンド	156

ヤ行

ユーザ間情報通知	86
----------------	----

ラ行

リザルトコード	156
詳細	167
リセット	179
リビジョンアップ	181
リモートセットアップ	146, 170
料金情報通知	86
累積金額	121
のクリア	121
ルータ	16
IP アドレス	73
専用線接続設定	81
ダイヤルアップ接続設定	46, 49, 79
ログイン	144
ローカルIP アドレス	17
リセット	180

ワ行

話中着信音	95
-------------	----

ヤマハ株式会社

